

Adobe® Bridge® CC ヘルプ

一部のリンク先のページではコンテンツが英語のみの場合があります。

2014 年 6 月



新機能

このページにリンクされている一部のコンテンツは英語でのみ表示される場合があります。

Adobe Bridge CC の新機能

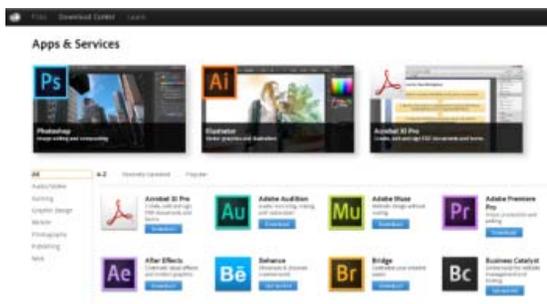
[インストール](#)
[HiDPI サポート](#)
[Bridge CC で利用できない機能](#)

インストール

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge CC の新機能

Adobe Bridge は別個のインストーラーとして使用できるようになり、他のアプリケーションと一緒にインストールされなくなりました。Adobe Bridge をインストールするには、Adobe Bridge を個別にダウンロードしてインストールする必要があります。このように他の Adobe アプリケーションから分離されたため、他のアプリケーションの展開に依存せず、Adobe Bridge の独立した配信が可能になりました。



ダウンロードセンターから Bridge をダウンロードしてインストールします。

1. Creative Cloud には、<http://creative.adobe.com> からサインインします。
2. 上部のバーでダウンロードセンターをクリックします。
3. Bridge のアイコンの隣にあるダウンロードをクリックします。
4. Bridge の製品ページで、ダウンロードをクリックします。

HiDPI サポート

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge CC の新機能

高解像度ディスプレイ技術の進歩を活用するため、Adobe Bridge には、高解像度ディスプレイのネイティブサポートが含まれています。この機能は、現在 Mac OS（例えば、Retina ディスプレイ搭載の MacBook Pro）で使用できます。高解像度のディスプレイを備えたデバイスで、よりシャープで鮮やかなユーザーインターフェースを使用して作業できます。パネル内のサムネールもはるかに鮮明です。テキストや複雑なアートワークもより明確に表示され、以前よりも鮮やかなカラーや色相で表示されます。

Bridge CC で使用できない機能

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge CC で使用できない機能

以下の機能は、このバージョンの Adobe Bridge では使用できなくなりました。

- Adobe Output Module
- 書き出しパネル
- コンパクトモード
- 3D ファイル形式のサムネールとプレビュー
- 同期ウィンドウ

Adobe Output Module

コンタクトシート、PDF および Web ギャラリーを作成する機能は、Creative Cloud の購読に含まれる Adobe Photoshop および Adobe Lightroom で利用できます。

- コンタクトシートや PDF を作成するには、次の参照先を参照してください。
 - [Lightroom でのコンタクトシートの印刷](#)
 - [Photoshop でのコンタクトシートと PDF プレゼンテーション](#)
- Adobe Lightroom を使用して Web ギャラリーを作成するには、[Web ギャラリーの作成](#)を参照してください。

書き出しパネル

Flickr.com や Facebook.com などのオンラインサービスに画像の書き出すなど、書き出しパネルのすべての機能は、Adobe Lightroom から利用できます。詳しくは、[写真の書き出し](#)を参照してください。

コンパクトモード

コンパクトモードは、このバージョンの Adobe Bridge では使用できなくなりました。ただし、アプリケーションウィンドウのサイズを変更して小さくする場合、以前のコンパクトモードと同様にパネルは再配置されます。アプリケーションウィンドウをもう一度最大化すると、パネルは前の状態に戻りません。

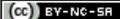
3D ファイル形式のサムネイル

Adobe Bridge のこのバージョンでは、3D ファイル形式のサムネイルやプレビューは生成されません。

同期ウィンドウ

Adobe Bridge のこのバージョンでは、同期ウィンドウ機能は利用できません。

「新規ウィンドウ」コマンド（ファイル／新規ウィンドウ）を使用して、Bridge ウィンドウの別のインスタンスを開くことができます。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

CS6 の新機能

コンタクトシートの印刷

[Mini Bridge でのフィルムストリップ表示](#)

[Camera Raw 処理の改善](#)

コンタクトシートの印刷

[ページのトップへ](#)

コンタクトシートは、単一のページに一連のサムネールを表示することで、画像のグループを簡単にプレビューできるようにします。コンタクトシート II コマンドを使うと、サムネールの作成とページへの配置を自動的に行うことができます。

Photoshop CS6 でコンタクトシート II プラグインを開くには、Adobe Bridge でツール/Photoshop/コンタクトシート II を選択します。

Mini Bridge でのフィルムストリップ表示

[ページのトップへ](#)

Photoshop® CS6 および InDesign® CS6 の新しいデザインの Mini Bridge パネルでは、写真のスクロールや参照が簡単なフィルムストリップ表示を利用できます。

Mini Bridge は、Photoshop ウィンドウの下端に連結されたパネルとして、または InDesign の通常パネルとして表示されます。

詳しくは、Mini Bridge を参照してください。

Camera Raw 処理の改善

[ページのトップへ](#)

簡易化された基本タブのスライダーがハイライトおよびシャドウのレンダリングを改善します。ホワイトバランス、ハイライト、シャドウ、ノイズリダクション、およびモアレには追加の部分修正が利用可能です。

新規画像または処理バージョン 2012 (PV2012) に変換した処理済画像を使って、新しい基本スライダーおよび部分補正オプションを参照してください。画像を変換するには、画像プレビュー領域の右下角にあるエクスクラメーションマークアイコンをクリックします。

詳しくは、Camera Raw でのカラー調整および色調調整、Camera Raw での部分補正および Camera Raw でのプロセスバージョンを参照してください。

ビデオチュートリアル

- [Learn Photoshop CS6](#)
- [Adobe Bridge CS6 とは](#)

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Adobe Bridge

このページにリンクされている一部のコンテンツは英語でのみ表示される場合があります。

Adobe Bridge について

Adobe Creative Cloud、または Adobe Creative Suite® 6 および CS5 コンポーネントで提供されている Adobe® Bridge を使用すると、印刷、Web およびビデオのコンテンツの作成に使用するアセットを整理できます。Adobe Bridge では、アドビ製品のネイティブファイル（PSD や PDF など）だけでなく、アドビ製品以外のファイルにも簡単にアクセスできます。必要に応じて、レイアウト、プロジェクトまたは作品にアセットをドラッグしたり、ファイルをプレビューしたりできます。また、メタデータ（ファイル情報）を追加できるため、ファイルの検索が容易になります。

ファイルの参照 Adobe Bridge では、画像、ページレイアウト、Adobe PDF およびダイナミックメディアファイルの表示、検索、並べ替え、フィルター処理、管理および操作ができます。ファイル名の変更、ファイルの移動と削除、メタデータの編集、画像の回転、バッチコマンドの実行も可能です。デジタルスチルカメラやビデオカメラから取り込んだファイルおよびデータを表示することもできます。[ファイルの表示と管理](#)を参照してください。

Mini Bridge Adobe Photoshop®、Adobe InDesign® および Adobe InCopy® では Mini Bridge パネルを使用してアセットを参照および管理できます。Mini Bridge は Adobe Bridge と連携してサムネールを作成し、ファイルを最新の状態で保ちます。Mini Bridge を使用すると、ホストアプリケーション内でのファイル操作がより簡単になります。Mini Bridge を参照してください。

Camera Raw Adobe Photoshop、Adobe Lightroom または Adobe Creative Suite がインストールされている場合は、Adobe Bridge で Camera Raw ファイルを開いて保存できます。画像は、Photoshop や Lightroom を起動したり、ある画像から別の画像へ設定をコピーしたりしなくても、Camera Raw ダイアログボックスから直接編集できます。Photoshop がインストールされていない場合でも、Adobe Bridge で Camera Raw ファイルをプレビューできます。[Camera Raw の使用](#)を参照してください。

カラーマネジメント Creative Cloud のメンバーである場合、または、Adobe Creative Suite 6 または CS5 の任意のエディションを持っている場合、Adobe Bridge を使用して、カラーマネジメントされた Adobe Creative Suite コンポーネントのカラー設定を同期することができます。この同期によって、すべての Adobe Creative Suite コンポーネントで一貫したカラー表示を行えます。カラーの管理を参照してください。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Adobe Bridge の起動

[Adobe 製品からの Adobe Bridge の起動](#)

[Adobe Bridge から最後に開いた Adobe 製品に戻る](#)

[Mini Bridge から Adobe Bridge への切り替え](#)

[Adobe Bridge の直接起動](#)

[Adobe Bridge の自動起動](#)

[Adobe Bridge を表示するまたは隠す](#)

Adobe Bridge は直接起動できるほか、任意の Adobe 製品（After Effects、Captivate®、Encore®、Flash® Professional、InCopy、InDesign、Illustrator®、Photoshop および Premiere® Pro）からも起動できます。

Adobe 製品からの Adobe Bridge の起動

[ページのトップへ](#)

- 次のいずれかの操作を行います。
 - ファイル／参照またはファイル／Bridge で参照を選択します（選択可能な場合）。

注意：After Effects または Adobe Premiere Pro でファイル／Bridge で参照を選択して Adobe Bridge を起動した場合、ファイルをダブルクリックすると、ネイティブのアプリケーションではなく、Adobe Bridge を参照している Creative Suite 5 コンポーネントでファイルが開くか、読み込まれます。例えば、Adobe Premiere Pro でファイル／Bridge で参照を選択し、Photoshop ファイルをダブルクリックした場合は、ファイルは Photoshop で開かず、Adobe Premiere Pro のプロジェクトパネルに追加されます。
 - アプリケーションバーの Adobe Bridge ボタン  をクリックします。

Adobe Bridge から最後に開いた Adobe 製品へ戻る

[ページのトップへ](#)

- ファイル／[コンポーネント]に戻るを選択するか、アプリケーションバーにある [コンポーネント]に戻るボタン  をクリックします。

Mini Bridge から Adobe Bridge への切り替え

[ページのトップへ](#)

- (Photoshop、InDesign、InCopy) Mini Bridge パネルの一番上にある Bridge に移動ボタン  をクリックします。

Adobe Bridge の直接起動

[ページのトップへ](#)

- (Windows) スタートメニューのプログラムから Adobe Bridge を選択します。
- (Mac OS) アプリケーション/Adobe Bridge フォルダーにある Adobe Bridge アイコン  をダブルクリックします。

Adobe Bridge の自動起動

[ページのトップへ](#)

ログインするたびに Adobe Bridge を自動的にバックグラウンドで実行するように設定できます。Adobe Bridge をバックグラウンドで実行する場合、Adobe Bridge を使用するまでは必要なシステムリソースの量は抑えられています。

- ログイン時に自動的に起動するように Adobe Bridge を設定するには、次のいずれかの操作を行います。
 - 初回に Adobe Bridge を起動したときに、ログイン時に Adobe Bridge を自動的に起動するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
 - Adobe Bridge の環境設定ダイアログボックスの詳細設定パネルで、「ログイン時に Bridge を起動」を選択します。
 - (Windows) Adobe Bridge が開いているときに、システムトレイの Adobe Bridge アイコンを右クリックし、「ログイン時に Bridge を起動」を選択します。

注意： Adobe Bridge がバックグラウンドで実行されていると、Adobe の他のアプリケーションやプラグインのインストールが妨げられる場合があります。その場合は、Adobe Bridge を終了してください。go.adobe.com/kb/ts_cpsid_50680_ja-jp を参照してください。

Adobe Bridge を表示するまたは隠す

[ページのトップへ](#)

- (Windows) 操作モードを切り替えるには、次のいずれかの操作を行います。
 - Adobe Bridge を開くには、システムトレイの Adobe Bridge アイコンを右クリックし、「Bridge を表示」を選択します。
 - Adobe Bridge をバックグラウンドで実行するには、ファイル／Bridge を隠すを選択します。
 - Adobe Bridge をバックグラウンドで実行するには、システムトレイの Adobe Bridge アイコンを右クリックし、「Bridge を隠す」を選択します。
- (Mac OS) 操作モードを切り替えるには、次のいずれかの操作を行います。
 - Dock 内の Adobe Bridge アイコンをクリックし、「表示」または「隠す」を選択します。
 - Adobe Bridge をバックグラウンドで実行するには、Adobe Bridge で Adobe Bridge / Adobe Bridge を隠すを選択します。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Adobe Bridge ワークスペース

ワークスペースの概要

パネルの調整

お気に入りの操作

ワークスペースの選択と管理

明るさとカラーの調整

コンパクトモードでの操作 | CS6、CS5

カラーの管理

言語設定の変更

起動スクリプトの有効化

環境設定の復元

ワークスペースの概要

[ページのトップへ](#)

Adobe® Bridge ワークスペースは、様々なパネルが含まれる 3 つの列（ペイン）から構成されています。パネルを移動またはサイズ変更して、Adobe Bridge ワークスペースを調整します。カスタムワークスペースを作成したり、あらかじめ作成された Adobe Bridge ワークスペースの中から選択したりできます。



Adobe Bridge ワークスペース

A. アプリケーションバー B. パネル C. 選択したアイテム D. サムネイルスライダー E. 表示ボタン F. 検索

以下に Adobe Bridge ワークスペースの主要なコンポーネントを示します。

アプリケーションバー フォルダー階層内の移動、ワークスペースの切り替え、ファイルの検索などの基本的な作業用のボタンが表示されます。

パスバー 表示中のフォルダーのパスが表示され、ディレクトリを参照できます。

お気に入りパネル 頻繁に参照しているフォルダーに簡単にアクセスできます。

フォルダーパネル フォルダーの階層構造が表示されます。フォルダーの参照に使用します。

フィルターパネル コンテンツパネルに表示されるファイルを並べ替えたりフィルタリングしたりできます。

コレクションパネル コレクションやスマートコレクションを作成および検索し、開くことができます。

コンテンツパネル アプリケーションバーの移動用ボタン、パスバー、お気に入りパネル、フォルダーパネルまたはコレクションパネルで指定した場所のファイルが表示されます。

書き出しパネル (CS6、CS5) Web アップロード用の JPEG として写真を保存します。

プレビューパネル 選択したファイルのプレビューが表示されます。プレビューは、コンテンツパネルに表示されるサムネール画像とは別個に、通常はサムネール画像よりも大きく表示されます。パネルのサイズを変更して、プレビューを縮小または拡大することができます。

メタデータパネル 選択したファイルのメタデータ情報が表示されます。複数のファイルを選択した場合は、ファイル間に共通するデータ (キーワード、作成日、露出設定など) が表示されます。

キーワードパネル 画像にキーワードを指定して、画像を整理できます。

出力パネル (CS6、CS5) PDF ドキュメントや、HTML または Flash® の Web ギャラリーを作成するオプションが含まれます。出力ワークスペースが選択されているときに表示されます。

パネルの調整

[ページのトップへ](#)

パネルを移動したり、サイズを変更したりして Adobe Bridge ウィンドウを調整することができます。ただし、Adobe Bridge ウィンドウの外にパネルを移動することはできません。

- 次のいずれかの操作を行います。
 - パネルのタブをドラッグして、別のパネルに移動します。
 - パネルの間にある区切り線をドラッグして、パネルの大きさを変更します。
 - パネルとコンテンツパネル間にある縦の区切り線をドラッグして、各パネルやコンテンツパネルのサイズを変更します。
 - Tab キーを押して、中央のパネル以外のすべてのパネルの表示と非表示を切り替えます (中央のパネルは選択したワークスペースによって異なります)。
 - ウィンドウメニューを選択し、表示 / 非表示を切り替えるパネルの名前を選択します。
 - パネルのタブを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Mac OS) し、表示するパネルの名前を選択します。

お気に入りの操作

[ページのトップへ](#)

- お気に入りの環境設定を指定するには、編集 / 環境設定 (Windows) または Adobe Bridge CS6 / 環境設定 (Mac OS) を選択します。「一般」をクリックし、環境設定ダイアログボックスの「お気に入りに表示する項目」セクションで適切なオプションを選択します。
- お気に入りに項目を追加するには、次のいずれかの操作を行います。
 - エクスプローラー (Windows)、Finder (Mac OS) または Adobe Bridge のコンテンツパネルやフォルダーパネルから、お気に入りパネルにファイルやフォルダーをドラッグします。
 - Adobe Bridge でファイル、フォルダーまたはコレクションを選択し、ファイル / お気に入りに追加を選択します。

お気に入りパネルから項目を削除するには、項目を選択し、ファイル / お気に入りから削除を選択します。または、項目を右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Mac OS) し、コンテキストメニューから「お気に入りから削除」を選択します。

ワークスペースの選択と管理

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge では、パネルの特定の構成またはレイアウトのことをワークスペースと言います。既製のワークスペースを選択することも、自分で保存しておいたカスタムワークスペースを選択することもできます。

Adobe Bridge の様々なワークスペースを保存することによって、複数のワークスペースをすばやく切り替えながら作業することができます。例えば、1 つのワークスペースを使用して新しい写真を並べ替え、別のワークスペースを使用して After Effects のコンポジションのフッターファイル进行操作します。

Adobe Bridge には、次のような設定済みのワークスペースが各種用意されています。

出力 (CS6、CS5) お気に入り、フォルダー、コンテンツ、プレビューおよび出力の各パネルを表示します。このワークスペースは、Adobe Bridge の環境設定で、Adobe Output Module スタートアップスクリプトを選択している場合にのみ使用できます。

メタデータ コンテンツパネルをリスト表示で表示し、さらにお気に入り、メタデータ、フィルターおよび書き出しの各パネルを表示します。

初期設定 お気に入り、フォルダー、フィルター、コレクション、書き出し、コンテンツ、プレビュー、メタデータおよびキーワードの各パネルを表示します。

フィルムストリップ スクロール可能な横 1 列のサムネール (コンテンツパネル) と、現在選択している項目のプレビュー (プレビューパネル) を表示します。また、お気に入り、フォルダー、フィルター、コレクションおよび書き出しの各パネルを表示します。

キーワード コンテンツパネルを詳細表示で表示し、さらにお気に入り、キーワード、フィルターおよび書き出しの各パネルを表示します。

注意: Mac OS では、キーワードワークスペースを読み込むために Command + F5 キーを押すと、初期設定では Mac OS の VoiceOver が起動し

ます。キーボードショートカットを使用してプレビューワークスペースを読み込むには、最初に、Mac OS のキーボードショートカット環境設定で VoiceOver のショートカットを無効にする必要があります。操作手順については、Mac OS のヘルプを参照してください。

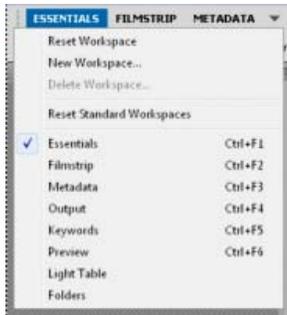
プレビュー 大きいプレビューパネルとサムネールが表示されている縦長のコンテンツパネルを表示し、さらにお気に入り、フォルダー、フィルター、コレクションおよび書き出しの各パネルを表示します。

ライトテーブル コンテンツパネルのみを表示します。ファイルはサムネール表示で表示されます。

フォルダー コンテンツパネルをサムネール表示で表示し、さらにお気に入り、フォルダーおよび書き出しの各パネルを表示します。

- ワークスペースを選択するには、ウィンドウ／ワークスペースを選択し、目的のワークスペースを選択します。または、Adobe Bridge アプリケーションバーのいずれかのワークスペースボタンをクリックします。

表示するボタンを増減するには、ワークスペースボタンの左側にある縦線をドラッグします。ボタンの順序を変更するには、ボタンをドラッグします。



ワークスペースボタンとポップアップメニュー

- 現在のレイアウトをワークスペースとして保存するには、ウィンドウ／ワークスペース／新規ワークスペースを選択します。新規ワークスペースダイアログボックスで、ワークスペースの名前を入力し、オプションを指定して、「保存」をクリックします。
- カスタムワークスペースを削除または復元するには、ウィンドウ／ワークスペースを選択し、次のいずれかのコマンドを選択します。

ワークスペースを削除 保存されているワークスペースを削除します。ワークスペースを削除ダイアログボックスのワークスペースメニューからワークスペースを選択し、「削除」をクリックします。

ワークスペースをリセット 現在選択されている保存済みのワークスペースをデフォルト設定に復元します。

標準のワークスペースにリセット Adobe の事前定義ワークスペース（初期設定、出力など）のデフォルト設定に復元します。

明るさとカラーの調整

[ページのトップへ](#)

一般環境設定で、Adobe Bridge の背景の明暗を調整したり、アクセントカラーを指定したりすることができます。環境設定を開くには、編集／環境設定（Windows）または Adobe Bridge／環境設定（Mac OS）を選択します。

- 背景の明暗を調整するには、環境設定ダイアログボックスの一般パネルに移動し、次の操作を行います。
 - ユーザーインターフェイスの明るさスライダーをドラッグして、背景を暗く、または明るくします。
 - 画像バックドロップスライダーをドラッグして、スライドショーの背景およびコンテンツパネルとプレビューパネルの背景を暗く、または明るくします。
- アクセントカラーを指定するには、環境設定ダイアログボックスの一般パネルに移動し、アクセントカラーメニューからカラーを選択します。

コンパクトモードでの操作 | CS6、CS5

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge ウィンドウを縮小したい場合は、コンパクトモードに切り替えます。コンパクトモードでは、各種パネルは非表示になり、コンテンツパネルは簡素な表示になります。Adobe Bridge コマンドの一部は、ウィンドウの右上隅にあるフライアウトメニューから引き続き使用できます。

コンパクトモードの Adobe Bridge ウィンドウは、初期設定ですべてのウィンドウの前面に表示されます（フルモードでは、Adobe Bridge ウィンドウをアプリケーションウィンドウの背後に移動できます）。ウィンドウが常に前面に表示されていると、他のアプリケーションでの作業中にも、いつでも使用できるので便利です。例えば、使用する予定のファイルを選択した後でコンパクトモードを使用し、必要に応じて、それらのファイルをアプリケーション内にドラッグします。

Adobe Bridge メニューから「コンパクトウィンドウを常に手前に表示」の選択を解除し、コンパクトモードの Adobe Bridge ウィンドウがすべてのウィンドウの手前に表示されることを防止できます。

1. コンパクトモードに切り替えボタン  をクリックします。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - Adobe Bridge ウィンドウの右上隅のメニューからコマンドを選択します。
 - (CS5 のみ) ウルトラコンパクトモードに切り替えボタン  をクリックして、コンテンツパネルを非表示にすると、Adobe Bridge ウィンドウをさらに小さくできます。このボタンをもう一度クリックすると、コンパクトモードに戻ります。
 - フルモードに切り替えボタン  をクリックすると、フルモードに戻り、コンテンツエリアとパネルが表示されます。フルモードでは、Adobe Bridge を現在のウィンドウの背面に移動することができます。

カラーの管理

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge では、サムネールの画質はカラープロファイルが使用されているかどうかによって決まります。高画質のサムネールではカラープロファイル設定が使用されますが、クイックサムネールでは使用されません。CS5 でのみ、サムネールの画質は、詳細環境設定、およびアプリケーションバーのサムネール画質とプレビュー生成のオプションボタンを使用して設定します。

Adobe Creative Suite では、Adobe Bridge を使用して、カラーマネジメントが行われているすべての Adobe Creative Suite コンポーネント間でカラー設定を同期することができます。Adobe Bridge の編集/カラー設定 (Bridge CC) または編集/Creative Suite のカラー設定コマンドを使用して Creative Suite のカラー設定を指定すると、カラー設定が自動的に同期されます。カラー設定の同期によって、カラーマネジメントが行われているすべての Adobe 製品でカラーが同じように再現されます。

[アドビアプリケーション間でのカラー設定の同期](#)を参照してください。

言語設定の変更

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge では、複数の言語でメニュー、オプション、ツールヒントを表示できます。Adobe Bridge でキーボードショートカットに特定の言語を使用することも指定できます。

1. 編集/環境設定 (Windows) または Adobe Bridge/環境設定 (Mac OS) を選択し、「詳細設定」をクリックします。
2. 次のいずれかまたは両方の操作を行います。
 - メニュー、オプション、ツールヒントを表示する言語を言語メニューから選択します。
 - キーボードメニューから言語を選択して、キーボードショートカットで選択した言語のキーボード設定を使用します。
3. 「OK」をクリックし、Adobe Bridge を再起動します。

新しい言語は、次回 Adobe Bridge を起動したときに有効になります。

起動スクリプトの有効化

[ページのトップへ](#)

起動スクリプトは、Adobe Bridge の環境設定で有効または無効にすることができます。一覧表示されるスクリプトは、インストールされている Creative Suite® コンポーネントに応じて異なります。起動スクリプトを無効にすると、パフォーマンスを向上させたり、スクリプト間の非互換性を解決したりすることができます。

1. 編集/環境設定 (Windows) または Adobe Bridge/環境設定 (Mac OS) を選択し、「スタートアップスクリプト」をクリックします。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - 必要に応じて各種スクリプトを選択または選択解除します。
 - すべてのスクリプトを有効または無効にするには、「すべてを有効化」または「すべてを無効化」をクリックします。
 - ハードディスク上の Adobe Bridge Startup Scripts フォルダーに移動するには、「マイスタートアップスクリプトを表示」をクリックします。

環境設定の復元

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge 環境設定ファイルには、表示、Adobe Photo Downloader、パフォーマンスおよびファイルの取り扱いに関するオプションなど、多数のプログラム設定が保存されます。

環境設定を復元すると、設定が初期設定に戻され、多くの場合、アプリケーションの異常が修正される場合があります。

1. Ctrl キー (Windows) または Option キー (Mac OS) を押しながら、Adobe Bridge を起動します。

2. 設定をリセットダイアログボックスで、次のオプションを選択します（複数選択可）。

環境設定をリセット 環境設定を出荷時の初期設定に戻します。一部のラベルやレーティングは失われる場合があります。Adobe Bridge の起動時に新しい環境設定ファイルが作成されます。

すべてのサムネールのキャッシュをクリア Adobe Bridge でサムネールが正常に表示されない場合は、サムネールのキャッシュをクリアすると問題が解決する場合があります。Adobe Bridge の起動時にサムネールのキャッシュが再作成されます。

標準のワークスペースをリセット Adobe の事前定義ワークスペースを出荷時の初期設定に戻します。

3. 「OK」をクリックします。または、環境設定をリセットせずに Adobe Bridge を開く場合は「キャンセル」をクリックします。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Adobe Bridge でのファイルの表示と管理

ファイルおよびフォルダー内の移動
サブフォルダーの内容の表示
Adobe Bridge でファイルを開く
ファイルタイプの関連付けの変更
別のアプリケーションへのファイルの配置
Adobe Bridge でのファイルやフォルダーの検索
クイック検索の実行
ファイルのラベル付けとレーティング
ファイルの並べ替え
ファイルのフィルター処理
ファイルとフォルダーのコピー、移動、削除
画像の回転
Camera Raw の使用

ファイルおよびフォルダー内の移動

[ページのトップへ](#)

- 次のいずれかの操作を行います。
 - フォルダーパネルでフォルダーを選択します。ディレクトリ内を移動するには、フォルダーパネルで下向き矢印キーと上向き矢印キーを押します。フォルダーを展開するには、右向き矢印キーを押します。フォルダーを折りたたむには、左向き矢印キーを押します。
 - お気に入りパネルで項目を選択します。
 - アプリケーションバーで、親またはお気に入りに移動ボタン  または最近使用したファイルを表示またはフォルダーへ移動ボタン  をクリックして、項目を選択します。
ヒント：オペレーティングシステム上でファイルを表示するには、ファイル／エクスプローラーで表示（Windows）またはファイル／Finder で表示（Mac OS）を選択します。
 - アプリケーションバーで前へ戻るボタン  または次へ進むボタン  をクリックして、最近表示されたフォルダー間を移動します。
 - コンテンツパネルでフォルダーをダブルクリックして開きます。
ヒント：コンテンツパネルでフォルダーを Ctrl キーを押しながらダブルクリック（Windows）するか、Command キーを押しながらダブルクリック（Mac OS）すると、新しいウィンドウでフォルダーが開きます。
 - エクスプローラー（Windows）または Finder（Mac OS）から、Adobe Bridge のパスバーにフォルダーをドラッグすると、その場所に移動します。
 - エクスプローラー（Windows）または Finder（Mac OS）からプレビューパネルにフォルダーをドラッグして開きます。Mac OS では、Finder から Adobe Bridge アイコンにフォルダーをドラッグして開くこともできます。
- パスバーを使用して移動します。
 - パスバー内の項目をクリックすると、その項目に移動します。
 - パスバーで右向き矢印を右クリック（Windows）するか、Control キーを押しながらクリック（Mac OS）すると、フォルダー閲覧が有効になります。フォルダーの閲覧では、選択した項目のサブフォルダーを表示して、そのサブフォルダーに移動することができます。また、パスバーで右向き矢印  をクリックして、上位の項目のサブフォルダーを閲覧することもできます。
 - コンテンツパネルからパスバーに項目をドラッグすると、その場所に移動します。
 - パスバーの最後の項目をクリックして、パスを編集します。アイコンモードに戻るには Esc キーを押します。

注意：パスバーの表示と非表示を切り替えるには、ウィンドウ／パスバーを選択します。

サブフォルダーの内容の表示

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge では、フォルダーやサブフォルダーを 1 つの連続した「フラットな」表示にできます。フラット表示では、サブフォルダーを含め、フォルダーの内容全体が表示されるので、サブフォルダー内を移動する必要がありません。

- フォルダーの内容をフラット表示にするには、表示／サブフォルダー内の項目を表示を選択します。

Adobe Bridge でファイルを開く

Adobe Bridge では、Adobe ソフトウェア以外のソフトウェアで作成したファイルも開けます。Adobe Bridge を使用してファイルを開くと、ファイルはネイティブのアプリケーションまたは指定したアプリケーションで開きます。Adobe Bridge を使用して、アドビアプリケーションで開いているドキュメントにファイルを配置することもできます。

- ファイルを選択して、次のいずれかの操作を行います。
 - ファイル／開くを選択します。
 - Enter キーまたは Return キーを押します。
 - Ctrl + 下向き矢印キー（Windows）または Command + 下向き矢印キー（Mac OS）を押したままにします。
 - コンテンツパネルでファイルをダブルクリックします。
 - ファイル／アプリケーションを指定して開くを選択し、ファイルを開くアプリケーションの名前を選択します。
 - ファイルをアプリケーションのアイコンの上にドラッグします。
 - ファイル／Camera Raw で開くを選択し、ファイルの Camera Raw 設定を編集します。
 - デジタルカメラから Adobe Bridge に写真を開くには、Adobe Photo Downloader を使用します。デジタルカメラまたはカードリーダーから Adobe への写真の取り込みを参照してください。

ファイルタイプの関連付けの変更

特定のファイルタイプを開くアプリケーションを選択すると、Adobe Bridge を使用して開くファイルのみにこの操作が影響し、オペレーティングシステムの設定は無視されます。

1. 編集／環境設定（Windows）または Adobe Bridge CS5.1／環境設定（Mac OS）を選択し、「ファイルタイプの関連付け」をクリックします。
2. アプリケーションの名前（または「なし」）をクリックし、「参照」をクリックして、使用するアプリケーションを検索します。
3. ファイルタイプの関連付けをデフォルトの設定にリセットするには、「初期設定の関連付けにリセット」をクリックします。
4. アプリケーションと関連付けられていないファイルタイプを非表示にするには、「未定義のファイル関連付けを隠す」を選択します。

ファイルを別のアプリケーションに配置します。

- Adobe Bridge で目的のファイルを選択し、ファイル／配置を選択してから、アプリケーションの名前を選択します。例えば、このコマンドを使用して、JPEG 画像を Adobe Illustrator 内に配置することができます。
- Adobe Bridge から目的のアプリケーションにファイルをドラッグします。ファイルによっては、ファイルを配置するドキュメントを最初に開いておく必要があります。

Adobe Bridge でのファイルやフォルダーの検索

Adobe Bridge で複数の検索条件を組み合わせてファイルやフォルダーを検索できます。検索条件はスマートコレクションとして保存できます。スマートコレクションは、条件を満たすファイルによって常に最新の状態に保たれるコレクションです。

1. 編集／検索を選択します。
2. 検索対象のフォルダーを選択します。
3. 検索条件メニューでオプションおよび制約条件を選択して検索条件を選択します。右側のボックスに検索テキストを入力します。
4. 検索条件を追加するには、プラス記号 (+) をクリックします。検索条件を削除するには、マイナス記号 (-) をクリックします。
5. 一致ポップアップメニューから、検索条件のいずれかまたはすべてを満たすことを指定するオプションを選択します。
6. (オプション) ソースフォルダー内のサブフォルダー内も検索するには、「すべてのサブフォルダーを含む」を選択します。
7. (オプション) Adobe Bridge でキャッシュされていないファイルとキャッシュされているファイルを検索するには、「インデックスされていないファイルを含む」を選択します。Adobe Bridge 内で参照したことがないフォルダー内のキャッシュされていないファイルを検索すると、キャッシュされているファイルのみを検索する場合よりも時間がかかります。
8. 「検索」をクリックします。
9. オプション) 検索条件を保存するには、Adobe Bridge で検索結果が表示されているときにコレクションパネルで新規スマートコレクション ボタン  をクリックします。スマートコレクションダイアログボックスでスマートコレクションの名前を入力し、「保存」をクリックします。コレクションパネルでスマートコレクションの名前を入力し、Enter キーまたは Return キーを押します。スマートコレクションの作成を参照してください。

クイック検索の実行

アプリケーションバーの「クイック検索」フィールドを使用して Adobe Bridge 内のファイルやフォルダーを検索できます。クイック検索では、Adobe Bridge 検索エンジンまたは Windows デスクトップサーチ (Windows) またはスポットライト (Mac OS) を使用して検索できます。Adobe Bridge エンジンでは、ファイル名およびキーワードを検索できます。オペレーティングシステムエンジンでは、ファイル名、フォルダー名、画像のキーワードを検索できます。Adobe Bridge 検索では、マイコンピューター (Windows) およびコンピューター (Mac OS) を含め、現在選択しているフォルダーおよびすべてのサブフォルダーが検索されます。オペレーティングシステム検索では、現在選択しているフォルダー内またはマイコンピューター (Windows) およびコンピューター (Mac OS) 内を検索されます。

1. 「クイック検索」フィールドで拡大鏡アイコンをクリックし、検索エンジンとして Adobe Bridge 検索、Windows デスクトップサーチ (Windows) またはスポットライト (Mac OS) を選択します。
2. 検索条件を入力します。
3. Enter キーまたは Return キーを押します。

注意： Vista には、初期設定で Windows デスクトップサーチがインストールされています。Windows XP のユーザーは、Microsoft 社の Web サイトから Windows デスクトップサーチをダウンロードしてインストールできます。Adobe Bridge では、Windows デスクトップサーチがインストールされているかどうかを検出され、結果に従って機能が有効になります。Windows デスクトップサーチの初期設定では、Documents and Settings ディレクトリのみがインデックス処理に含まれます。別の場所を含めるには、Windows デスクトップサーチのオプションダイアログボックスでオプションを変更します。

ファイルのラベル付けとレーティング

[ページのトップへ](#)

ファイルに特定のカラーのラベルを付けたり、0 ~ 5 個の星で表されるレーティングを割り当てることによって、大量のファイルにすばやくマークを付けることができます。カラーラベルやレーティングに従ってファイルを並べ替えることができます。

例えば、Adobe Bridge で読み込んだ多くの画像を表示しているとします。新しい画像を 1 つずつ確認しながら、保存したい画像にラベルを付けることができます。この作業の後に「並べ替え」コマンドを使用して、特定のカラーでラベルを付けたファイルを表示して、操作することができます。

ラベルおよびレーティングは、フォルダーに対してもファイルに対しても設定できます。

ラベル環境設定でラベルに名前を割り当てることもできます。この名前は、ラベルを適用したときにファイルのメタデータに追加されます。環境設定でラベルの名前を変更した場合、古いラベルが適用されていたファイルは、コンテンツパネルでは白いラベル付きで表示されます。

注意： Adobe Bridge でフォルダーを表示した場合、別のオプションを選択しない限り、ラベル付きのファイルとラベルなしのファイルの両方が表示されます。

1. ファイルのラベル付けを行うには、ファイルを 1 つ以上選択し、ラベルメニューからラベルを選択します。ファイルからラベルを削除するには、ラベル/ラベルなしを選択します。
2. ファイルのレーティングを行うには、ファイルを 1 つ以上選択し、次のいずれかの操作を行います。
 - コンテンツパネルで、ファイルに付けるレーティングを表す星またはドットをクリックします (サムネール表示では、ドットを表示するにはサムネールを選択する必要があります。非常に小さなサムネール表示には星とドットが表示されません。必要な場合は、星とドットが表示されるまでサムネール表示の大きさを変更してください。リスト表示では、レーティング列が表示されていることを確認します)。
 - ラベルメニューからレーティングを選択します。
 - 星を 1 つ追加または削除するには、ラベル/レーティングを上げる、またはラベル/レーティングを下げるを選択します。
 - すべての星を削除するには、ラベル/レーティングなしを選択します。
 - 除外のレーティングを追加するには、ラベル/除外を選択するか、Alt + Delete (Windows) または Option + Delete (Mac OS) を押します。

注意： Adobe Bridge で除外されたファイルを非表示にするには、表示/除外ファイルを表示を選択します。

ファイルの並べ替え

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge の初期設定では、コンテンツパネルのファイルはファイル名順に表示されます。「並べ替え」コマンドまたはアプリケーションバーの「<条件> を基準に並べ替え」ボタンを使用してファイルを別の方法で並べ替えることができます。

- 表示/並べ替えのサブメニューからコマンドを選択するか、アプリケーションバーの「<条件> を基準に並べ替え」ボタンをクリックすると表示されるメニューから条件を選択してファイルを並べ替えます。ファイルを最後にドラッグで並べ替えた順番に並べ替えるには、「手動」を選択します。コンテンツパネルに検索結果、コレクションまたはフラット表示が表示されている場合、「<条件> を基準に並べ替え」ボタンには、フォルダー別にファイルを並べ替えるための「フォルダー名を基準」オプションが表示されます。
- リスト表示では、列見出しをクリックすると、その列の条件で並べ替えられます。

ファイルのフィルター処理

[ページのトップへ](#)

フィルターパネルで条件を選択して、コンテンツパネルに表示するファイルを制御します。フィルターパネルには、項目が表示されているかどうか

かに関係なく、現在のセット内で特定の値を持つ項目の数が表示されます。例えば、フィルターパネルを見ると、特定のレーティングまたはキーワードが設定されているファイルの数をすばやく確認できます。

フィルターパネルに表示される条件は、コンテンツパネルに表示されるファイルの種類および関連付けられたメタデータや場所に依って動的に生成されます。例えば、コンテンツパネルにオーディオファイルが表示されている場合、フィルターパネルには作者名、アルバム、ジャンル、キー、テンポおよびループの条件が表示されます。コンテンツパネルに画像が表示されている場合、フィルターパネルには寸法、画像方向、カメラデータ（露出時間や絞り値など）が表示されます。コンテンツパネルに異なるフォルダー階層のファイルから収集された検索結果やコレクション、またはフラット表示が表示されている場合、「<条件>を基準に並べ替え」ボタンには、フォルダー別にファイルを並べ替えるための「フォルダー名を基準」オプションが表示されます。

フォルダー、除外ファイル、隠しファイル（キャッシュファイルなど）をコンテンツパネルに表示するかどうかについては、表示メニューのコマンドを選択することで指定します。

- ファイルを並べ替えるには、フィルターパネルで1つ以上の条件を選択します。
 - 同じカテゴリの条件（ファイルタイプなど）を選択すると、いずれかの条件を満たすファイルが表示されます。例えば、GIF ファイルと JPEG ファイルの両方を表示するには、「ファイルタイプ」で「GIF 画像」および「JPEG ファイル」を選択します。
 - カテゴリの異なる条件（ファイルタイプとレーティングなど）を選択すると、すべての条件を満たすファイルが表示されます。例えば、2 つ星の GIF ファイルと JPEG ファイルを表示するには、「ファイルタイプ」で「GIF 画像」および「JPEG ファイル」を選択し、「レーティング」で2 つ星を選択します。

ヒント：Shift キーを押しながらレーティングの条件をクリックすると、選択したレーティング以上が選択されます。例えば、Shift キーを押しながら2 つ星をクリックすると、2 つ星以上のすべてのファイルが表示されます。
 - フィルターパネルメニューからカテゴリを選択します。

ヒント：すべてのフィルターカテゴリを開いたり、閉じたりするには、フィルターパネルメニューから「すべてを展開」または「すべてを折りたたむ」を選択します。
 - 選択条件を反転するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらクリックします。例えば、「ファイルタイプ」で「GIF 画像」を選択しているときに、Alt キーを押しながら「GIF 画像」をクリックすると、このファイルタイプの選択が解除され、一覧の他のすべてのファイルタイプが選択されます。

注意：閉じているスタックをフィルター処理する場合は、一番上（サムネイル）の項目がフィルター条件を満たしている場合にのみスタックが表示されます。展開されているスタックをフィルター処理する場合は、スタック内で一番上のファイルのフィルター条件を満たすすべてのファイルが表示されます。
- フィルターをクリアするには、フィルターパネルの下部にあるフィルターをクリアボタン  をクリックします。
- Adobe Bridge で別の場所に移動したときにフィルター条件がクリアされないようにするには、フィルターパネルの下部にある参照時にフィルターを保持ボタン  をクリックします。

ファイルやフォルダーのコピー、移動、削除

[ページのトップへ](#)

- ファイルまたはフォルダーをコピーするには、次のいずれかの操作を行います。
 - ファイルまたはフォルダーを選択し、編集/コピーを選択します。
 - ファイルまたはフォルダーを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、「コピー先」を選択して、一覧から場所を選択します（別の場所を指定するには、「フォルダーを選択」を選択します）。
 - Ctrl キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら、ファイルまたはフォルダーを別のフォルダーにドラッグします
- 別のフォルダーにファイルを移動するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ファイルを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、「移動」を選択して、一覧から場所を選択します（別の場所を指定するには、「フォルダーを選択」を選択します）。
 - ファイルを Adobe Bridge ウィンドウ、エクスプローラー（Windows）または Finder（Mac OS）の別のフォルダーにドラッグします。

注意：ドラッグしているファイルが、Adobe Bridge 以外のマウントされたボリューム内にある場合は、ファイルは移動ではなく、コピーされます。ファイルを別のマウントされたボリュームに移動するには、Shift キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながらファイルをドラッグします。
- ファイルまたはフォルダーを削除するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ファイルまたはフォルダーを選択して、項目を削除ボタン  をクリックします。
 - ファイルまたはフォルダーを選択して Ctrl + Delete キー（Windows）または Command + Delete キー（Mac OS）を押します。
 - ファイルまたはフォルダーを選択して Delete キーを押し、ダイアログボックスの「削除」をクリックします。

画像の回転

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge で JPEG、PSD、TIFF、および Camera Raw 画像を回転することができます。回転を適用しても画像データは変化しませんが、Adobe Bridge で画像を回転するとネイティブアプリケーション上でも画像が回転して表示される可能性があります。

1. コンテンツエリアで画像（複数可）を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - 編集／90°回転（時計回り）、90°回転（反時計回り）または 180°回転を選択します。
 - アプリケーションバーの 90°回転（時計回り）または 90°回転（反時計回り）ボタンをクリックします。

Camera Raw の使用

[ページのトップへ](#)

Camera Raw ファイルには、カメラの画像センサーで取り込んだ未処理のデータが含まれます。Adobe Photoshop または Adobe AfterEffects をインストールしている場合は、Adobe Bridge で Adobe Photoshop Camera Raw ソフトウェアを使用して、Camera Raw ファイルを処理できます。Adobe Bridge から JPEG（.JPG）ファイルや TIFF ファイルを Camera Raw で開いて処理することもできます。

Adobe Bridge を使用して、ファイルの設定を別のファイルにコピー＆ペーストしたり、ファイルをバッチ処理したり、Camera Raw ダイアログボックスを開かずにファイルに設定を適用したりできます。

- Adobe Bridge から JPEG ファイルや TIFF ファイルを Camera Raw で開くには、Camera Raw 環境設定で対応するオプションを指定します。編集／Camera Raw 環境設定（Windows）または Adobe Bridge／Camera Raw 環境設定（Mac OS）を選択します。「JPEG および TIFF の処理」セクションで、JPEG／すべてのサポートされている JPEG ファイルを自動的に開くを選択するか、TIFF／すべてのサポートされている TIFF ファイルを自動的に開くを選択します。その後、JPEG または TIFF ファイルをダブルクリックすると、ファイルが Camera Raw で開きます。JPEG および TIFF ファイルを Photoshop で開くには、「設定を使用して JPEG ファイルを自動的に開く」または「設定を使用して TIFF ファイルを自動的に開く」を選択します。
- Adobe Bridge から Raw ファイルを Camera Raw で開くには、Adobe Bridge 環境設定で対応するオプションを選択します。編集／環境設定（Windows）または Adobe Bridge／環境設定（Mac OS）を選択します。「一般」タブの「動作」領域で「ダブルクリックして Camera Raw 設定を Bridge で編集」を選択します。この環境設定を選択していない場合は、Raw ファイルをダブルクリックすると Photoshop で開かれます。
- また、デジタルカメラまたはカードリーダーからの写真の取り込みも参照してください。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Adobe Bridge コンテンツパネルの表示の調整

表示モードの選択

サムネールのサイズの調整

グリッドのロック

サムネールの追加のメタデータの表示

サムネールのファイルサイズの制限

モニターサイズプレビューの指定

サムネールの画質の指定

リスト表示のカスタマイズ

コンテンツパネルには、選択したフォルダー内のファイルやフォルダーの一覧、サムネールまたはサムネールの詳細が表示されます。初期設定では、カラーマネジメントされたサムネールが、ファイル名またはフォルダー名、レーティング、ラベルと一緒に表示されます。

コンテンツパネルの表示は、詳細なテキスト情報をサムネールと共に表示したり、サムネールをリスト表示したりしてカスタマイズできます。サムネールのサイズを変更したり、サムネールの画質を指定したりすることもできます。コンテンツパネルメニューから「レイアウト（横）」または「レイアウト（縦）」を選択すると、それぞれの方向にのみスクロールバーが表示されます。「自動レイアウト」を選択すると、パネルのサイズに応じて横と縦のレイアウトが切り替わります。

表示モードの選択

[ページのトップへ](#)

- 表示メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「サムネール」を選択すると、ファイルやフォルダーがサムネールとして表示されます。一緒に表示されるのはファイル名やフォルダー名、レーティングやラベルです。
 - 「詳細」を選択すると、サムネールと追加のテキスト情報が表示されます。
 - 「リスト」を選択すると、ファイルとフォルダーの名前がリスト表示され、関連するメタデータも列形式で表示されます。
 - 「サムネール」を選択時、「サムネールのみを表示」を選択すると、サムネールのみが表示され、テキスト情報、ラベルまたはレーティングは表示されません。

Adobe Bridge ウィンドウの右下隅にある 3 つのボタンをクリックして、コンテンツパネルをサムネール表示、詳細表示、リスト表示に切り替えることができます。

サムネールのサイズの調整

[ページのトップへ](#)

サムネールのサイズを小さくすると、より多くのサムネールを同時に表示でき、サムネールのサイズを大きくすると、サムネールの詳細を確認できます。

- Adobe Bridge ウィンドウの下部にあるサムネールスライダー  をドラッグします。

注意：自動レイアウトモードで Adobe Bridge ウィンドウのサイズを変更すると、コンテンツパネルのサムネールのサイズも変化します。この動作を無効にするには、コンテンツパネルメニューから「レイアウト（横）」または「レイアウト（縦）」を選択します。

コンテンツパネルの画像サムネールにファイル名またはその他のメタデータが表示されない場合は、スライダーを右側にドラッグしてサムネールのサイズを大きくします。

- サムネールスライダーの左側にあるより小さいサムネールサイズボタンをクリックすると、コンテンツパネル内の列数が 1 つ少なくなります。サムネールスライダーの左側にあるより大きいサムネールサイズボタンをクリックすると、コンテンツパネル内の列数が 1 つ多くなります。表示される列数に合わせて、サムネールのサイズは自動的に最大化されます。

グリッドのロック

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge のコンテンツパネルでサムネールの並びを固定するには、グリッドをロックします。グリッドをロックすると、ウィンドウのサイズを変更したり、パネルを開いたり閉じたりしても、サムネールの行列数は保持されます。

- 表示／グリッドロックを選択するか、Adobe Bridge ウィンドウ下部のサムネールスライダーの横にあるグリッドロックボタン  をクリックします。

[ページのトップへ](#)

サムネールの追加のメタデータの表示

「サムネールと共に表示する追加のメタデータ行」環境設定では、コンテンツパネルで、サムネールと共に追加のメタデータ情報を表示するかどうかを指定します。

1. 編集／環境設定（Windows）または Adobe Bridge／環境設定（Mac OS）を選択し、「サムネール」をクリックします。
2. 「サムネールと共に表示する追加のメタデータ行」セクションで、表示するメタデータの種類を選択します。最大 4 行の追加の情報を表示できます。

サムネールのファイルサイズの制限

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge で作成するサムネールのファイルサイズを制限できます（大きいファイルを表示すると、パフォーマンスが低下する場合があります）。Adobe Bridge でサムネールを作成できない場合は、そのファイルタイプに関連付けられたアイコンが表示されます。ビデオファイルのサムネールを表示する場合、この設定は無視されます。

1. 編集／環境設定（Windows）または Adobe Bridge／環境設定（Mac OS）を選択し、「サムネール」をクリックします。
2. 「処理するファイルの最大サイズ」ボックスに数値を入力します。

モニターサイズプレビューの指定

[ページのトップへ](#)

モニターサイズプレビューでは、モニターの解像度に基づいて表示可能な最高画質のプレビューが表示されます。モニターサイズプレビューを有効にすると、フルスクリーンモードでの表示がシャープになります。

1. 編集／環境設定（Windows）または Adobe Bridge／環境設定（Mac OS）を選択し、「詳細設定」をクリックします。
2. 「モニターの大きさのプレビューを生成」を選択します。

サムネールの画質の指定

[ページのトップへ](#)

個々の画像フォルダーについて、サムネール画像の埋め込まれたプレビュー、高画質プレビューまたは 1:1 のプレビューを表示することを指定できます。

- 参照を高速化するには、フォルダーを選択し、Adobe Bridge のアプリケーションバーで埋め込み画像を優先して、すばやく参照ボタン  を選択します。
- 高画質のサムネールプレビューを表示するには、Adobe Bridge のアプリケーションバーでサムネール画質とプレビュー生成のオプションボタン  をクリックし、次のいずれかを選択します。
 - 「埋め込み画像を優先（高速）」を選択すると、ソースファイルに埋め込まれた低解像度のサムネールが使用されます。これらのサムネールでは、カラーマネジメントは行われません。このオプションは、「埋め込み画像を優先して、すばやく参照」を選択することと同じです。
 - 「必要に応じて高画質表示」を選択すると、画像をプレビューするまでは埋め込まれたサムネールが使用され、プレビュー時には、ソースファイルからカラーマネジメントされたサムネールが生成されます。
 - 「常に高画質表示」を選択すると、すべての画像について、常にカラーマネジメントされたサムネールが表示されます。初期設定の画質設定は、「常に高画質表示」です。
 - 「100 %プレビューを生成」を選択すると、ルーペ表示およびスライドショー表示のバックグラウンドで画像の 100% プレビューが作成されます。このオプションを選択すると、ルーペおよびスライドショーの処理が高速化されますが、使用されるディスク領域が増加し、最初の表示に時間がかかるようになります。ルーペツールの使用と画像をスライドショーとして表示を参照してください。

リスト表示のカスタマイズ

[ページのトップへ](#)

リスト表示の列の並べ替えやサイズ変更、表示するメタデータの種類の変更により、リスト表示をカスタマイズできます。

1. 表示／リストを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - 並べ替えの順序の方向を変更するには、列の見出しをクリックします。
 - 列見出しを右クリック（Windows）するか、Control キーを押しながらクリック（Mac OS）すると、別のメタデータの種類を選択する、列を閉じる、新しい列を挿入する、列のサイズを調整する、初期設定に戻すなどの操作ができます。

注意：「名前」列は常に一番左の列になります。

- 列の幅を増減するには、列間の区切り線をドラッグします。

- 2つの列見出し間をダブルクリックすると、列の内容に合わせて自動的に列のサイズが変更されます。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Adobe Bridge での画像のプレビューと比較

画像をスライドショーとして表示
プレビューパネルでの画像のプレビュー
フルスクリーンプレビューでの画像のプレビュー
レビューモードでの画像の評価と選択
ルーペツールの使用
プレビューでのソフトウェアレンダリングの使用

Adobe Bridge では、プレビューパネル、フルスクリーンプレビューおよびレビューモードで画像をプレビューできます。プレビューパネルでは最大 9 個のサムネイル画像を表示して比較できます。フルスクリーンプレビューでは、画像が画面全体に表示されます。レビューモードでは、フルスクリーン表示で画像を表示して、画像をブラウズしたり、選択内容を調整したり、画像のラベル付け、レーティング、回転を行ったり、画像を Camera Raw で開いたりすることができます。

画像をスライドショーとして表示

[ページのトップへ](#)

「スライドショー」コマンドを使用すると、サムネイルを画面全体に表示されるスライドショーとして表示できます。これによって、フォルダー内のすべてのグラフィックファイルの大きなバージョンを簡単に操作することができます。スライドショーの実行中に画像をパンおよびズームしたり、切り替え方法やキャプションなど、スライドショーの表示を制御するオプションを設定したりすることができます。

- スライドショーを表示するには、画像のフォルダーを開くか、スライドショーで表示する画像を選択し、表示／スライドショーを選択します。
- スライドショーを操作するためのコマンドの表示するには、スライドショーの表示中に H キーを押します。
- スライドショーに関するオプションを表示するには、スライドショーの表示中に L キーを押すか、表示／スライドショーのオプションを選択します。

表示オプション：

追加のモニターを消したり、スライドショーを繰り返し再生したり、ズームインおよびズームアウトしたりすることができます。

スライドオプション：

スライドの表示時間、キャプションおよびスライドのスケールを指定します。

切り替えオプション：

切り替えのスタイルおよび速度を指定します。

プレビューパネルでの画像のプレビュー

[ページのトップへ](#)

- コンテンツパネルから最大 9 個の画像を選択し、必要に応じてウィンドウ／プレビューパネルを選択します。

フルスクリーンプレビューでの画像のプレビュー

[ページのトップへ](#)

- 画像を選択し、表示／フルスクリーンプレビューを選択するか、スペースバーを押します。
- プラス記号 (+) キーまたはマイナス記号 (-) キーを押して画像をズームインまたはズームアウトするか、画像をクリックしてズームします。マウスのスクロールホイールを使用して表示倍率を増減することもできます。
- 画像をスクロールするには、ズームインしてからドラッグします。
- フォルダー内の次の画像および前の画像に移動するには、右矢印キーおよび左矢印キーを押します。

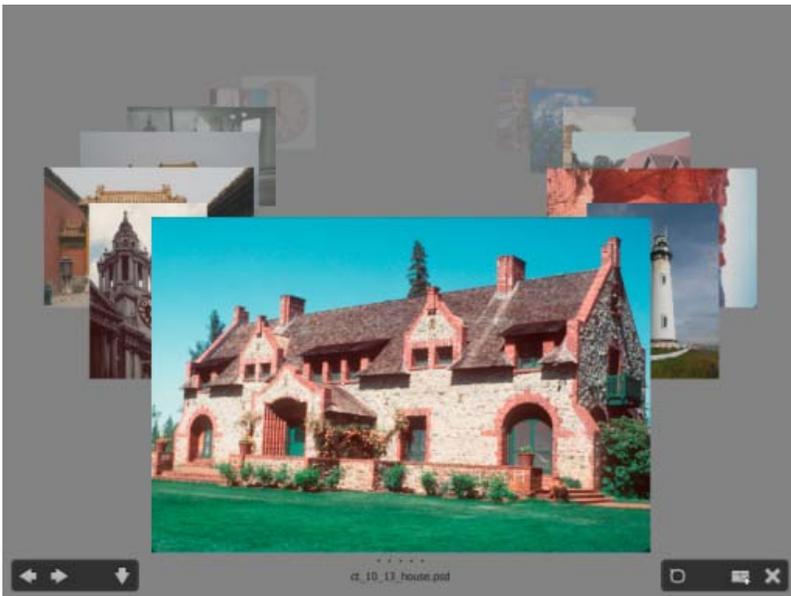
注意：複数の画像を選択してからフルスクリーンプレビューした場合、右矢印キーおよび左矢印キーを押すことによって、選択した画像を順に切り替えることができます。

- フルスクリーンプレビューを終了するには、スペースバーまたは Esc キーを押します。

レビューモードでの画像の評価と選択

[ページのトップへ](#)

レビューモードは、選択した写真のブラウズ、選択内容の調整、基本的な編集を行うための専用のフルスクリーンビューです。レビューモードでは、インタラクティブに操作できる回転ラックのような形式で画像が表示されます。



レビューモード

Adobe Bridge CS4 と Adobe Bridge CS5 でレビューモードを使用する方法のビデオは、www.adobe.com/go/lrvid4012_bri_jp でご覧ください。

1. 画像のフォルダーを開くか、レビューする画像を選択し、表示／レビューモードを選択します。
 2. 次のいずれかの操作を行います。
 - 前の画像や次の画像に移動するには、画面の左下隅にある左矢印ボタンまたは右矢印ボタンをクリックするか、キーボードの左矢印ボタンまたは右矢印ボタンを押します。
 - 前の画像または次の画像を手前に表示するには、前面の画像を右または左にドラッグします。
 - 背面の画像を前面に表示するには、画像をクリックします。
 - 画像を表示対象から削除するには、画面の下側に画像をドラッグします。または、画面の左下隅にある下矢印ボタンをクリックします。
 - 画像のレーティングやラベルの適用を行ったり、画像を開いたりするには、画像を右クリック（Windows）するか、Control キーを押しながらクリック（Mac OS）します。
 -] キーを押すと、前面の画像が時計回りに 90 度回転します。[キーを押すと、画像が反時計回りに 90 度回転します。
 - レビューモードを終了するには、Esc キーを押すか、画面の右下隅にある X ボタンをクリックします。
 - 選択した画像からコレクションを作成してレビューモードを終了するには、画面の右下隅にある新規コレクションボタンをクリックします。
- レビューモードで H キーを押すと、レビューモードでの作業用のキーボードショートカットが表示されます。

ルーペツールの使用

[ページのトップへ](#)

ルーペツールを使用すると、画像の一部を拡大できます。ルーペツールは、プレビューパネルで使用できるほかに、レビューモードの最前面の画像または選択された画像で使用できます。初期設定では、画像が 100 %より小さいサイズで表示されていると、ルーペツールにより 100 %の大きさに拡大されます。ルーペツールは画像ごとに 1 つ表示できます。

- ルーペツールで画像を拡大するには、プレビューパネルまたはレビューモードで画像をクリックします。レビューモードでは、画面の右下隅にあるルーペツールボタンをクリックすることでも拡大できます。
- ルーペツールを非表示にするには、ツールの右下隅にある X をクリックするか、ツールの拡大された領域内をクリックします。レビューモードでは、画面の右下隅にあるルーペツールボタンをクリックすることでも拡大できます。
- 拡大する領域を変更するには、画像内でルーペツールをドラッグするか、画像の別の領域をクリックします。
- ルーペツールを使用してズームインおよびズームアウトするには、マウスのスクロールホイールを使用するか、プラス記号 (+) キーまたはマイナス記号 (-) キーを押します。
- プレビューパネルの複数の画像で複数のルーペツールを表示するには、それぞれの画像をクリックします。
- プレビューパネルで複数のルーペツールを同期して移動するには、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながら画像をクリックまたはドラッグします。

プレビューでのソフトウェアレンダリングの使用

[ページのトップへ](#)

プレビューパネル、フルスクリーンプレビューまたはレビューモードでスライドショーや画像が正しく表示されない場合は、このオプションを選択します。プレビューにソフトウェアレンダリングを使用すると、正しく表示されるようになりますが、表示速度が遅くなったり、他の制限がある場合があります。

1. 環境設定の詳細設定で、「ソフトウェアレンダリングを使用」を選択します。
2. Adobe Bridge を再起動します。

注意： ソフトウェアレンダリングは、64 MB 未満の VRAM を搭載するコンピューターと、128 MB 未満の VRAM を搭載するデュアルモニターステムで自動的に有効になります。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Adobe Bridge でのダイナミックメディアファイルのプレビュー

プレビューパネルでのメディアファイルのプレビュー ダイナミックメディアファイルのフルスクリーンプレビューの再生 再生環境設定

Adobe Bridge ではほとんどのビデオおよびオーディオファイルをプレビューできます。SWF、FLV、F4V の各ファイル、またコンピューターにインストールされている QuickTime のバージョンでサポートされているほとんどのファイルをプレビューできます。メディアファイルの再生方法を制御するには、再生の環境設定を使用します。

プレビューパネルでのメディアファイルのプレビュー

[ページのトップへ](#)

1. プレビューするファイルをコンテンツパネルで選択します。
2. プレビューパネルで再生ボタン  をクリックするとビデオが開始し、一時停止ボタン  をクリックすると再生が一時停止し、ループボタン  をクリックすると連続ループのオンとオフが切り替わり、ボリュームボタン  をクリックすると音量を調整できます。

ダイナミックメディアファイルのプレビューを見やすくするために、Adobe Bridge のインターフェイスを明るくしたり、暗くしたりすることができます。明るさとカラーの調整を参照してください。

ダイナミックメディアファイルのフルスクリーンプレビューの再生

[ページのトップへ](#)

1. プレビューするファイルをコンテンツパネルで選択します。
2. 表示/フルスクリーンプレビューを選択します。
3. 一時停止ボタン  をクリックすると再生が一時停止し、再生ボタン  をクリックすると再生が再開し、ループボタン  をクリックすると連続ループのオンとオフが切り替わり、ボリュームボタン  をクリックすると音量を調整できます。
4. Esc キーを押すと Adobe Bridge に戻ります。

再生環境設定

[ページのトップへ](#)

1. Adobe Bridge で、編集/環境設定 (Windows) または Adobe Bridge CS5.1/環境設定 (Mac OS) を選択します。
2. 「再生」をクリックします。
3. 必要に応じて次のオプションを設定し、「OK」をクリックします。

スタックの再生フレームレート 10 個以上の画像を含んだスタックでは、画像をプレビュー (スクラブ) することができます。このオプションにより、画像スタックをプレビューする際のフレームレートを指定することができます (Adobe でのファイルのスタック生成を参照してください)。

プレビュー時にオーディオファイルを自動再生 オーディオファイルをクリックしてプレビューパネルに表示すると、オーディオが自動的に再生されます。オーディオファイルを手動で再生する場合は、このオプションをオフにします。

プレビュー時にオーディオファイルをループ再生 オーディオファイルを連続的に繰り返し (ループ) 再生します。オーディオファイルを 1 回だけ再生したい場合は、このオプションをオフにします。

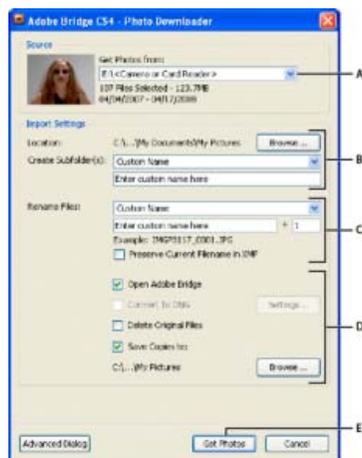
プレビュー時にビデオファイルを自動再生 コンテンツパネルでビデオファイルを選択すると、プレビューパネルで自動的に再生します。

プレビュー時にビデオファイルをループ再生 ビデオファイルを連続的に繰り返し (ループ) 再生します。ビデオファイルを 1 回だけ再生したい場合は、このオプションをオフにします。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

デジタルカメラまたはカードリーダーからの写真の取り込み



Adobe Bridge Photo Downloader

A. 接続されたデバイスの名前 B. ファイルを保存するオプション C. ファイルの名前を変更するオプション D. ファイルを変換およびコピーするオプション E. 写真を取り込むボタン

1. カメラまたはカードリーダーをコンピューターに接続します（必要に応じて、デバイスのマニュアルを参照してください）。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - (Windows) 自動再生ウィンドウで「画像をダウンロード - Adobe Bridge を使用」をクリックするか、ファイル／写真をカメラから取り込むを選択します。
 - (Mac OS) Adobe Bridge で、ファイル／写真をカメラから取り込むを選択します。

(Mac OS) カメラをコンピューターに接続したときに Photo Downloader を自動的に開くように Adobe Bridge を設定できます。Adobe Bridge／環境設定を選択します。一般パネルの「動作」領域で、「カメラを接続したときに、Adobe Photo Downloader を起動」を選択します。設定したら、「OK」をクリックします。
3. Adobe Bridge Photo Downloader が表示されたら、写真の取り込み元ポップアップメニューからデジタルカメラまたはカードリーダーの名前を選択します。

「詳細設定」をクリックすると、デジタルカメラのメモリーカードにあるすべての写真のサムネイル画像が表示されます。
4. 一括して取り込まれる写真の集合から写真を削除するには、「詳細設定」をクリックし、写真のサムネイルの下にあるチェックボックスをクリックして選択を解除します。
5. 初期設定のフォルダーの場所を変更するには、「場所」の横にある「参照」ボタン (Windows) または「選択」ボタン (Mac OS) をクリックして、新しい保存場所を指定します。
6. 写真をサブフォルダーに保存するには、サブフォルダーを作成ポップアップメニューから次のいずれかを選択します。
 - 「今日の日付」を選択すると、現在の日付を名前に使用したサブフォルダーが作成されます。
 - 「撮影日」を選択すると、写真を撮影した日時を名前に使用したサブフォルダーが作成されます。
 - 「カスタム名」を選択すると、入力した名前を使用してサブフォルダーが作成されます。
7. 取り込むときにファイルの名前を変更するには、ファイル名を変更ポップアップメニューからオプションを選択します。一括して取り込むすべての写真で同じ名前が使用され、末尾に各写真の通し番号が付加されます。カメラの元のファイル名を XMP メタデータに保持して後で参照するには、「現在のファイル名を XMP で保持」を選択します。
8. 写真を取り込んだ後で Adobe Bridge を開くには、「Adobe Bridge を開く」を選択します。
9. 取り込むときに Camera Raw ファイルを DNG に変換するには、「DNG に変換」を選択します。
10. ダウンロード後に元の写真をカメラまたはカードリーダーから削除するには、「オリジナルファイルを削除」を選択します。
11. 取り込むときに写真のコピーを保存するには、「コピーを次の場所に保存」を選択し、保存場所を指定します。
12. (オプション) メタデータを適用するには、「詳細設定」ボタンをクリックします。次に、「作成者」テキストボックスと「著作権情報」テキストボックスに情報を入力するか、使用するテンプレートポップアップメニューからメタデータテンプレートを選択します。
13. 「取り込み」ボタンをクリックします。取り込みが終わると、Adobe Bridge に写真が表示されます。



Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Adobe Bridge でのファイルスタックの作成

ファイルスタックの作成

スタックの管理

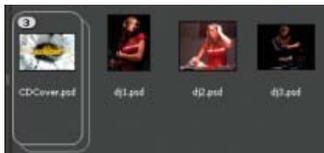
スタック内の画像のプレビュー

スタックを使用すると、1つのサムネールの下にファイルをグループ化することができます。あらゆる種類のファイルからスタックを作成できます。例えば、スタックを使用して、通常、多くの画像ファイルで構成される画像シーケンスを整理することができます。

注意： Adobe Bridge のスタックは、画像のグループをレイヤーに変換してスマートオブジェクト内に格納する Photoshop の画像のスタックとは異なります。

単一のファイルに適用されるコマンドは、スタックにも適用されます。例えば、単一のファイルにラベルを付けるように、スタックにもラベルを付けることができます。展開されたスタックにコマンドを適用すると、スタック内のすべてのファイルに適用されます。表示が省略されているスタックに対して適用したコマンドは、スタックの一番上のファイルにのみ適用される（スタックの一番上のファイルのみ選択した場合）か、またはスタック内にあるすべてのファイルに適用されます（スタックの境界線をクリックしてスタック内のファイルをすべて選択した場合）。

スタックの初期設定の並べ替えの順序は、スタックが格納されているフォルダーの並べ替えの順序と同じになります。



コンテンツパネルの Adobe Bridge スタック（表示の省略時）



展開されたスタック

ファイルのスタックに関するチュートリアルについては、Conrad Chavez による [Stacking and renaming files](#) を参照してください。

ファイルスタックの作成

[ページの先頭へ](#)

- スタックに含めるファイルを選択し、スタック/スタックにグループ化を選択します。最初に選択したファイルが、スタックのサムネールになります。スタック上に表示される数字は、スタック内のファイルの数を示します。

スタックの管理

[ページの先頭へ](#)

- スタックサムネールを変更するには、新しくサムネールにするファイルを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、スタック/スタックの最上位にプロモートを選択します。
- 表示が省略されているスタックを展開するには、スタックの数字をクリックするか、スタック/スタックを開くを選択します。すべてのスタックを展開するには、スタック/すべてのスタックを展開を選択します。
- 展開されているスタックの表示を省略するには、スタックの数字をクリックするか、スタック/スタックを閉じるを選択します。すべてのスタックの表示を省略するには、スタック/すべてのスタックを折りたたむを選択します。
- スタックにファイルを追加するには、追加するファイルをスタックにドラッグします。

注意：あるスタックを別のスタックに追加できますが、スタックを階層構造にすることはできません。追加されたスタック内のファイルは、既存のスタックのファイルと共にグループ化されます。

- スタックからファイルを削除するには、スタックを展開し、スタックから外にファイルをドラッグします。スタックからすべてのファイルを削除するには、表示が省略されたスタックを選択し、スタック/スタックからグループ化解除を選択します。
- 表示が省略されたスタック内のすべてのファイルを選択するには、スタックの境界線をクリックします。または、Alt キー（Windows） / Control キー（Mac OS）を押しながら、スタックのサムネールをクリックします。

スタック内の画像のプレビュー

10 個以上の画像を含んだスタックでは、指定したフレームレートで画像をプレビュー（スクラブ）したり、オニオンスキンを有効にしたりできます。オニオンスキンを使用すると、先行するフレームや後続するフレームを、現在のフレーム上に半透明のオーバーレイとして表示できます。

- スタックをプレビューするには、コンテンツパネルでスタック上にマウスポインターを置いてスライダーが表示されるまで待ち、「再生」をクリックするか、スライダーをドラッグします。「再生」ボタンまたはスライダーが表示されない場合は、Adobe Bridge ウィンドウの下部にあるサムネールのスライダーをドラッグしてサムネールのサイズを大きくします。
- 再生フレームレートを設定するには、スタックを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、スタック / フレームレートメニューからフレームレートを選択します。
- 初期設定のスタックの再生フレームレートを設定するには、再生環境設定のスタックの再生フレームレートメニューからフレームレートを選択します。
- オニオンスキンを有効にするには、スタックを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、スタック / オニオンスキンを有効化を選択します。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Adobe Bridge でのコレクションの使用

- コレクションの作成
- スマートコレクションの作成
- スマートコレクションの編集
- コレクション名の変更
- コレクションの削除
- コレクションへのファイルの追加
- コレクションからのファイルの削除
- コレクション間でのファイルのコピー
- 見つからないファイルの検索

コレクションは、複数の異なるフォルダーやドライブにある写真を一か所にまとめて参照しやすくします。スマートコレクションは、保存した検索条件から生成されるコレクションの一種です。コレクションパネルでは、コレクションを作成および検索し、開くことができます。スマートコレクションを作成および編集することもできます。

コレクションの作成

[ページのトップへ](#)

- 次のいずれかの操作を行います。
 - コレクションパネルの下部にある新規コレクションボタン  をクリックして、新しい空のコレクションを作成します。
 - コンテンツパネルからファイルを選択し、コレクションパネルの新規コレクションボタンをクリックします。選択したファイルを新しいコレクションに含めるかどうかを確認するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

初期設定では、コレクション内のファイルを選択すると、コレクションフォルダー内に配置されているファイルとして一覧表示されます。ファイルが実際に保存されているフォルダーに移動するには、そのファイルを選択し、ファイル/Bridge で表示を選択します。

スマートコレクションの作成

[ページのトップへ](#)

- コレクションパネルの下部にある新規スマートコレクションボタン  をクリックします。

お気に入りパネルに対してスマートコレクションを追加または削除するには、コレクションパネルまたはお気に入りパネルのスマートコレクションを右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Mac OS) し、「お気に入りに追加」または「お気に入りから削除」を選択します。

スマートコレクションの編集

[ページのトップへ](#)

- コレクションパネルでスマートコレクションを選択します。
- スマートコレクションを編集ボタン  をクリックします。
- スマートコレクションの新しい条件を指定し、「保存」をクリックします。

注意： 条件を編集して、スマートコレクションから写真を削除します。スマートコレクションを表示した状態で写真を削除すると、写真はごみ箱 (Windows) またはゴミ箱 (Mac OS) に送られます。

コレクション名の変更

[ページのトップへ](#)

- 次のいずれかの操作を行います。
 - コレクション名をダブルクリックし、新しい名前を入力します。
 - コレクション名を右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Mac OS) し、メニューから「名前変更」を選択します。次に、コレクション名を上書きします。

コレクションの削除

[ページのトップへ](#)

コレクションを削除するには、Adobe Bridge でそのコレクションをコレクションリストから削除します。ファイルはハードディスクからは削除されません。

- コレクションを削除するには、次のいずれかの操作を行います。
 - コレクションパネルで、コレクション名を選択し、コレクションを削除ボタンをクリックします。
 - コレクション名を右クリック（Windows）するか、Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、メニューから「削除」を選択します。

コレクションへのファイルの追加

[ページのトップへ](#)

- コレクションにファイルを追加するには、次のいずれかの操作を行います。
 - コンテンツパネル、エクスプローラー（Windows）または Finder（Mac OS）から、コレクションパネルのコレクション名にファイルをドラッグします。
 - コンテンツパネルからコレクションパネルのコレクション名にファイルをドラッグします。

コレクションからのファイルの削除

[ページのトップへ](#)

- コレクションからファイルを削除するには、コレクションパネルでコレクションを選択し、次のいずれかの操作を行います。
 - コンテンツパネルでファイルを選択し、「コレクションから削除」をクリックするか、右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）して、「コレクションから削除」を選択します。
 - コンテンツパネルでファイルを選択し、Delete キーを押します。「除外」をクリックしてファイルを除外するか、「削除」をクリックしてファイルをごみ箱（Windows）またはゴミ箱（Mac OS）に移動するか、「キャンセル」をクリックしてファイルを保持します。

コレクション間でのファイルのコピー

[ページのトップへ](#)

1. コレクションパネルでコレクションを選択します。
2. コンテンツパネルから、コレクションパネルの移動先のコレクションに、ファイルをドラッグします。

見つからないファイルの検索

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge では、コレクション内のファイルの場所が追跡されます。Adobe Bridge でファイルを移動した場合は、ファイルはコレクション内に保持されます。コレクションに、エクスプローラー（Windows）または Finder（Mac OS）で移動または名前変更されたファイルが含まれている場合、またはコレクションを表示したときに接続されていないリムーバブルハードディスク上にファイルがある場合、コンテンツパネルの上部にファイルが見つからないことを示す警告が表示されます。

1. 「修正」をクリックして、見つからないファイルを探します。
2. 不明なファイルを検索ダイアログボックスで、見つからないファイルを選択し、次のいずれかの操作を行います。
 - ファイルの新しい保存場所に移動するには、「参照」をクリックします。
 - 見つからないファイルを無視するには、「スキップ」をクリックします。
 - 見つからないファイルをコレクションから削除するには、「削除」をクリックします。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Adobe Bridge でのキーワードの使用

新しいキーワードとサブキーワードの作成

- ファイルへのキーワードの追加
- ファイルからのキーワードの削除
- キーワードの管理
- キーワードの検索
- キーワードの取り込みまたは書き出し

キーワードパネルでは、Adobe Bridge のキーワードを作成してファイルに適用できます。キーワードは、親キーワードと子キーワード（サブキーワード）から構成されるキーワードグループに整理することができます。キーワードを使用すると、ファイルの内容を基にしてファイルを識別できます。例えば、フィルターパネルを使用して、フォルダー内でキーワードを共有するすべてのファイルを表示したり、「検索」コマンドを使用して、指定したキーワードを含むファイルを見つけたりすることができます。

詳しくは、[ネスト化された階層的なキーワードの作成 | Adobe Bridge](#) を参照してください。

新しいキーワードとサブキーワードの作成

[ページのトップへ](#)

1. キーワードパネルでキーワードを選択します。

例えば、「名前」を選択している場合、新規キーワードを追加すると「名前」と同じレベルにキーワードが作成されます（「スポーツ」など）。新規サブキーワードを追加すると、「名前」の下にキーワードが作成されます（「ジュニアータ」など）。

2. 新規キーワードボタン  または新規サブキーワードボタン  をクリックするか、パネルメニューから「新規キーワード」または「新規サブキーワード」を選択します。
3. キーワードの名前を入力して Enter キーまたは Return キーを押します。

親キーワードを、構造用に使用したい場合は、[名前] のようにキーワードを角かっこで囲みます。角かっこで囲まれたキーワードは、ファイルに追加できません。

キーワードパネルの下部にある検索ボックスを使用して、キーワードを追加することもできます。サブキーワードであることを示すにはコンマを使用し、別個のエントリであることを示すにはセミコロンを使用します。例えば、場所カテゴリに「ロサンゼルス」を追加するには、「場所」キーワードを選択し、「ロサンゼルス」と入力してから新規サブキーワードボタンをクリックします。

ファイルへのキーワードの追加

[ページのトップへ](#)

1. キーワードを追加するファイルを選択します。
2. キーワードパネルで、キーワードまたはサブキーワードの横にあるボックスをクリックします。同時に親キーワードを選択するには、Shift キーを押しながらクリックします。

選択したファイルにキーワードを追加すると、キーワード名の横のボックスにチェックマークが表示されます。複数ファイルを選択し、その中の一部のファイルにのみキーワードを追加した場合、キーワードボックスにハイフン (-) が表示されます。

注意： Shift キーを押しながらサブキーワードをクリックすると、ファイルにはその親キーワードも追加されます。サブキーワードをクリックしたときに親キーワードを自動的に追加するよう（Shift キーを押しながらクリックした場合はサブキーワードのみを追加）動作を変更するには、キーワード環境設定の「親キーワードを自動的に適用」をオンにします。

ファイルからのキーワードの削除

[ページのトップへ](#)

- チェックマークを解除するには、ファイルを選択し、キーワードまたはサブキーワードの横にあるボックスをクリックします。同時に親キーワードからチェックマークを削除するには、Shift キーを押しながらボックスをクリックします。
- チェックマークを強制的に解除するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらキーワードボックスをクリックします。この方法は、複数ファイルを選択し、その一部のファイルにのみキーワードを設定しているために、キーワードボックスにハイフンが表示されている場合に特に役立ちます。キーワードおよびその親キーワードすべてのチェックマークを強制的に解除するには、Alt + Shift キー（Windows）または Option + Shift キー（Mac OS）を押しながらボックスをクリックします。
- ファイルを選択し、キーワードパネルメニューから「キーワードを削除」を選択します。キーワードの削除を確認するダイアログボックスで「はい」をクリックします。

ヒント：キーワードを誤って削除しないようにファイルをロックするには、コンテンツパネルでファイルを右クリック（Windows）するか、Control キーを押しながらクリック（Mac OS）して、「項目をロック」を選択します。項目をロックすると、キーワードの追加や削除、メタデータの編集、ラベルやレーティングの適用ができなくなります。

キーワードの管理

- 次のいずれかの操作を行います。
 - キーワードの名前を変更するには、キーワードまたはサブキーワードを選択し、パネルメニューから「名前変更」を選択します。次に、パネル内でキーワード名を入力し、Enter キーまたは Return キーを押します。

注意：キーワードの名前を変更すると、名前の変更は選択したファイルにのみ適用されます。その他のファイルについては、以前追加されたキーワード名のまま残ります。
 - キーワードを別のキーワードグループに移動するには、キーワードを移動先の親キーワードにドラッグして、マウスボタンを離します。
 - サブキーワードをキーワードに変更するには、キーワード一覧の下にあるサブキーワードを、キーワードパネルの一番下にドラッグします。
 - キーワードをキーワードパネルから削除するには、キーワード名をクリックしてキーワードを選択し、パネルの一番下にあるキーワードを削除ボタン  をクリックするか、パネルメニューから「削除」を選択します。

注意：他のユーザーのファイルなど、キーワードパネルに存在しないキーワードが適用されているファイルを選択した場合、そのキーワードは一時的なキーワードとして斜体で表示されます。Adobe Bridge でこれらのキーワードを永続的に保持するには、キーワードを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Mac OS) して、コンテキストメニューから「固定する」を選択します。
 - キーワードのカテゴリを展開または折りたたむには、カテゴリの横にある矢印をクリックするか、パネルメニューから「すべてを展開」または「すべてを折りたたむ」を選択します。
 - キーワードを使用してファイルを検索するには、キーワードパネルメニューから「検索」を選択します (Adobe Bridge でのファイルやフォルダーの検索を参照してください)。

キーワードの検索

- キーワードパネルの下部にあるボックスに、検索するキーワードの名前を入力します。

初期設定では、入力した文字を含むすべてのキーワードがハイライト表示されます。最初に見つかった語句は緑色でハイライト表示され、その後に見つかった語句は黄色でハイライト表示されます。ハイライト表示されている別の語句を選択するには、「次のキーワードを検索」または「前のキーワードを検索」をクリックします。

入力した文字で始まるキーワードのみをハイライト表示するには、検索ボックスの拡大鏡アイコンをクリックし、検索方法として「で始まる」を選択します。例えば、「を含む」を選択した場合、「in」と入力すると「Indiana」と「Maine」の両方がハイライト表示されますが、「で始まる」を選択した場合、「Indiana」のみがハイライト表示されます。

キーワードの取り込みまたは書き出し

Adobe Photoshop Lightroom などの他のアプリケーションから書き出した、タブインデントされたテキストファイルを読み込むことができます。Adobe Bridge キーワードをテキストファイルとして書き出すこともできます。これらのファイルは、UTF-8 または ASCII (UTF-8 のサブセット) でエンコードされます。

- 既存のキーワードを削除することなくキーワードファイルを Adobe Bridge に読み込むには、キーワードパネルメニューから「読み込み」を選択し、読み込むファイルをダブルクリックします。
- キーワードファイルを Adobe Bridge に読み込み、既存のキーワードを削除するには、キーワードパネルメニューから「消去および読み込み」を選択し、読み込むファイルをダブルクリックします。
- キーワードを書き出すには、キーワードパネルメニューから「書き出し」を選択し、ファイル名を指定して「保存」をクリックします。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

Adobe Bridge でのメタデータの処理

[メタデータについて](#)
[メタデータパネル](#)
[メタデータプラカード](#)
[メタデータの表示](#)
[メタデータパネルでのメタデータの編集](#)
[Adobe Bridge での Camera Raw と Lightroom のメタデータの表示](#)
[リンクされた InDesign ファイルの表示](#)
[カラー \(Illustrator および InDesign\) またはフォント \(InDesign\) の表示](#)
[ファイル情報ダイアログボックスでのメタデータの追加](#)
[メタデータテンプレートの操作](#)
[ドキュメントへのメタデータの読み込み](#)

メタデータについて

[ページのトップへ](#)

メタデータとは、ファイルに関する標準化された情報のセットです。この情報には、作者名、解像度、カラースペース、著作権、ファイルに適用されているキーワードなどがあります。例えば、ほとんどのデジタルカメラでは、画像の高さと幅、ファイル形式、撮影日時などの基本的な情報が画像に添付されます。メタデータはワークフローの簡略化やファイルの整理に使用できます。

XMP 標準について

メタ情報は Extensible Metadata Platform (XMP) 標準を使用して保存されます。Adobe Bridge®、Adobe Illustrator®、Adobe InDesign® および Adobe Photoshop はこの標準に基づいて設計されています。Photoshop® Camera Raw による画像の調整内容は XMP メタデータとして保存されます。XMP は XML に基づいており、ほとんどの場合、メタデータは該当のファイルに保存されます。これらの情報を該当のファイルに保存できない場合、メタデータはサイドカーファイルと呼ばれる別のファイルに保存されます。XMP は、Adobe アプリケーション間および印刷出版関連の工程でのメタデータの交換に役立ちます。例えば、あるファイルのメタデータをテンプレートとして保存し、そのメタデータを別のファイルに読み込むことができます。

Exif、IPTC (IIM)、GPS、TIFF などの他の形式で保存されているメタデータは、より簡単に表示および管理できるように XMP と同期され、XMP で記述されます。(Adobe Drive などの) 他のアプリケーションおよび機能でも、バージョンに関するコメントなどの情報は XMP を使用してやり取りおよび保存されます。この情報は、Adobe Bridge を使用して検索できます。

ほとんどの場合、PSD から JPG へファイル形式を変更した場合でも、メタデータはファイルと共に残っています。Adobe ドキュメントまたはプロジェクトにファイルを配置する際も、メタデータは保持されます。

C++ または Java を使用して開発する場合は、XMP Toolkit SDK を使用してメタデータの処理および交換をカスタマイズできます。Adobe Flash® や Flex を使用して開発する場合は、XMP File Info SDK を使用してファイル情報ダイアログボックスをカスタマイズできます。詳しくは、アドビ システムズ社の Web サイトを参照してください。

Adobe Bridge および Adobe Creative Suite コンポーネントでのメタデータの処理

ファイルとバージョンの整理、検索、管理を行うことができる Adobe Bridge の強力な機能の多くは、ファイル内の XMP メタデータを利用しています。Adobe Bridge には、メタデータを操作する方法が 2 つ用意されています。メタデータパネルを使用する方法と、ファイル情報ダイアログボックスを使用する方法です。

場合によっては、同じメタデータのプロパティに複数の表示が存在することがあります。例えば、ある表示で「作者」というラベルを持つプロパティが、他の表示では「作成者」というラベルを持つことが考えられますが、いずれの場合も情報元として参照するプロパティは同じです。特定のワークフローに合わせてこれらの表示画面をカスタマイズした場合でも、XMP によって標準化された状態が維持されます。

メタデータパネル

[ページのトップへ](#)

ファイルのメタデータには、ファイルの内容、著作権のステータス、作成元および履歴に関する情報が含まれます。メタデータパネルでは、選択したファイルのメタデータの表示および編集、メタデータを使用したファイルの検索、テンプレートを使用したメタデータの追加および置き換えを行うことができます。

選択したファイルに基づいて、次の種類のメタデータが表示されます。

ファイルプロパティ サイズ、作成日、修正日など、ファイルの特性を表示します。

IPTC (IIM、レガシー) 説明や著作権情報など、編集可能なメタデータを表示します。IPTC コアに置き換えられているので、初期設定では非表示になっています。ただし、環境設定ダイアログボックスの「メタデータ」オプションから選択することによって、IPTC (IIM、レガシー) メタデータを表示することができます。

IPTC コア ファイルに関する編集可能なメタデータを表示します。IPTC コアの仕様は、特にニュースや写真素材などのプロの写真を対象に IPTC (International Press Telecommunications Council) が定めたものです。

IPTC Extension 権利関係の詳細を含め、写真の内容に関する追加識別情報があります。

フォント Adobe InDesign ファイルで使用されているフォントを一覧表示します。

リンクされたファイル Adobe InDesign ドキュメントにリンクしているファイルを表示します。

プレート Adobe Illustrator ファイルで印刷用に指定されている CMYK 版を一覧表示します。

スウォッチ Adobe InDesign および Adobe Illustrator ファイルで使用されているスウォッチを一覧表示します。

カメラデータ (Exif) 画像の撮影時に使用されたカメラ設定など、デジタルカメラによって割り当てられた情報が表示されます。

GPS 一部のデジタルカメラで利用できる全地球測位システム (GPS) からの位置情報を表示します。GPS 情報を含まない写真には、GPS メタデータがありません。

Camera Raw Camera Raw プラグインによって適用された設定を表示します。

オーディオ アーティスト、アルバム、トラック番号、ジャンルなど、オーディオファイルのメタデータが表示されます。

ビデオ ピクセルの縦横比、シーン、ショットなど、ビデオファイルのメタデータが表示されます。

ヒストリー編集 Photoshop で画像に加えられた変更のログが記録されます。

注意：ログがファイルのメタデータに保存されるようにするには、Photoshop で環境設定の「ヒストリーログ」をオンにする必要があります。

DICOM DICOM (Digital Imaging and Communications in Medicine) 形式で保存された画像に関する情報が表示されます。

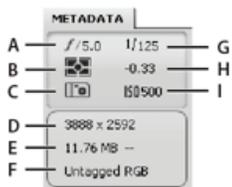
モバイル SWF タイトル、作成者、説明、著作権など、SWF ファイルに関する情報が一覧表示されます。

- メタデータパネルに表示されるメタデータを指定するには、次のいずれかの操作を行います。
 - メタデータパネルのメニューから「環境設定」を選択します。
 - 編集/環境設定 (Windows) または Adobe Bridge CS6/環境設定 (Mac OS) を選択し、左側の一覧から「メタデータ」を選択します。
- メタデータパネルに表示するメタデータフィールドを選択します。
- 情報が含まれていないフィールドを非表示にするには、「空のメタデータを隠す」を選択します。
- 「OK」をクリックします。

メタデータプラカード

[ページのトップへ](#)

メタデータプラカードでは、デジタルカメラのコマンドや機能で一般的に使用されるアイコンが使用されます。



メタデータプラカードのキー

A. 絞り B. 測光方式 C. ホワイトバランス D. ドキュメントのサイズ E. 画像サイズ F. カラープロファイルまたはファイル名拡張子 G. シャッタースピード H. 露出補正 I. ISO

メタデータプラカードに表示される測光方式アイコン

	平均または中央重点平均		評価
	スポット		マルチスポット
	マトリクスまたは分割		部分測光
	中央重点平均または中央重点		その他または不明
	デジタル ESP		

注意：測光モードアイコンについては、カメラに付属するマニュアルを参照してください。

	撮影時の設定		タングステン-白熱灯
	自動		蛍光灯
	昼光		フラッシュ
	曇天		カスタム
	日陰		

- メタデータブラカードの表示と非表示を切り替えるには、次のいずれかの操作を行います。
 - メタデータパネルメニューから「メタデータブラカードを表示」を選択または選択解除します。
 - メタデータ環境設定から「メタデータブラカードを表示」を選択または選択解除します。

メタデータの表示

[ページのトップへ](#)

- 次のいずれかの操作を行います。
 - ファイル（複数可）を選択し、メタデータパネルに情報を表示します。複数のファイルを選択した場合は、それらのファイルに共通するメタデータのみが表示されます。スクロールバーを使用して、隠れているカテゴリを表示できます。三角形をクリックすると、カテゴリ内のすべてのアイテムが表示されます。

パネルメニューの「フォントサイズを大きくする」または「フォントサイズを小さくする」を選択して、パネルのフォントサイズを変更することができます。
 - ファイル（複数可）を選択し、ファイル／ファイル情報を選択します。次に、ダイアログボックスの上部に表示されるカテゴリのいずれかを選択します。カテゴリをスクロールするには左向き矢印または右向き矢印を使用します。または、下向き矢印をクリックして、一覧からカテゴリを選択します。
 - 表示／詳細を選択して、コンテンツパネルのサムネールの横にメタデータを表示します。
 - 表示／リストを選択してコンテンツパネルの列にメタデータを表示します。
 - コンテンツエリアでサムネールの上にポインターを置きます（メタデータは、サムネール環境設定で「ツールヒントを表示」を選択している場合のみツールヒント内に表示されます）。

メタデータパネルでのメタデータの編集

[ページのトップへ](#)

- 編集するメタデータフィールドの右端にある鉛筆アイコンをクリックします。
- メタデータを編集または追加するには、ボックスに入力します。
- メタデータフィールド内を移動するには、Tab キーを押します。
- メタデータの編集が終了したら、メタデータパネルの一番下にある適用ボタン  をクリックします。変更を取り消すには、パネルの一番下にあるキャンセルボタン  をクリックします。

Adobe Bridge での Camera Raw と Lightroom のメタデータの表示

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge、Camera Raw および Lightroom のすべてで、メタデータの保存に XMP 標準が使用されるので、各アプリケーションでは、他のアプリケーションで実行されたメタデータの変更を読み取ることができます。例えば Adobe Bridge で写真に星や IPTC 情報を追加すると、Lightroom のライブラリモジュールにそのメタデータが表示されます。同様に、Camera Raw や Lightroom で行った写真の調整やメタデータの変更は、Adobe Bridge に表示されます。Lightroom で行うメタデータの変更が Adobe Bridge で認識されるためには、Lightroom で XMP に保存する必要があります。

Adobe Bridge では、ファイルの参照時にメタデータが再び読み取られ、変更が検出され、プレビューが自動的に更新されます。Adobe Bridge で、写真のメタデータが変更されたことが検出されたら、コンテンツパネルの写真のサムネールに設定変更を表すバッジ  が表示されます。

注意： Lightroom と Adobe Bridge を急いで切り替えると、更新がコンテンツパネルとプレビューパネルに表示されるまでに時間がかかる場合があります。Lightroom または Camera Raw でのメタデータの変更が、数秒待っても Adobe Bridge に自動的に表示されない場合は、表示／更新を選択するか、F5 キーを押します。

リンクされた InDesign ファイルの表示

[ページのトップへ](#)

リンクされたファイルを含む Adobe InDesign CS5 および CS6 ドキュメントには、コンテンツパネルでサムネールの右上にリンクバッジ  が表

示されます。リンクされたファイルのメタデータは、Adobe Bridge で使用可能です。

1. リンクされたファイルがある Adobe InDesign ドキュメントを、Adobe Bridge ウィンドウのコンテンツパネルで選択します。
2. メタデータパネルで、「リンクされたファイル」セクションを展開して、リンクされたファイルの名前とパスを表示します。
3. .indd ファイルを右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Mac OS) して「リンクされたファイルを表示」を選択すると、リンクされたファイルがコンテンツパネルに表示されます。

カラー (Illustrator および InDesign) またはフォント (InDesign) の表示

[ページのトップへ](#)

InDesign ドキュメントを選択すると、メタデータパネルにドキュメントで使用されているフォントおよびカラースウォッチが表示されます。Illustrator ドキュメントを選択すると、メタデータパネルにドキュメントで使用されているプレートおよびカラースウォッチが表示されます。

1. Adobe Bridge ウィンドウのコンテンツパネルで InDesign または Illustrator ドキュメントを選択します。
2. メタデータパネルで、「フォント」 (InDesign のみ)、「プレート」 (Illustrator のみ)、または「スウォッチ」セクションを展開します。

ファイル情報ダイアログボックスでのメタデータの追加

[ページのトップへ](#)

ファイル情報ダイアログボックスには、カメラデータ、ファイルのプロパティ、編集履歴、著作権および作成者の情報が表示されます。ファイル情報ダイアログボックスには、カスタムメタデータパネルも表示されます。メタデータは、ファイル情報ダイアログボックスから直接追加できます。複数のファイルを選択した場合、ダイアログボックスには、異なる値が存在するテキストフィールドが表示されます。フィールドに情報を入力すると、既存のメタデータは無視され、選択したすべてのファイルに新しい値が適用されます。

注意：メタデータは、メタデータパネルに表示されるほか、コンテンツパネルの特定のビューにも表示されます。また、コンテンツパネルのサムネイル上にポインターを置いて表示することもできます。

1. ファイルを 1 つ以上選択します。
2. ファイル/ファイル情報を選択します。
3. ダイアログボックスの上部に表示されるタブから次のいずれかを選択します。

右向き矢印キーおよび左向き矢印キーを使用してタブをスクロールするか、下向き矢印をクリックして一覧からカテゴリを選択します。

説明 「説明」には、ドキュメントのタイトル、作者名、説明およびキーワードなど、ドキュメントの検索に使用できる情報を入力できます。著作権情報を指定するには、著作権のステータスポップアップメニューから「著作権取得済み」を選択します。次に、著作権者、著作権情報のテキストと、著作権を所有する個人または会社の URL を入力します。

IPTC コア 4 つの領域が表示されます。「IPTC コンテンツ」には、画像の視覚的な内容の説明が表示され、「IPTC 連絡先」には、写真撮影者の連絡先情報が表示されます。「IPTC イメージ」には、画像に関する詳細な説明が表示されます。「IPTC ステータス」には、ワークフローおよび著作権に関する情報が表示されます。

IPTC Extension 権利関係の詳細を含め、写真の内容に関する追加識別情報があります。

カメラデータ 大きく分けて 2 種類の情報が含まれています。左側には、メーカー、モデル、シャッタースピード、F 値など、写真撮影に使用されたカメラと設定に関する読み取り専用の情報が表示されます。右側には、ピクセル単位の寸法と解像度などの写真に関する読み取り専用の情報を一覧表示します。

GPS 一部のデジタルカメラで利用できる全地球測位システム (GPS) からの位置情報を表示します。GPS 情報を含まない写真には、GPS メタデータがありません。

ビデオデータ ビデオフレームの幅と高さなどのビデオファイルに関する情報が一覧表示され、テープ名やシーン名などの情報を入力できます。

オーディオデータ タイトルやアーティスト名などの、オーディオファイルに関する情報を入力できます。

モバイル SWF タイトル、作成者、説明、コンテンツタイプなど、モバイルメディアファイルに関する情報が一覧表示されます。

カテゴリ Associated Press 社のカテゴリを基にして情報を入力できます。

作成元 ファイルの作成日時と作成場所、送信記録、特別な指示、ヘッドライン情報など、ニュースの配信に役立つファイル情報を入力できます。

DICOM DICOM 画像に関する患者、検査、シリーズおよび施設情報を一覧表示します。

ヒストリー Photoshop で保存された画像の Adobe Photoshop のヒストリーログ情報を表示します。「ヒストリー」オプションは、Adobe

Photoshop がインストールされている場合のみ表示されます。

詳細 名前空間構造に格納されているメタデータプロパティを表示します。

Raw データ ファイルに関する XMP テキスト情報を表示します。

- 表示されたフィールドに追加する情報を入力します。
- (オプション) ファイル情報ダイアログボックスの下部にある「環境設定」をクリックすると、メタデータをすばやく編集するためのオプションが表示されます。オプションにはオートコンプリートの有効化、XMP の変更のリセットおよび初期設定のダイアログボックスの復元があります。
- 「OK」をクリックして変更を適用します。

メタデータテンプレートの操作

[ページのトップへ](#)

「メタデータテンプレートの作成」コマンドを使用して、Adobe Bridge で新しいメタデータテンプレートを作成できます。ファイル情報ダイアログボックスでメタデータを編集し、.xmp という拡張子を付けて、テキストファイル形式で保存することもできます。XMP ファイルは他のユーザーと共有したり、他のファイルに適用したりすることができます。

InDesign ドキュメントや XMP 対応のソフトウェアで作成された他のドキュメントに入力するための手がかりとして、メタデータをテンプレートに保存しておくことができます。作成したテンプレートは、すべての XMP 対応ソフトウェアがアクセスすることができる共有された場所に保管されます。

- メタデータテンプレートを作成するには、ツール/メタデータテンプレートの作成を選択します。テンプレート名を入力し、含めるメタデータ値を選択します。次に、「保存」をクリックします。

注意：メタデータのチェックボックスを選択し、それに対するテキストフィールドを空白のままにしておいた場合、そのテンプレートを適用すると既存のメタデータが消去されます。

- エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac OS) で、保存されたメタデータテンプレートに移動するには、ツール/メタデータテンプレートの作成を選択します。メタデータテンプレートの作成ダイアログボックスの右上隅にあるポップアップメニューをクリックし、「テンプレートフォルダーの表示」を選択します。
- メタデータテンプレートを削除するには、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac OS) でテンプレートを選択し、Delete キーを押すか、ごみ箱 (Windows) またはゴミ箱 (Mac OS) にドラッグします。
- Adobe Bridge でメタデータテンプレートをファイルに適用するには、ファイルを 1 つ以上選択し、メタデータパネルメニューからコマンドを選択します。

メタデータを追加/[テンプレート名] テンプレートのメタデータを、ファイル内のメタデータ値またはプロパティが現在存在していない場所に適用します。

メタデータの置き換え/[テンプレート名] ファイル内の既存のメタデータをテンプレート内のメタデータに完全に置き換えます。

- メタデータテンプレートを編集するには、ツール/メタデータテンプレートを編集/[テンプレート名] を選択します。含めたメタデータにそれぞれ異なる値を入力して、「保存」をクリックします。
- ファイルのメタデータを XMP ファイルとして保存するには、ファイル/ファイル情報を選択します。ダイアログボックスの下部の環境設定ボタンの横にあるポップアップメニューをクリックし、「書き出し」を選択します。ファイル名を入力し、場所を指定して、「保存」をクリックします。

注意：メタデータは一度に 1 つのファイルからのみ書き出すことができます。複数のファイルを選択した場合は、書き出しオプションを使用できません。

ドキュメントへのメタデータの読み込み

[ページのトップへ](#)

- ファイルを 1 つ以上選択します。
- ファイル/ファイル情報を選択します。
- ダイアログボックス下部のポップアップメニューから「読み込み」を選択します。

注意：テンプレートからメタデータを読み込むには、メタデータテンプレートが既に作成されている必要があります。

- データを読み込む方法を指定します。

既存のプロパティを消去し、テンプレートのプロパティで置き換えます ファイル内のすべてのメタデータを XMP ファイル内のメタデータに置き換えます。

元のメタデータを維持しますが、テンプレートから適合するプロパティを置き換えます テンプレート内のプロパティが異なるメタデータのみを置き換えます。

元のメタデータを維持しますが、テンプレートから適合するプロパティを追加します (初期設定) テンプレートのメタデータを、ファイル内のメタデータ値またはプロパティが現在存在していない場所에만適用します。

5. 「OK」をクリックします。
6. XMP テキストファイルがある場所へ移動してファイルを選択し、「開く」をクリックします。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Adobe Bridge のキャッシュの操作

キャッシュの作成および管理

キャッシュの環境設定の設定

キャッシュには、サムネールを表示する際やファイルを検索する際のパフォーマンスを向上するために、サムネールとメタデータの情報（および、ファイルには格納できないラベルやレーティングなどのメタデータ）が格納されます。ただし、キャッシュの格納にはディスク容量が必要です。キャッシュを作成する場合、共有やアーカイブ用書き出すことを選択したり、100 %プレビューを生成することを選択したりできます。キャッシュをクリアしたり、キャッシュのサイズや保存場所を制御する環境設定を行ったりすることによって、キャッシュを管理できます。

キャッシュの作成および管理

[ページの先頭へ](#)

- ツール／キャッシュのサブメニューから次のいずれかのコマンドを選択します。

キャッシュの作成および書き出し 選択したフォルダーとそのフォルダー内のすべてのフォルダー（他のフォルダーへのエイリアスやショートカットを除く）のキャッシュをバックグラウンド処理で作成します。このコマンドによって、サブフォルダー内を参照する際にサムネールやファイル情報が表示されるまでの時間を短縮できます。キャッシュ内で 100 %プレビューを生成することによって、スライドショーやフルスクリーンプレビューで画像を表示する場合や、ルーペツールを使用する場合のパフォーマンスを向上させることができます。

キャッシュを作成ダイアログボックスの「キャッシュをフォルダーに書き出し」オプションを選択すると、共有またはディスクへのアーカイブ用のローカルキャッシュが作成されます。このオプションを選択すると、選択したフォルダーおよびそのサブフォルダー用のキャッシュファイルが作成されます。フォルダーをアーカイブ用に CD や DVD などの外部ディスクにコピーする場合は、キャッシュファイルもコピーされます。アーカイブされた CD 上のフォルダーなど、Adobe Bridge でこれまでに表示したことがないフォルダーに移動すると、書き出されたキャッシュを使用してサムネールが高速に表示されます。書き出されたキャッシュは、中央キャッシュに基づいており、重複した情報が含まれています。

注意：書き出されたキャッシュファイルは隠しファイルです。Adobe Bridge でキャッシュファイルを表示するには、表示／隠しファイルを表示を選択します。

フォルダー [選択したフォルダー] のキャッシュをクリア 選択したフォルダーのキャッシュをクリアします。このコマンドは、フォルダーのキャッシュが古くなっている可能性があり、再生成する必要がある場合に便利です（例えば、サムネールやメタデータが更新されていない場合など）。

キャッシュの環境設定の設定

[ページの先頭へ](#)

1. 編集／環境設定（Windows）または Adobe Bridge／環境設定（Mac OS）を選択します。
2. 「キャッシュ」をクリックします。
3. 次のいずれかの操作を行います。

100 %プレビューをキャッシュに保持 画像の 100 %プレビューをキャッシュに保持して、スライドショーやフルスクリーンプレビューでのズーム操作や、ルーペツール使用時の処理を高速化します。ただし、100 %プレビューをキャッシュに保持すると、使用ディスク領域が大幅に増加する場合があります。

可能な場合は自動的にキャッシュをフォルダーに書き出す 可能な場合に、表示したフォルダーに書き出したキャッシュファイルを作成します。例えば、読み取り専用ディスク上のフォルダーにはキャッシュファイルを配置できません。キャッシュファイルの書き出しは、例えば画像を共有する場合に便利です。画像は、別のコンピューターの Adobe Bridge で、より高速に表示できます。

場所 キャッシュを保存する場所を選択します。新しい場所は、次回 Adobe Bridge を起動したときに有効になります。

キャッシュサイズ スライダーをドラッグして、キャッシュサイズを増減させます。キャッシュが指定された制限値（500,000 レコード）に近づいた場合や、キャッシュが格納されているボリュームがいっぱいになった場合は、Adobe Bridge を終了したときにキャッシュされている古い項目が削除されます。

キャッシュを圧縮 古くなったレコードを削除してレコードの総数を減らすことによってキャッシュを最適化します。

キャッシュを削除 キャッシュ全体を削除して、ハードディスクの使用可能領域を増やします。

Adobe Bridge でのタスクの自動化

ツールメニューからのタスクの実行
ファイル名をバッチで変更
HDR およびパノラマ画像の自動スタック

ツールメニューからのタスクの実行

[ページのトップへ](#)

ツールメニューには、Adobe 製品で使用できる様々な各種コマンドのサブメニューが含まれています。例えば、Adobe Photoshop をインストールしている場合は、ツール/Photoshop サブメニューにあるコマンドで、Adobe Bridge で選択した写真を処理できます。これらのタスクを Adobe Bridge から実行すると、各ファイルを個別に開く必要がないので、時間の節約になります。

注意： サードパーティは、独自のアイテムを作成して、ツールメニューに追加し、Adobe Bridge の機能を追加することができます。スクリプトの作成について詳しくは、[Bridge デベロッパーセンター](#)を参照してください。

Adobe Bridge には、便利な自動スクリプトも含まれています。Adobe Bridge CS6 では、例えば、Adobe Output Module スクリプトを使用すると、Web フォトギャラリーを作成したり、Adobe PDF コンタクトシートやフルスクリーンスライドショーを生成したりすることができます。Auto Collection CS5 スクリプトを使用すると、写真のスタックを作成し、Photoshop でパノラマ画像や HDR 画像を生成できます。

1. 使用するファイルまたはフォルダーを選択します。フォルダーを選択した場合、可能な場合にはフォルダー内のすべてのファイルにコマンドが適用されます。
2. ツール/[コンポーネント]を選択し、必要なコマンドを選択します（コンポーネントに自動化されている使用可能なタスクがない場合は、ツールメニューに表示されません）。

特定のコマンドについて詳しくは、コンポーネントのマニュアルを参照または検索してください。

ファイル名をバッチで変更

[ページのトップへ](#)

バッチ処理を使用して、複数のファイルの名前を一度に変更することができます。ファイル名をバッチで変更する場合は、フォルダー内または選択したファイルすべてに同じ設定を適用できます。その他のバッチ処理タスクについては、スクリプトを使用して自動化されたタスクを実行できます。

1. 名前を変更するファイルを選択します。
2. ツール/ファイル名をバッチで変更を選択します。
3. 次のオプションを設定します。

保存先フォルダー 名前を変更したファイルは、同じフォルダーに保存するか、別のフォルダーに保存するか、コピーを別のフォルダーに保存することができます。名前を変更したファイルを別のフォルダーに保存する場合は、「参照」をクリックしてフォルダーを選択します。

新しいファイル名 メニューから要素を選択し、必要に応じてテキストを入力して、新しいファイル名を作成します。プラス記号ボタン (+) またはマイナス記号ボタン (-) をクリックして、要素を追加または削除することができます。

文字の置き換え

ファイル名の全体または一部をカスタムテキストに変更できます。まず、置換の対象を選択します。「元のファイル名」を選択すると、元のファイル名の文字列が置換されます。「中間ファイル名」を選択すると、「新しいファイル名」セクション内の先行する要素の指定によって定義された名前（中間ファイル名）を、さらに変更できます。「正規表現を使用」では、正規表現を使用して、ファイル名のパターン一致で文字列を検索できます。「すべてを置換」では、ソース文字列のパターンに一致するすべてのサブ文字列が置換されます。

オプション メタデータ内の元のファイル名を保持する場合は、「XMP メタデータ内に現在のファイル名を保持」を選択します。「互換性」で、名前を変更したファイルと互換性を持たせるオペレーティングシステムを 1 つ以上選択します。初期設定で現在のオペレーティングシステムが選択されており、この選択を解除することはできません。

プレビュー ファイル名をバッチで変更ダイアログボックスの下部にあるプレビュー領域に、現在のファイル名と新しいファイル名がそれぞれ表示されます。選択されているすべてのファイル名がどのように変更されるかを確認するには、「プレビュー」ボタンをクリックします。

4. (オプション) よく使用する命名方法に従って名前を変更するには、プリセットメニューからプリセットを選択します。ファイル名をバッチで変更する設定を保存して再利用するには、「保存」をクリックします。

ファイル名のバッチ変更について詳しくは、次のいずれかのチュートリアルを参照してください。

- [Stacking and renaming files](#) (執筆: Conrad Chavez)

- [Batch-renaming](#) (制作：Deke McClelland)
- [Changing obscure camera filenames with the Batch Rename command](#) (制作：Michael Ninness)

[ページのトップへ](#)

HDR およびパノラマ画像の自動スタック

Adobe Bridge の Auto Collection スクリプトは、画像のセットから、Photoshop でハイダイナミックレンジ (HDR) 画像またはパノラマコンボジットとして処理するためのスタックを生成します。このスクリプトは、撮影時刻、露出設定および画像の配置に基づいて、画像を収集し、スタックを生成します。Auto Collection スクリプトで写真を処理する場合、タイムスタンプが 18 秒以内である必要があります。露出の設定が写真によって異なり、内容が 80 %以上重なり合っている場合、それらの写真は HDR セットとして解釈されます。露出が一定で、内容の重なり合いが 80 %未満である場合、それらの写真はパノラマの一部であると解釈されます。

注意： Auto Collection を使用するには、Adobe Bridge と共に Photoshop CS5 以降が必要です。

1. Auto Collection スクリプトを有効にするには、編集／環境設定 (Windows) または Adobe Bridge／環境設定 (Mac OS) を選択します。
2. スタートアップスクリプトパネルで、「Auto Collection」を選択し、「OK」をクリックします。
3. HDR またはパノラマ撮影の画像を含むフォルダーを選択し、スタックメニューの「自動スタック パノラマ / HDR」を選択します。
4. ツール／Photoshop／Photoshop でコレクションを生成を選択すると、画像が自動的に結合され、Adobe Bridge で結果が表示されます。

注意： Photoshop におけるパノラマと HDR について詳しくは、Photoshop Community Help のトピック [Photomerge でのパノラマ画像の作成とハイダイナミックレンジ画像](#)を参照してください。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Web ギャラリーと PDF の作成 | CS6、CS5.5、CS5

[Web フォトギャラリーの作成](#)

[ビデオチュートリアル：Adobe Bridge でのイメージギャラリーの作成](#)

[PDF コンタクトシートの作成](#)

[Adobe Output Module の環境設定](#)

Adobe® Output Module は、Adobe Bridge CS5 および CS6 に付属するスクリプトです。Adobe Output Module を使用して、Web サーバーにアップロードする HTML や Flash® の Web ギャラリーを作成できます。また、PDF コンタクトシートやプレゼンテーションを作成することもできます。

Adobe Output Module は出力ワークスペースから使用できます。

Web フォトギャラリーの作成

[ページのトップへ](#)

Web フォトギャラリーとは、サムネイル画像が表示されるホームページと、サムネイル画像をクリックするとフルサイズ画像が表示されるギャラリーページとで構成される Web サイトです。Adobe Output Module には様々なギャラリーテンプレートが用意されており、出力パネルで選択し、カスタマイズできます。

1. ギャラリーに含める画像を選択し、ウィンドウ/ワークスペース/出力を選択します。次に、出力パネルの上部にある「Web ギャラリー」ボタンをクリックします。

出力ワークスペースがリストされていない場合は、Adobe Bridge の環境設定を開き（Windows では Ctrl + K キー、Mac OS では Command + K キー）、スタートアップスクリプトパネルを選択し、Adobe Output Module を選択します。

2. テンプレートメニューからギャラリーを選択し、スタイルメニューからサムネイルのサイズなどを指定します。次に、以下のセクションのオプションを使用して、ギャラリーの外観をカスタマイズします。

サイト情報 ギャラリーのすべてのページに表示する情報を指定します。これには、タイトル、説明、問い合わせ先および電子メールアドレスが含まれます。

カラーパレット オプションは、選択するテンプレートによって異なります。テキスト、ヘッダーテキスト、背景、境界線など、ギャラリー内の各要素の色を選択します。

アピアランス オプションは、選択するテンプレートによって異なります。画像とサムネイルのサイズ、JPEG 画像の画質、切り替え方法、レイアウト、HTML ギャラリーの画像にファイル名を含めるかどうかを指定します。

画像情報（Airtight ギャラリーのみ）画像のメタデータに基づくキャプションをギャラリーの画像に表示します。

出力設定（Airtight ギャラリーのみ）JPEG ギャラリー画像のサイズと画質を指定します。

- 3.（CS5 のみ）「プレビューを更新」をクリックして、ギャラリーを Adobe Bridge の出力プレビューパネルに表示します。ギャラリーを初期設定の Web ブラウザーでプレビューするには、「ブラウザーでプレビュー」をクリックします。

注意： ギャラリーの出力プレビューには 20 ファイルまでしか表示されませんが、ギャラリー全体が保存され、アップロードされます。

- 4.（オプション）スタイルを保存ボタン  をクリックして、カスタム設定を再利用できるように保存します。

5. ギャラリーを FTP でアップロードするには、「ギャラリーを作成」ドロワーを開きます。FTP サーバーのアドレス、ユーザー名、パスワードおよび保存先フォルダーを入力します。次に「アップロード」をクリックします。

注意： サーバーのパスを入力するときには、ディレクトリの区切り文字としてスラッシュを使用します。Web サーバー上のパブリックフォルダーにアクセスするパスについては、Web ホスティングプロバイダーに確認してください。

注意： Tab キーをクリックするか押して別のフィールドに移動すると、「パスワード」フィールドに入力したテキストに文字が追加されます。この処理は、セキュリティ上の理由によるものです。

6. ギャラリーをハードドライブに保存するには、「ギャラリーを作成」ドロワーを開き、「保存先」を指定します。「保存」をクリックします。

PDF コンタクトシートの作成

[ページのトップへ](#)

Adobe Output Module を使用して、1 つまたは複数の画像から PDF コンタクトシートを作成できます。複数の画像があるコンタクトシートでは、レイアウト内のすべての画像サイズが統一されます。再生オプションを指定することで、フルスクリーン表示またはスライドショー表示として使用する PDF を作成することもできます。

注意： コンタクトシート II プラグインを使用することもできます。Adobe Bridge でツール/Photoshop/コンタクトシート II を選択します。詳しくは、Photoshop Community Help の [ビクチャパッケージレイアウトでの写真のプリント](#) を参照してください。

1. PDF ファイルに含める画像を選択し、ウィンドウ/ワークスペース/出力を選択します。次に、出力パネルの上部にある PDF ボタンをクリックします。
出力スペースがリストされていない場合は、Adobe Bridge の環境設定を開き（Windows では Ctrl + K キー、Mac OS では Command + K キー）、スタートアップスクリプトパネルを選択し、Adobe Output Module を選択します。
2. テンプレートメニューからオプションを選択します。次に、以下のセクションにあるオプションを使用して PDF をカスタマイズします。
ドキュメント ページサイズ、向き、出力の画質（ppi）、JPEG 画像の圧縮画質、背景色および権限オプションを指定します。
レイアウト 画像の配置と間隔のオプションを指定します。
オーバーレイ 各画像の下にファイル名を出力し、ヘッダーまたはフッターにページ番号を出力します。
ヘッダー、フッター ヘッダーとフッターを有効にし、その位置と形式を指定します。
再生 PDF を Adobe Acrobat® または Adobe Reader® で再生する方法を指定します。
透かし 各ページまたは各画像にテキストまたはグラフィックの透かしを追加します。テキストのフォント、サイズおよびカラーをカスタマイズします。テキストまたはグラフィックのスケール、不透明度、オフセットおよび回転をカスタマイズします。
3. 「プレビューを更新」をクリックして、PDF を出力プレビューパネルでプレビューします。
注意： 出力プレビューパネルには、PDF の最初のページだけが表示されます。
4. （オプション）テンプレートを保存ボタン  をクリックして、カスタム設定を再利用できるように保存します。
5. PDF を保存した後に、Acrobat または Reader で自動的に開くには、出力パネルの下部にある「保存後 PDF ファイルを表示」を選択し、「保存」をクリックします。Acrobat で開かない場合は、単に「保存」をクリックします。

Adobe Output Module の環境設定

[ページのトップへ](#)

1. Adobe Bridge の環境設定のスタートアップスクリプトパネルで Adobe Output Module を選択して出力パネルを有効にします。
2. Adobe Bridge の環境設定の出力パネルで、次の設定を行います。
編集している設定項目以外の出力パネルを折りたたむ 出力パネルで、オプションセクションを一度に 1 つしか開かないようにできます。
マルチバイトのファイル名を Full ASCII に変換 ギャラリーの生成時にファイル名からマルチバイト文字を削除します。FTP サーバーでマルチバイト文字が許可されていない場合に使用します。
埋め込まれたプロファイルの保持 可能な場合に、画像に埋め込まれているカラープロファイルを保持します。プロファイルが JPEG でサポートされていない場合は、sRGB に変換されます。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Adobe Bridge から Web への写真の書き出し | CS6、CS5

書き出しモジュールの管理

書き出しキューの使用

写真の書き出し

プリセットを使用した写真の書き出し

Adobe Bridge CS6 および CS5 の書き出しパネルを使用すると、簡単に写真を JPEG で保存し、Facebook、Flickr、Photoshop.com などの写真共有サイトにアップロードすることができます。

注意： Facebook、Flickr、Photoshop.com への書き出しは北米のみで使用できます。

Adobe Bridge の書き出しパネルの使用法について詳しくは、Michael Hoffman による [Bridge CS5 からソーシャルメディアサイトへの書き出し](#) (英語) を参照してください。

注意： 書き出しパネルを使用するときは、Adobe Bridge の最新のアップデートがインストールされていることを確認してください。アップデートは、[アドビの「製品のアップデート」](#) ページでダウンロードできます。

書き出しモジュールの管理

[ページのトップへ](#)

Adobe Bridge では、モジュールを使用して写真の書き出しを行います。各モジュールで、写真は書き出されるまでキューに入れられます。モジュールごとに画像サイズやその他のオプションを指定することができます。

ハードディスクに保存  JPEG 写真をハードディスクの任意の場所に保存します。

Facebook  写真を Facebook アカウントにアップロードします。既存のアルバムまたは新しいアルバムにアップロードできます。

Flickr  写真を Flickr アカウントにアップロードします。アップロードする前に、個人情報の設定を行うことができます。

Photoshop.com  写真を特定のギャラリーやコレクションのある Photoshop.com アカウントにアップロードします。

- 書き出しモードを有効または無効にするには、書き出しパネルのメニューボタン  をクリックし、「モジュールの管理」を選択します。
- 書き出しの履歴を表示するには、書き出しパネルのメニューボタン  をクリックし、「書き出しの進行状況」を選択します。

書き出しキューの使用

[ページのトップへ](#)

- 写真をキューに追加するには、コンテンツパネルから、書き出しパネル内のモジュールにドラッグします。
- キューの内容の表示と非表示を切り替えるには、モジュール名の左側の三角形をクリックします。
- 写真をキューから削除するには、その写真を選択し、写真を削除ボタン  をクリックします。
- キューを空にするには、ジョブを消去ボタン  をクリックします。
- コンテンツパネル内で、キューに入っている写真にフォーカスを移動するには、Bridge で表示ボタン  をクリックします。

写真の書き出し

[ページのトップへ](#)

- キューをダブルクリックするか、ジョブを書き出しボタン  をクリックします。
- 書き出しダイアログボックスの「保存先」タブのオプションを指定します。
 - (写真共有モジュール) Web サイトにサインインします。
 - Flickr セット、Photoshop.com ギャラリー、ハードディスクのフォルダーなど、書き出したファイルの保存先を指定します。
 - (Flickr) アップロードした写真の個人情報設定を行います。
 - (ハードディスクに保存) 名前の競合を解決する方法を指定します。書き出し時に一意のファイル名を作成するか、名前が同じ既存のファイルを上書きするか、ファイルをスキップできます。
- 書き出しダイアログボックスの「画像オプション」タブのオプションを指定します。

画像サイズと画質 「サイズ変更しない」ではなく「手動サイズ」を選択した場合は、次を指定します。

固定して合わせる

画像の長辺の最大長をピクセル単位で指定します。Adobe Bridge では、書き出される画像の縦横比が維持されます。

画像補間方式

「バイリニア法」は画質が中程度になります。「バイキュービック法」は「バイリニア法」よりも低速ですが、色調のグラデーションがより滑らかです。「バイキュービック法 - シャープ」ではシャープが適用されるので、再サンプリングされる画像でディテールを維持するのに適しています。

常にフルサイズの画像を基にレンダリング

低画質のプレビューからではなく、フルサイズの画像から JPEG が作成されます。

画質

数値が大きいほど画質が高くなり、適用される圧縮率が低くなります。

メタデータ 書き出す画像に含めるメタデータとキーワードを指定します。

オリジナルのメタデータを含める

含めるメタデータとして、「すべて」、「著作権情報のみ」、「著作権情報および問い合わせ先のみ」、「カメラおよび Camera Raw 情報を除くすべて」のいずれかを選択できます。

メタデータテンプレートを適用

メタデータテンプレートの操作を参照してください。

追加キーワード

写真に適用するその他のキーワードを入力します。

4. 「書き出し」をクリックします。

プリセットを使用した写真の書き出し

[ページのトップへ](#)

プリセットは、書き出しパネルにキューとして表示されます。プリセットを使用してジョブを書き出す場合、Adobe Bridge では書き出しダイアログボックスが表示されず、書き出しが直接開始されます。

- 設定を再利用するには、書き出しダイアログボックスでオプションを指定してから、「プリセット名」フィールドに名前を入力し、「保存」をクリックします。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Adobe Bridge のショートカットキー

ショートカットキーを使用すると、ツールを簡単に選択したり、メニューを使用しなくてもコマンドを実行できます。ショートカットキーを利用できる場合は、メニューのコマンド名の右側にショートカットキーが表示されます。

ショートカットキーを使用できるほか、コンテキストメニューを使用して多数のコマンドを実行することもできます。コンテキストメニューを使用して、使用中のツール、選択範囲、パネルなどに関連するコマンドを表示できます。コンテキストメニューを表示するには、領域内で右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらかリック (Mac OS) します。

次にショートカットキーの一部を示します。主にメニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットを示します。

結果	Windows	Mac OS
次の表示に移動	Ctrl + ¥	Command + ¥
前の表示に移動	Ctrl + Shift + ¥	Command + Shift + ¥
パネルを表示 / 非表示	タブ	タブ
星 0 と星 1 のレーティングの切り替え	Ctrl + ‘	Command + ‘
サムネールサイズを拡大	Ctrl + プラス記号 (+)	Command + プラス記号 (+)
サムネールサイズを縮小	Ctrl + マイナス記号 (-)	Command + マイナス記号 (-)
サムネールサイズを 1 段階拡大	Ctrl + Shift + プラス記号 (+)	Command + Shift + プラス記号 (+)
サムネールサイズを 1 段階縮小	Ctrl + Shift + マイナス記号 (-)	Command + Shift + マイナス記号 (-)
1 つ上のフォルダー (フォルダーパネルまたは行) に移動	上矢印	上矢印
1 つ下のフォルダー (フォルダーパネルまたは行) に移動	下矢印	下矢印
1 つ上のレベル (フォルダーパネル) に移動	Ctrl + 上向き矢印	Command + 上矢印
1 つ左のアイテムに移動	左矢印	左矢印
1 つ右のアイテムに移動	右矢印	右矢印
最初のアイテムに移動	ホーム	ホーム
最後のアイテムに移動	End	End
連続していないアイテムを選択範囲に追加	Ctrl キーを押しながらかリック	Command キーを押しながらかリック
コンテンツパネルの内容を更新	F5	F5
アイテムを選択範囲に追加	Shift + 右矢印、Shift + 左矢印、Shift + 上矢印、Shift + 下矢印	Shift + 右矢印、Shift + 左矢印、Shift + 上矢印、Shift + 下矢印
アプリケーションヘルプを表示	F1	Command+ /
次の名前変更 (コンテンツパネルでファイル名を選択)	タブ	タブ
前の名前変更 (コンテンツパネルでファイル名を選択)	Shift + Tab	Shift + Tab
フィルターパネルで星 1 ~ 5 つのレーティングの項目を表示	Ctrl + Alt + 1 ~ 5	Command + Option + 1 ~ 5

フィルターパネルで星 1 ～ 5 つのレーティングの項目を表示 / 非表示	Ctrl + Alt + Shift + 1 ～ 5	Command + Option + Shift + 1 ～ 5
フィルターパネルでラベルが「選択」、「第 2 候補」、「承認済み」、「レビュー」の項目を表示	Ctrl + Alt + 6 ～ 9	Command + Option + 6 ～ 9
フィルターパネルで選択したレーティング以上のすべての項目を表示	Shift キーを押しながらクリック	Shift キーを押しながらクリック
フィルターのクリア	Ctrl + Alt + A	Command + Option + A
フィルターパネルで選択範囲を反転	Alt キーを押しながらクリック	Option キーを押しながらクリック
プレビューパネルまたはレビューモードでルーペツールを表示	クリック	クリック
ルーペツールを移動	クリックまたはドラッグ	クリックまたはドラッグ
プレビューパネルに追加ルーペを表示 (複数アイテム)	クリック	クリック
複数のルーペツールを同時に移動	Ctrl キーを押しながらクリックまたは Ctrl キーを押しながらドラッグ	Command キーを押しながらクリックまたは Command キーを押しながらドラッグ
ルーペツールを使用してズームイン	+	+
ルーペツールを使用してズームアウト	-	-
ルーペツールを使用してズームイン (複数アイテム)	Ctrl + プラス記号 (+)	Command + プラス記号 (+)
ルーペツールを使用してズームアウト (複数アイテム)	Ctrl + マイナス記号 (-)	Command + マイナス記号 (-)
スタック内のすべてのアイテムを選択	Alt キーを押しながらクリック	Option キーを押しながらクリック
キーワードパネルで現在のキーワードおよび親キーワードを同時に適用または適用解除	Shift キーを押しながらクリック	Shift キーを押しながらクリック
キーワードパネルで強制的に現在のキーワードを適用解除	Alt キーを押しながらクリック	Option キーを押しながらクリック
キーワードパネルでキーワードカテゴリを展開する	Ctrl + 右向き矢印	Command + 右向き矢印
キーワードパネルでキーワードカテゴリを折りたたむ	Ctrl + 左向き矢印	Command + 左向き矢印

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Adobe Bridge コンテンツパネルの表示の調整

表示モードの選択

サムネールのサイズの調整

グリッドのロック

サムネールの追加のメタデータの表示

サムネールのファイルサイズの制限

モニターサイズプレビューの指定

サムネールの画質の指定

リスト表示のカスタマイズ

コンテンツパネルには、選択したフォルダー内のファイルやフォルダーの一覧、サムネールまたはサムネールの詳細が表示されます。初期設定では、カラーマネジメントされたサムネールが、ファイル名またはフォルダー名、レーティング、ラベルと一緒に表示されます。

コンテンツパネルの表示は、詳細なテキスト情報をサムネールと共に表示したり、サムネールをリスト表示したりしてカスタマイズできます。サムネールのサイズを変更したり、サムネールの画質を指定したりすることもできます。コンテンツパネルメニューから「レイアウト（横）」または「レイアウト（縦）」を選択すると、それぞれの方向にのみスクロールバーが表示されます。「自動レイアウト」を選択すると、パネルのサイズに応じて横と縦のレイアウトが切り替わります。

表示モードの選択

[トップへ戻る](#)

❖ 表示メニューから以下のいずれかのオプションを選択します。

- 「サムネール」を選択すると、ファイルやフォルダーがサムネールとして表示されます。一緒に表示されるのはファイル名やフォルダー名、レーティングやラベルです。
- 「詳細」を選択すると、サムネールと追加のテキスト情報が表示されます。
- 「リスト」を選択すると、ファイルとフォルダーの名前がリスト表示され、関連するメタデータも列形式で表示されます。
- 「サムネール」を選択時、「サムネールのみを表示」を選択すると、サムネールのみが表示され、テキスト情報、ラベルまたはレーティングは表示されません。

Adobe Bridge ウィンドウの右下隅にある 3 つのボタンをクリックして、コンテンツパネルをサムネール表示、詳細表示、リスト表示に切り替えることができます。

サムネールのサイズの調整

[トップへ戻る](#)

サムネールのサイズを小さくすると、より多くのサムネールを同時に表示でき、サムネールのサイズを大きくすると、サムネールの詳細を確認できます。

- Adobe Bridge ウィンドウの下部にあるサムネールスライダー  をドラッグします。
注意： 自動レイアウトモードで Adobe Bridge ウィンドウのサイズを変更すると、コンテンツパネルのサムネールのサイズも変化します。この動作を無効にするには、コンテンツパネルメニューから「レイアウト（横）」または「レイアウト（縦）」を選択します。
コンテンツパネルの画像サムネールにファイル名またはその他のメタデータが表示されない場合は、スライダーを右側にドラッグしてサムネールのサイズを大きくします。
- サムネールスライダーの左側にあるより小さいサムネールサイズボタンをクリックすると、コンテンツパネル内の列数が 1 つ少なくなります。サムネールスライダーの左側にあるより大きいサムネールサイズボタンをクリックすると、コンテンツパネル内の列数が 1 つ多くなります。表示される列数に合わせて、サムネールのサイズは自動的に最大化されます。

グリッドのロック

[トップへ戻る](#)

Adobe Bridge のコンテンツパネルでサムネールの並びを固定するには、グリッドをロックします。グリッドをロックすると、ウィンドウのサイズを変更したり、パネルを開いたり閉じたりしても、サムネールの行列数は保持されます。

❖ 表示/グリッドロックを選択するか、Adobe Bridge ウィンドウ下部のサムネールスライダーの横にあるグリッドロックボタン  をクリックします。

サムネールの追加のメタデータの表示

[トップへ戻る](#)

サムネールと共に表示する追加のメタデータ行環境設定では、コンテンツパネルで、サムネールと共に追加のメタデータ情報を表示するかどうか

を指定します。

1. 編集／環境設定 (Windows) または Adobe Bridge CS5.1／環境設定 (Mac OS) を選択し、「サムネール」をクリックします。
2. 「サムネールと共に表示する追加のメタデータ行」セクションで、表示するメタデータの種類を選択します。最大 4 行の追加の情報を表示できます。

サムネールのファイルサイズの制限

[トップへ戻る](#)

Adobe Bridge で作成するサムネールのファイルサイズを制限できます (大きいファイルを表示すると、パフォーマンスが低下する場合があります)。Adobe Bridge でサムネールを作成できない場合は、そのファイルタイプに関連付けられたアイコンが表示されます。ビデオファイルのサムネールを表示する場合、この設定は無視されます。

1. 編集／環境設定 (Windows) または Adobe Bridge CS5.1／環境設定 (Mac OS) を選択し、「サムネール」をクリックします。
2. 「処理するファイルの最大サイズ」ボックスに数値を入力します。

モニターサイズプレビューの指定

[トップへ戻る](#)

モニターサイズプレビューでは、モニターの解像度に基づいて表示可能な最高画質のプレビューが表示されます。モニターサイズプレビューを有効にすると、フルスクリーンモードでの表示がシャープになります。

1. 編集／環境設定 (Windows) または Adobe Bridge CS5.1／環境設定 (Mac OS) を選択し、「詳細設定」をクリックします。
2. 「モニターの大きさのプレビューを生成」を選択します。

サムネールの画質の指定

[トップへ戻る](#)

個々の画像フォルダーについて、サムネール画像の埋め込まれたプレビュー、高画質プレビューまたは 1:1 のプレビューを表示することを指定できます。

- 参照を高速化するには、フォルダーを選択し、Adobe Bridge のアプリケーションバーで埋め込み画像を優先して、すばやく参照ボタン  を選択します。
- 高画質のサムネールプレビューを表示するには、Adobe Bridge のアプリケーションバーでサムネール画質とプレビュー生成のオプションボタン  をクリックし、次のいずれかを選択します。
 - 「埋め込み画像を優先 (高速)」を選択すると、ソースファイルに埋め込まれた低解像度のサムネールが使用されます。これらのサムネールでは、カラーマネジメントは行われません。このオプションは、「埋め込み画像を優先して、すばやく参照」を選択することと同じです。
 - 「必要に応じて高画質表示」を選択すると、画像をプレビューするまでは埋め込まれたサムネールが使用され、プレビュー時には、ソースファイルからカラーマネジメントされたサムネールが生成されます。
 - 「常に高画質表示」を選択すると、すべての画像について、常にカラーマネジメントされたサムネールが表示されます。初期設定の画質設定は、「常に高画質表示」です。
 - 「100 % プレビューを生成」を選択すると、ループ表示およびスライドショー表示のバックグラウンドで画像の 100% プレビューが作成されます。このオプションを選択すると、ループおよびスライドショーの処理が高速化されますが、使用されるディスク領域が増加し、最初の表示に時間がかかるようになります。**string not required**ループツールの使用および画像をスライドショーとして表示を参照してください。

リスト表示のカスタマイズ

[トップへ戻る](#)

リスト表示の列の並べ替えやサイズ変更、表示するメタデータの種類の種類の変更により、リスト表示をカスタマイズできます。

1. 表示／リストを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - 並べ替えの順序の方向を変更するには、列の見出しをクリックします。
 - 列見出しを右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Mac OS) すると、別のメタデータの種類を選択する、列を閉じる、新しい列を挿入する、列のサイズを調整する、初期設定に戻すなどの操作ができます。
注意：「名前」列は常に一番左の列になります。
 - 列の幅を増減するには、列間の区切り線をドラッグします。
 - 2 つの列見出し間をダブルクリックすると、列の内容に合わせて自動的に列のサイズが変更されます。

Adobe Bridge のショートカットキー

ショートカットキーを使用すると、ツールを簡単に選択したり、メニューを使用しなくてもコマンドを実行できます。ショートカットキーを利用できる場合は、メニューのコマンド名の右側にショートカットキーが表示されます。

ショートカットキーを使用できるほか、コンテキストメニューを使用して多数のコマンドを実行することもできます。コンテキストメニューを使用して、使用中のツール、選択範囲、パネルなどに関連するコマンドを表示できます。コンテキストメニューを表示するには、領域内で右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Mac OS) します。

次にショートカットキーの一部を示します。主にメニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットを示します。

結果	Windows	Mac OS
次の表示に移動	Ctrl + ¥	Command + ¥
前の表示に移動	Ctrl + Shift + ¥	Command + Shift + ¥
パネルを表示 / 非表示	タブ	タブ
星 0 と星 1 のレーティングの切り替え	Ctrl + `	Command + `
サムネールサイズを拡大	Ctrl + プラス記号 (+)	Command + プラス記号 (+)
サムネールサイズを縮小	Ctrl + マイナス記号 (-)	Command + マイナス記号 (-)
サムネールサイズを 1 段階拡大	Ctrl + Shift + プラス記号 (+)	Command + Shift + プラス記号 (+)
サムネールサイズを 1 段階縮小	Ctrl + Shift + マイナス記号 (-)	Command + Shift + マイナス記号 (-)
1 つ上のフォルダー (フォルダーパネルまたは行) に移動	上矢印	上矢印
1 つ下のフォルダー (フォルダーパネルまたは行) に移動	下矢印	下矢印
1 つ上のレベル (フォルダーパネル) に移動	Ctrl + 上向き矢印	Command + 上矢印
1 つ左のアイテムに移動	左矢印	左矢印
1 つ右のアイテムに移動	右矢印	右矢印
最初のアイテムに移動	ホーム	ホーム
最後のアイテムに移動	End	End
連続していないアイテムを選択範囲に追加	Ctrl キーを押しながらクリック	Command キーを押しながらクリック
コンテンツパネルの内容を更新	F5	F5
アイテムを選択範囲に追加	Shift + 右矢印、Shift + 左矢印、Shift + 上矢印、Shift + 下矢印	Shift + 右矢印、Shift + 左矢印、Shift + 上矢印、Shift + 下矢印
アプリケーションヘルプを表示	F1	Command+ /
次の名前変更 (コンテンツパネルでファイル名を選択)	タブ	タブ
前の名前変更 (コンテンツパネルでファイル名を選択)	Shift + Tab	Shift + Tab
フィルターパネルで星 1 ~ 5 つのレーティングの項目を表示	Ctrl + Alt + 1 ~ 5	Command + Option + 1 ~ 5
フィルターパネルで星 1 ~ 5 つのレー	Ctrl + Alt + Shift + 1 ~ 5	Command + Option + Shift + 1 ~ 5

ティングの項目を表示 / 非表示		
フィルターパネルでラベルが「選択」、「第 2 候補」、「承認済み」、「レビュー」の項目を表示	Ctrl + Alt + 6 ~ 9	Command + Option + 6 ~ 9
フィルターパネルで選択したレーティング以上のすべての項目を表示	Shift キーを押しながらクリック	Shift キーを押しながらクリック
フィルターのクリア	Ctrl + Alt + A	Command + Option + A
フィルターパネルで選択範囲を反転	Alt キーを押しながらクリック	Option キーを押しながらクリック
プレビューパネルまたはレビューモードでルーペツールを表示	クリック	クリック
ルーペツールを移動	クリックまたはドラッグ	クリックまたはドラッグ
プレビューパネルに追加ルーペを表示 (複数アイテム)	クリック	クリック
複数のルーペツールを同時に移動	Ctrl キーを押しながらクリックまたは Ctrl キーを押しながらドラッグ	Command キーを押しながらクリックまたは Command キーを押しながらドラッグ
ルーペツールを使用してズームイン	+	+
ルーペツールを使用してズームアウト	-	-
ルーペツールを使用してズームイン (複数アイテム)	Ctrl + プラス記号 (+)	Command + プラス記号 (+)
ルーペツールを使用してズームアウト (複数アイテム)	Ctrl + マイナス記号 (-)	Command + マイナス記号 (-)
スタック内のすべてのアイテムを選択	Alt キーを押しながらクリック	Option キーを押しながらクリック
キーワードパネルで現在のキーワードおよび親キーワードを同時に適用または適用解除	Shift キーを押しながらクリック	Shift キーを押しながらクリック
キーワードパネルで強制的に現在のキーワードを適用解除	Alt キーを押しながらクリック	Option キーを押しながらクリック
キーワードパネルでキーワードカテゴリを展開する	Ctrl + 右向き矢印	Command + 右向き矢印
キーワードパネルでキーワードカテゴリを折りたたむ	Ctrl + 左向き矢印	Command + 左向き矢印

Adobe Bridge でのタスクの自動化

ツールメニューからのタスクの実行
ファイル名をバッチで変更
HDR およびパノラマ画像の自動スタック

ツールメニューからのタスクの実行

[トップへ戻る](#)

ツールメニューには、Adobe Creative Suite コンポーネントで使用できる様々な各種コマンドのサブメニューが含まれています。例えば、Adobe Photoshop をインストールしている場合は、ツール/Photoshop サブメニューにあるコマンドで、Adobe Bridge で選択した写真を処理できます。これらのタスクを Adobe Bridge から実行すると、各ファイルを個別に開く必要がないので、時間の節約になります。

注意： サードパーティは、独自のアイテムを作成して、ツールメニューに追加し、Adobe Bridge の機能を追加することができます。スクリプトの作成について詳しくは、[Bridge デベロッパーセンター](#)を参照してください。

Adobe Bridge には、便利な自動スクリプトも含まれています。例えば、Adobe Output Module スクリプトを使用すると、Web フォトギャラリーを作成したり、Adobe PDF コンタクトシートやフルスクリーンスライドショーを生成したりすることができます。Auto Collection CS5 スクリプトを使用すると、写真のスタックを作成し、Photoshop でパノラマ画像や HDR 画像を生成できます。

1. 使用するファイルまたはフォルダーを選択します。フォルダーを選択した場合、可能な場合にはフォルダー内のすべてのファイルにコマンドが適用されます。
2. ツール/[コンポーネント]を選択し、必要なコマンドを選択します（コンポーネントに自動化されている使用可能なタスクがない場合は、ツールメニューに表示されません）。

特定のコマンドについて詳しくは、コンポーネントのマニュアルを参照または検索してください。

ファイル名をバッチで変更

[トップへ戻る](#)

バッチ処理を使用して、複数のファイルの名前を一度に変更することができます。ファイル名をバッチで変更する場合は、フォルダー内または選択したファイルすべてに同じ設定を適用できます。その他のバッチ処理タスクについては、スクリプトを使用して自動化されたタスクを実行できます。

1. 名前を変更するファイルを選択します。
2. ツール/ファイル名をバッチで変更を選択します。
3. 次のオプションを設定します。

保存先フォルダー 名前を変更したファイルは、同じフォルダーに保存するか、別のフォルダーに保存するか、コピーを別のフォルダーに保存することができます。名前を変更したファイルを別のフォルダーに保存する場合は、「参照」をクリックしてフォルダーを選択します。

新しいファイル名 メニューから要素を選択し、必要に応じてテキストを入力して、新しいファイル名を作成します。プラス記号ボタン (+) またはマイナス記号ボタン (-) をクリックして、要素を追加または削除することができます。

文字の置き換え ファイル名の全体または一部をカスタムテキストに変更できます。まず、置換の対象を選択します。「元のファイル名」を選択すると、元のファイル名の文字列が置換されます。「中間ファイル名」を選択すると、「新しいファイル名」セクション内の先行する要素の指定によって定義された名前（中間ファイル名）を、さらに変更できます。「正規表現を使用」では、正規表現を使用して、ファイル名のパターン一致で文字列を検索できます。「すべてを置換」では、ソース文字列のパターンに一致するすべてのサブ文字列が置換されます。

オプション メタデータ内の元のファイル名を保持する場合は、「XMP メタデータ内に現在のファイル名を保持」を選択します。「互換性」で、名前を変更したファイルと互換性を持たせるオペレーティングシステムを 1 つ以上選択します。初期設定で現在のオペレーティングシステムが選択されており、この選択を解除することはできません。

プレビュー ファイル名をバッチで変更ダイアログボックスの下部にあるプレビュー領域に、現在のファイル名と新しいファイル名がそれぞれ表示されます。選択されているすべてのファイル名がどのように変更されるかを確認するには、「プレビュー」ボタンをクリックします。

4. (オプション) よく使用する命名方法に従って名前を変更するには、プリセットメニューからプリセットを選択します。ファイル名をバッチで変更する設定を保存して再利用するには、「保存」をクリックします。

HDR およびパノラマ画像の自動スタック

[トップへ戻る](#)

Adobe Bridge の Auto Collection CS5 スクリプトは、画像のセットから、Photoshop CS5 でハイダイナミックレンジ (HDR) 画像またはパノラマコンポジットとして処理するためのスタックを生成します。このスクリプトは、撮影時刻、露出設定および画像の配置に基づいて、画像を収集

し、スタックを生成します。Auto Collection スクリプトで写真を処理する場合、タイムスタンプが 18 秒以内である必要があります。露出の設定が写真によって異なり、内容が 80 %以上重なり合っている場合、それらの写真は HDR セットとして解釈されます。露出が一定で、内容の重なり合いが 80 %未満である場合、それらの写真はパノラマの一部であると解釈されます。

注意： Auto Collection CS5 を使用するには、Adobe Bridge と共に Photoshop CS5 以降が必要です。

1. Auto Collection CS5 スクリプトを有効にするには、編集／環境設定（Windows）または Adobe Bridge CS5／環境設定（Mac OS）を選択します。
2. スタートアップスクリプトパネルで、「Auto Collection CS5」を選択し、「OK」をクリックします。
3. HDR またはパノラマ撮影の画像を含むフォルダーを選択し、スタックメニューの「自動スタック パノラマ / HDR」を選択します。
4. ツール／Photoshop／Photoshop でコレクションを生成を選択すると、画像が自動的に結合され、Adobe Bridge で結果が表示されます。
注意： Photoshop のパノラマおよび HDR について詳しくは、Photoshop Community Help のトピック、[Photomerge を使用したパノラマ画像の作成](#)および[ハイダイナミックレンジ（HDR）画像](#)を参照してください。



Adobe Bridge から Web への写真の書き出し

書き出しモジュールの管理

書き出しキューの使用

写真の書き出し

プリセットを使用した写真の書き出し

Adobe Bridge CS5 の書き出しパネルを使用すると、簡単に写真を JPEG で保存し、Facebook、Flickr、Photoshop.com などの写真共有サイトにアップロードすることができます。

注意： Facebook、Flickr、Photoshop.com への書き出しは北米のみで使用できます。

Adobe Bridge の書き出しパネルの用法について詳しくは、Michael Hoffman による [Bridge CS5 からソーシャルメディアサイトへの書き出し](#) (英語) を参照してください。

重要： 書き出しパネルを使用するときは、Adobe Bridge の最新のアップデートがインストールされていることを確認してください。アップデートは、[アドビの「製品のアップデート」](#) ページでダウンロードできます。

書き出しモジュールの管理

[トップへ戻る](#)

Adobe Bridge では、モジュールを使用して写真の書き出しを行います。各モジュールで、写真は書き出されるまでキューに入れられます。モジュールごとに画像サイズやその他のオプションを指定することができます。

ハードディスクに保存 ■ JPEG 写真をハードディスクの任意の場所に保存します。

Facebook ■ 写真を Facebook アカウントにアップロードします。既存のアルバムまたは新しいアルバムにアップロードできます。

Flickr ■ 写真を Flickr アカウントにアップロードします。アップロードする前に、個人情報の設定を行うことができます。

Photoshop.com ■ 写真を特定のギャラリーやコレクションのある Photoshop.com アカウントにアップロードします。

- 書き出しモジュールを有効または無効にするには、書き出しパネルのメニューボタン  をクリックし、「モジュールの管理」を選択します。
- 書き出しの履歴を表示するには、書き出しパネルのメニューボタン  をクリックし、「書き出しの進行状況」を選択します。

書き出しキューの使用

[トップへ戻る](#)

- 写真をキューに追加するには、コンテンツパネルから、書き出しパネル内のモジュールにドラッグします。
- キューの内容の表示と非表示を切り替えるには、モジュール名の左側の三角形をクリックします。
- 写真をキューから削除するには、その写真を選択し、写真を削除ボタン  をクリックします。
- キューを空にするには、ジョブを消去ボタン  をクリックします。
- コンテンツパネル内で、キューに入っている写真にフォーカスを移動するには、Bridge で表示ボタン  をクリックします。

写真の書き出し

[トップへ戻る](#)

- キューをダブルクリックするか、ジョブを書き出しボタン  をクリックします。
- 書き出しダイアログボックスの「保存先」タブのオプションを指定します。
 - (写真共有モジュール) Web サイトにサインインします。
 - Flickr セット、Photoshop.com ギャラリー、ハードディスクのフォルダーなど、書き出したファイルの保存先を指定します。
 - (Flickr) アップロードした写真の個人情報設定を行います。
 - (ハードディスクに保存) 名前の競合を解決する方法を指定します。書き出し時に一意のファイル名を作成するか、名前が同じ既存のファイルを上書きするか、ファイルをスキップできます。
- 書き出しダイアログボックスの「画像オプション」タブのオプションを指定します。

画像サイズと画質 「サイズ変更しない」ではなく「手動サイズ」を選択した場合は、次を指定します。

固定して合わせる 画像の長辺の最大長をピクセル単位で指定します。Adobe Bridge では、書き出される画像の縦横比が維持されません。

画像補間方式 「バイリニア法」は画質が中程度になります。「バイキュービック法」は「バイリニア法」よりも低速ですが、色調のグラデーションがより滑らかです。「バイキュービック法 - シャープ」ではシャープが適用されるので、再サンプリングされる画像でディテールを維持するのに適しています。

常にフルサイズの画像を基にレンダリング 低画質のプレビューからではなく、フルサイズの画像から JPEG が作成されます。

画質 数値が大きいほど画質が高くなり、適用される圧縮率が低くなります。

メタデータ 書き出す画像に含めるメタデータとキーワードを指定します。

オリジナルのメタデータを含める 含めるメタデータとして、「すべて」、「著作権情報のみ」、「著作権情報および問い合わせ先のみ」、「カメラおよび Camera Raw 情報を除くすべて」のいずれかを選択できます。

メタデータテンプレートを適用 ****string not required****メタデータテンプレートの操作を参照してください。

追加キーワード 写真に適用するその他のキーワードを入力します。

4. 「書き出し」をクリックします。

プリセットを使用した写真の書き出し

[トップへ戻る](#)

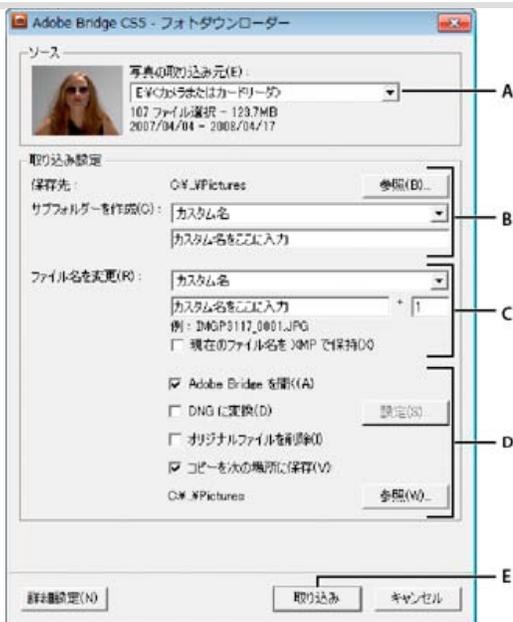
プリセットは、書き出しパネルにキューとして表示されます。プリセットを使用してジョブを書き出す場合、Adobe Bridge では書き出しダイアログボックスが表示されず、書き出しが直接開始されます。

❖ 設定を再利用するには、書き出しダイアログボックスでオプションを指定してから、「プリセット名」フィールドに名前を入力し、「保存」をクリックします。



|

デジタルカメラまたはカードリーダーから Adobe Bridge への写真の取り込み



Adobe Bridge Photo Downloader

A. 接続されているデバイスの名前 B. ファイルの保存に関するオプション C. ファイル名の変更にに関するオプション D. ファイルの変換およびコピーに関するオプション E. 写真をカメラから取り込むボタン

1. カメラまたはカードリーダーをコンピューターに接続します（必要に応じて、デバイスのマニュアルを参照してください）。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - (Windows) 自動再生ウィンドウで「画像をダウンロード - Adobe Bridge CS5 を使用」をクリックするか、ファイル／写真をカメラから取り込むを選択します。
 - (Mac OS) Adobe Bridge で、ファイル／写真をカメラから取り込むを選択します。
(Mac OS) カメラをコンピューターに接続したときに Photo Downloader を自動的に開くように Adobe Bridge を設定できます。Adobe Bridge CS5.1／環境設定を選択します。一般パネルの「動作」領域で、「カメラを接続したときに、Adobe Photo Downloader を起動」を選択します。設定したら、「OK」をクリックします。
3. Adobe Bridge CS5.1 - Photo Downloader が表示されたら、デジタルカメラまたはカードリーダーの名前を写真の取り込み元ポップアップメニューから選択します。
「詳細設定」をクリックすると、デジタルカメラのメモリカードにあるすべての写真のサムネイル画像が表示されます。
4. 一括して取り込まれる写真の集合から写真を削除するには、「詳細設定」をクリックし、写真のサムネイルの下にあるチェックボックスをクリックして選択を解除します。
5. 初期設定のフォルダーの場所を変更するには、「場所」の横にある「参照」ボタン (Windows) または「選択」ボタン (Mac OS) をクリックして、新しい保存場所を指定します。
6. 写真をサブフォルダーに保存するには、サブフォルダーを作成ポップアップメニューから次のいずれかを選択します。
 - 「今日の日付」を選択すると、現在の日付を名前に使用したサブフォルダーが作成されます。
 - 「撮影日」を選択すると、写真を撮影した日時を名前に使用したサブフォルダーが作成されます。
 - 「カスタム名」を選択すると、入力した名前を使用してサブフォルダーが作成されます。
7. 取り込むときにファイルの名前を変更するには、ファイル名を変更ポップアップメニューからオプションを選択します。一括して取り込むすべての写真で同じ名前が使用され、末尾に各写真の通し番号が付加されます。カメラの元のファイル名を XMP メタデータに保持して後で参照するには、「現在のファイル名を XMP で保持」を選択します。
8. 写真を取り込んだ後で Adobe Bridge を開くには、「Adobe Bridge を開く」を選択します。
9. 取り込むときに Camera Raw ファイルを DNG に変換するには、「DNG に変換」を選択します。
10. ダウンロード後に元の写真をカメラまたはカードリーダーから削除するには、「オリジナルファイルを削除」を選択します。
11. 取り込むときに写真のコピーを保存するには、「コピーを次の場所に保存」を選択し、保存場所を指定します。

12. (オプション) メタデータを適用するには、「詳細設定」ボタンをクリックします。次に、「作成者」テキストボックスと「著作権情報」テキストボックスに情報を入力するか、使用するテンプレートポップアップメニューからメタデータテンプレートを選択します。
 13. 「取り込み」ボタンをクリックします。取り込みが終わると、Adobe Bridge に写真が表示されます。
-



|

Adobe Bridge での画像のプレビューと比較

画像をスライドショーとして表示
プレビューパネルでの画像のプレビュー
フルスクリーンプレビューでの画像のプレビュー
レビューモードでの画像の評価と選択
ルーペツールの使用
プレビューでのソフトウェアレンダリングの使用

Adobe Bridge では、プレビューパネル、フルスクリーンプレビューおよびレビューモードで画像をプレビューできます。プレビューパネルでは最大 9 個のサムネイル画像を表示して比較できます。フルスクリーンプレビューでは、画像が画面全体に表示されます。レビューモードでは、フルスクリーン表示で画像を表示して、画像をブラウズしたり、選択内容を調整したり、画像のラベル付け、レーティング、回転を行ったり、画像を Camera Raw で開いたりすることができます。

画像をスライドショーとして表示

[トップへ戻る](#)

「スライドショー」コマンドを使用すると、サムネイルを画面全体に表示されるスライドショーとして表示できます。これによって、フォルダー内のすべてのグラフィックファイルの大きなバージョンを簡単に操作することができます。スライドショーの実行中に画像をパンおよびズームしたり、切り替え方法やキャプションなど、スライドショーの表示を制御するオプションを設定したりすることができます。

- スライドショーを表示するには、画像のフォルダーを開くか、スライドショーで表示する画像を選択し、表示／スライドショーを選択します。
 - スライドショーを操作するためのコマンドの表示するには、スライドショーの表示中に H キーを押します。
 - スライドショーに関するオプションを表示するには、スライドショーの表示中に L キーを押すか、表示／スライドショーのオプションを選択します。
表示オプション 追加のモニターを消したり、スライドショーを繰り返し再生したり、ズームインおよびズームアウトしたりすることができます。
- スライドオプション スライドの表示時間、キャプションおよびスライドのスケールを指定します。
- 切り替えオプション 切り替えのスタイルおよび速度を指定します。

プレビューパネルでの画像のプレビュー

[トップへ戻る](#)

❖ コンテンツパネルから最大 9 個の画像を選択し、必要に応じてウィンドウ／プレビューパネルを選択します。

フルスクリーンプレビューでの画像のプレビュー

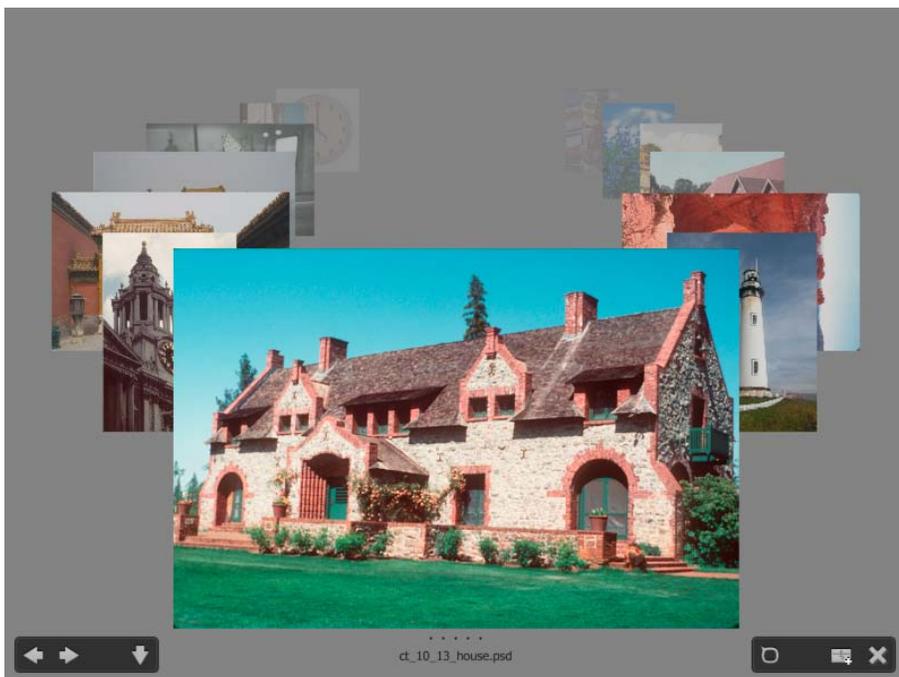
[トップへ戻る](#)

- 画像を選択し、表示／フルスクリーンプレビューを選択するか、スペースバーを押します。
- プラス記号 (+) キーまたはマイナス記号 (-) キーを押して画像をズームインまたはズームアウトするか、画像をクリックしてズームします。マウスのスクロールホイールを使用して表示倍率を増減することもできます。
- 画像をスクロールするには、ズームインしてからドラッグします。
- フォルダー内の次の画像および前の画像に移動するには、右矢印キーおよび左矢印キーを押します。
注意： 複数の画像を選択してからフルスクリーンプレビューした場合、右矢印キーおよび左矢印キーを押すことによって、選択した画像を順に切り替えることができます。
- フルスクリーンプレビューを終了するには、スペースバーまたは Esc キーを押します。

レビューモードでの画像の評価と選択

[トップへ戻る](#)

レビューモードは、選択した写真のブラウズ、選択内容の調整、基本的な編集を行うための専用のフルスクリーンビューです。レビューモードでは、インタラクティブに操作できる回転ラックのような形式で画像が表示されます。



レビューモード

1. 画像のフォルダーを開くか、レビューする画像を選択し、表示／レビューモードを選択します。
 2. 次のいずれかの操作を行います。
 - 前の画像や次の画像に移動するには、画面の左下隅にある左矢印ボタンまたは右矢印ボタンをクリックするか、キーボードの左矢印ボタンまたは右矢印ボタンを押します。
 - 前の画像または次の画像を手前に表示するには、前面の画像を右または左にドラッグします。
 - 背面の画像を前面に表示するには、画像をクリックします。
 - 画像を表示対象から削除するには、画面の下側に画像をドラッグします。または、画面の左下隅にある下矢印ボタンをクリックします。
 - 画像のレーティングやラベルの適用を行ったり、画像を開いたりするには、画像を右クリック（Windows）するか、Control キーを押しながらクリック（Mac OS）します。
 -] キーを押すと、前面の画像が時計回りに 90 度回転します。[キーを押すと、画像が反時計回りに 90 度回転します。
 - レビューモードを終了するには、Esc キーを押すか、画面の右下隅にある X ボタンをクリックします。
 - 選択した画像からコレクションを作成してレビューモードを終了するには、画面の右下隅にある新規コレクションボタンをクリックします。
- レビューモードで H キーを押すと、レビューモードでの作業用のキーボードショートカットが表示されます。

ルーペツールの使用

[トップへ戻る](#)

ルーペツールを使用すると、画像の一部を拡大できます。ルーペツールは、プレビューパネルで使用できるほかに、レビューモードの最前面の画像または選択された画像で使用できます。初期設定では、画像が 100 %より小さいサイズで表示されていると、ルーペツールにより 100 %の大きさに拡大されます。ルーペツールは画像ごとに 1 つ表示できます。

- ルーペツールで画像を拡大するには、プレビューパネルまたはレビューモードで画像をクリックします。レビューモードでは、画面の右下隅にあるルーペツールボタンをクリックすることでも拡大できます。
- ルーペツールを非表示にするには、ツールの右下隅にある X をクリックするか、ツールの拡大された領域内をクリックします。レビューモードでは、画面の右下隅にあるルーペツールボタンをクリックすることでも拡大できます。
- 拡大する領域を変更するには、画像内でルーペツールをドラッグするか、画像の別の領域をクリックします。
- ルーペツールを使用してズームインおよびズームアウトするには、マウスのスクロールホイールを使用するか、プラス記号 (+) キーまたはマイナス記号 (-) キーを押します。
- プレビューパネルの複数の画像で複数のルーペツールを表示するには、それぞれの画像をクリックします。
- プレビューパネルで複数のルーペツールを同期して移動するには、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながら画像をクリックまたはドラッグします。

プレビューでのソフトウェアレンダリングの使用

[トップへ戻る](#)

プレビューパネル、フルスクリーンプレビューまたはレビューモードでスライドショーや画像が正しく表示されない場合は、このオプションを選択します。プレビューにソフトウェアレンダリングを使用すると、正しく表示されるようになりますが、表示速度が遅くなったり、他の制限がある場合があります。

1. 環境設定の詳細設定で、「ソフトウェアレンダリングを使用」を選択します。
2. Adobe Bridge を再起動します。

注意： ソフトウェアレンダリングは、64 MB 未満の VRAM を搭載するコンピューターと、128 MB 未満の VRAM を搭載するデュアルモニターシステムで自動的に有効になります。



|

Adobe Bridge でのダイナミックメディアファイルのプレビュー

プレビューパネルでのメディアファイルのプレビュー ダイナミックメディアファイルのフルスクリーンプレビューの再生 再生環境設定

Adobe Bridge ではほとんどのビデオ、オーディオおよび 3D ファイルをプレビューできます。SWF、FLV、F4V の各ファイル、またコンピューターにインストールされている QuickTime のバージョンでサポートされているほとんどのファイルをプレビューできます。メディアファイルの再生方法を制御するには、再生の環境設定を使用します。

プレビューパネルでのメディアファイルのプレビュー

[トップへ戻る](#)

1. プレビューするファイルをコンテンツパネルで選択します。
2. プレビューパネルで再生ボタン ▶ をクリックするとビデオが開始し、一時停止ボタン || をクリックすると再生が一時停止し、ループボタン ↺ をクリックすると連続ループのオンとオフが切り替わり、ボリュームボタン 🔊 をクリックすると音量を調整できます。
ダイナミックメディアファイルのプレビューを見やすくするために、Adobe Bridge のインターフェイスを明るくしたり、暗くしたりすることができます。*string not required* 明るさとカラーの調整を参照してください。

ダイナミックメディアファイルのフルスクリーンプレビューの再生

[トップへ戻る](#)

1. プレビューするファイルをコンテンツパネルで選択します。
2. 表示/フルスクリーンプレビューを選択します。
3. 一時停止ボタン || をクリックすると再生が一時停止し、再生ボタン ▶ をクリックすると再生が再開し、ループボタン ↺ をクリックすると連続ループのオンとオフが切り替わり、ボリュームボタン 🔊 をクリックすると音量を調整できます。
4. Esc キーを押すと Adobe Bridge に戻ります。

再生環境設定

[トップへ戻る](#)

1. Adobe Bridge で、編集/環境設定 (Windows) または Adobe Bridge CS5.1/環境設定 (Mac OS) を選択します。
2. 「再生」をクリックします。
3. 必要に応じて次のオプションを設定し、「OK」をクリックします。
スタックの再生フレームレート 10 個以上の画像を含んだスタックでは、画像をプレビュー (スクラブ) することができます。このオプションにより、画像スタックをプレビューする際のフレームレートを指定することができます (Adobe Bridge でのファイルスタックの作成を参照してください)。

プレビュー時にオーディオファイルを自動再生 オーディオファイルをクリックしてプレビューパネルに表示すると、オーディオが自動的に再生されます。オーディオファイルを手動で再生する場合は、このオプションをオフにします。

プレビュー時にオーディオファイルをループ再生 オーディオファイルを連続的に繰り返し (ループ) 再生します。オーディオファイルを 1 回だけ再生したい場合は、このオプションをオフにします。

プレビュー時にビデオファイルを自動再生 コンテンツパネルでビデオファイルを選択すると、プレビューパネルで自動的に再生します。

プレビュー時にビデオファイルをループ再生 ビデオファイルを連続的に繰り返し (ループ) 再生します。ビデオファイルを 1 回だけ再生したい場合は、このオプションをオフにします。

Adobe Bridge でのファイルスタックの作成

ファイルスタックの作成

スタックの管理

スタック内の画像のプレビュー

スタックを使用すると、1つのサムネールの下にファイルをグループ化することができます。あらゆる種類のファイルからスタックを作成できます。例えば、スタックを使用して、通常、多くの画像ファイルで構成される画像シーケンスを整理することができます。

注意： Adobe Bridge のスタックは、画像のグループをレイヤーに変換してスマートオブジェクト内に格納する Photoshop の画像のスタックとは異なります。

単一のファイルに適用されるコマンドは、スタックにも適用されます。例えば、単一のファイルにラベルを付けるように、スタックにもラベルを付けることができます。展開されたスタックにコマンドを適用すると、スタック内のすべてのファイルに適用されます。表示が省略されているスタックに対して適用したコマンドは、スタックの一番上のファイルにのみ適用される（スタックの一番上のファイルのみ選択した場合）か、またはスタック内にあるすべてのファイルに適用されます（スタックの境界線をクリックしてスタック内のファイルをすべて選択した場合）。

スタックの初期設定の並べ替えの順序は、スタックが格納されているフォルダーの並べ替えの順序と同じになります。



コンテンツパネルの Adobe Bridge スタック（表示の省略時）



展開されたスタック

ファイルスタックの作成

[トップへ戻る](#)

❖ スタックに含めるファイルを選択し、スタック/スタックにグループ化を選択します。最初に選択したファイルが、スタックのサムネールになります。スタック上に表示される数字は、スタック内のファイルの数を示します。

スタックの管理

[トップへ戻る](#)

- スタックサムネールを変更するには、新しくサムネールにするファイルを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、スタック/スタックの最上位にプロモートを選択します。
- 表示が省略されているスタックを展開するには、スタックの数字をクリックするか、スタック/スタックを開くを選択します。すべてのスタックを展開するには、スタック/すべてのスタックを展開を選択します。
- 展開されているスタックの表示を省略するには、スタックの数字をクリックするか、スタック/スタックを閉じるを選択します。すべてのスタックの表示を省略するには、スタック/すべてのスタックを折りたたむを選択します。
- スタックにファイルを追加するには、追加するファイルをスタックにドラッグします。
注意： スタックを別のスタックに追加できますが、スタックを階層構造にすることはできません。追加されたスタック内のファイルは、既存のスタックのファイルと共にグループ化されます。
- スタックからファイルを削除するには、スタックを展開し、スタックから外にファイルをドラッグします。スタックからすべてのファイルを削除するには、表示が省略されたスタックを選択し、スタック/スタックからグループ化解除を選択します。
- 表示が省略されたスタック内のすべてのファイルを選択するには、スタックの境界線をクリックします。または、Alt キー（Windows）/ Control キー（Mac OS）を押しながら、スタックのサムネールをクリックします。

スタック内の画像のプレビュー

10 個以上の画像を含んだスタックでは、指定したフレームレートで画像をプレビュー（スクラブ）したり、オニオンスキンを有効にしたりできます。オニオンスキンを使用すると、先行するフレームや後続するフレームを、現在のフレーム上に半透明のオーバーレイとして表示できます。

- スタックをプレビューするには、コンテンツパネルでスタック上にマウスポインターを置いてスライダーが表示されるまで待ち、「再生」をクリックするか、スライダーをドラッグします。「再生」ボタンまたはスライダーが表示されない場合は、Adobe Bridge ウィンドウの下部にあるサムネールのスライダーをドラッグしてサムネールのサイズを大きくします。
- 再生フレームレートを設定するには、スタックを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、スタック / フレームレートメニューからフレームレートを選択します。
- 初期設定のスタックの再生フレームレートを設定するには、再生環境設定のスタックの再生フレームレートメニューからフレームレートを選択します。
- オニオンスキンを有効にするには、スタックを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、スタック / オニオンスキンを有効化を選択します。



Adobe Bridge の起動

- [Adobe Creative Suite 5 コンポーネントからの Adobe Bridge の起動](#)
- [Adobe Bridge から最後に開いた Adobe Creative Suite 5 コンポーネントへの移動](#)
- [Mini Bridge から Adobe Bridge への切り替え](#)
- [Adobe Bridge の直接起動](#)
- [Adobe Bridge の自動起動](#)
- [Adobe Bridge を表示するまたは隠す](#)

Adobe Bridge は直接起動できるほか、任意の Adobe Creative Suite 5 または CS5.5 コンポーネント (After Effects、Captive@、Encore@、Flash@ Professional、InCopy、InDesign、Illustrator@、Photoshop および Premiere@ Pro) から起動できます。

Adobe Creative Suite 5 コンポーネントからの Adobe Bridge の起動

[トップへ戻る](#)

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- ファイル/参照またはファイル/Bridge で参照を選択します (選択可能な場合)。

注意： After Effects または Adobe Premiere Pro でファイル/Bridge で参照を選択して Adobe Bridge を起動した場合、ファイルをダブルクリックすると、ネイティブのアプリケーションではなく Adobe Bridge を参照している Creative Suite 5 コンポーネントでファイルが開くか、読み込まれます。例えば、Adobe Premiere Pro でファイル/Bridge で参照を選択し、Photoshop ファイルをダブルクリックした場合は、ファイルは Photoshop で開かず、Adobe Premiere Pro のプロジェクトパネルに追加されます。

- アプリケーションバーの Adobe Bridge ボタン  をクリックします。

Adobe Bridge から最後に開いた Adobe Creative Suite 5 コンポーネントへの移動

[トップへ戻る](#)

❖ ファイル/[コンポーネント]に戻るを選択するか、アプリケーションバーにある [コンポーネント]に戻るボタン  をクリックします。

Mini Bridge から Adobe Bridge への切り替え

[トップへ戻る](#)

❖ (Photoshop、InDesign、InCopy) Mini Bridge パネルの一番上にある Bridge に移動ボタン  をクリックします。

Adobe Bridge の直接起動

[トップへ戻る](#)

- (Windows) スタートメニューのプログラムから Adobe Bridge CS5.1 を選択します。
- (Mac OS) アプリケーション/Adobe Bridge CS5.1 フォルダにある Adobe Bridge CS5.1 アイコン  をダブルクリックします。

Adobe Bridge の自動起動

[トップへ戻る](#)

ログインするたびに Adobe Bridge を自動的にバックグラウンドで実行するように設定できます。Adobe Bridge をバックグラウンドで実行する場合、Adobe Bridge を使用するまでは必要なシステムリソースの量は抑えられています。

❖ ログイン時に自動的に起動するように Adobe Bridge を設定するには、次のいずれかの操作を行います。

- 初回に Adobe Bridge を起動したときに、ログイン時に Adobe Bridge を自動的に起動するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
- Adobe Bridge の環境設定ダイアログボックスの詳細設定パネルで、「ログイン時に Bridge を起動」を選択します。
- (Windows) Adobe Bridge が開いているときに、システムトレイの Adobe Bridge アイコンを右クリックし、「ログイン時に Bridge を起動」を選択します。

Adobe Bridge を表示するまたは隠す

[トップへ戻る](#)

- (Windows) 操作モードを切り替えるには、次のいずれかの操作を行います。
 - Adobe Bridge を開くには、システムトレイの Adobe Bridge アイコンを右クリックし、「Bridge を表示」を選択します。

- Adobe Bridge をバックグラウンドで実行するには、ファイル／Bridge を隠すを選択します。
 - Adobe Bridge をバックグラウンドで実行するには、システムトレイの Adobe Bridge アイコンを右クリックし、「Bridge を隠す」を選択します。
 - (Mac OS) 操作モードを切り替えるには、次のいずれかの操作を行います。
 - Dock 内の Adobe Bridge CS5.1 アイコンをクリックし、「表示」または「隠す」を選択します。
 - Adobe Bridge をバックグラウンドで実行するには、Adobe Bridge で Adobe Bridge CS5.1／Adobe Bridge CS5.1 を隠すを選択します。
-



|

Adobe Bridge でのコレクションの使用

- コレクションの作成
- スマートコレクションの作成
- スマートコレクションの編集
- コレクション名の変更
- コレクションの削除
- コレクションへのファイルの追加
- コレクションからのファイルの削除
- コレクション間でのファイルのコピー
- 見つからないファイルの検索

コレクションは、複数の異なるフォルダーやドライブにある写真を一か所にまとめて参照しやすくします。スマートコレクションは、保存した検索条件から生成されるコレクションの一種です。コレクションパネルでは、コレクションを作成および検索し、開くことができます。スマートコレクションを作成および編集することもできます。

コレクションの作成

[トップへ戻る](#)

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- コレクションパネルの下部にある新規コレクションボタン  をクリックして、新しい空のコレクションを作成します。
- コンテンツパネルからファイルを選択し、コレクションパネルの新規コレクションボタンをクリックします。選択したファイルを新しいコレクションに含めるかどうかを確認するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

初期設定では、コレクション内のファイルを選択すると、コレクションフォルダー内に配置されているファイルとして一覧表示されます。ファイルが実際に保存されているフォルダーに移動するには、そのファイルを選択し、ファイル/Bridge で表示を選択します。

スマートコレクションの作成

[トップへ戻る](#)

❖ コレクションパネルの下部にある新規スマートコレクションボタン  をクリックします。

お気に入りパネルに対してスマートコレクションを追加または削除するには、コレクションパネルまたはお気に入りパネルのスマートコレクションを右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Mac OS) し、「お気に入りに追加」または「お気に入りから削除」を選択します。

スマートコレクションの編集

[トップへ戻る](#)

- コレクションパネルでスマートコレクションを選択します。
- スマートコレクションを編集ボタン  をクリックします。
- スマートコレクションの新しい条件を指定し、「保存」をクリックします。
重要： 条件を編集して、スマートコレクションから写真を削除します。スマートコレクションを表示した状態で写真を削除すると、写真はごみ箱 (Windows) またはゴミ箱 (Mac OS) に送られます。

コレクション名の変更

[トップへ戻る](#)

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- コレクション名をダブルクリックし、新しい名前を入力します。
- コレクション名を右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Mac OS) し、メニューから「名前変更」を選択します。次に、コレクション名を上書きします。

コレクションの削除

[トップへ戻る](#)

コレクションを削除するには、Adobe Bridge でそのコレクションをコレクションリストから削除します。ファイルはハードディスクからは削除されません。

❖ コレクションを削除するには、次のいずれかの操作を行います。

- コレクションパネルで、コレクション名を選択し、コレクションを削除ボタンをクリックします。

- コレクション名を右クリック（Windows）するか、Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、メニューから「削除」を選択します。

コレクションへのファイルの追加

[トップへ戻る](#)

❖ コレクションにファイルを追加するには、次のいずれかの操作を行います。

- コンテンツパネル、エクスプローラー（Windows）または Finder（Mac OS）から、コレクションパネルのコレクション名にファイルをドラッグします。
- コンテンツパネルからコレクションパネルのコレクション名にファイルをドラッグします。

コレクションからのファイルの削除

[トップへ戻る](#)

❖ コレクションからファイルを削除するには、コレクションパネルでコレクションを選択し、次のいずれかの操作を行います。

- コンテンツパネルでファイルを選択し、「コレクションから削除」をクリックするか、右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）して、「コレクションから削除」を選択します。
- コンテンツパネルでファイルを選択し、Delete キーを押します。「除外」をクリックしてファイルを除外するか、「削除」をクリックしてファイルをごみ箱（Windows）またはゴミ箱（Mac OS）に移動するか、「キャンセル」をクリックしてファイルを保持します。

コレクション間でのファイルのコピー

[トップへ戻る](#)

1. コレクションパネルでコレクションを選択します。
2. コンテンツパネルから、コレクションパネルの移動先のコレクションに、ファイルをドラッグします。

見つからないファイルの検索

[トップへ戻る](#)

Adobe Bridge では、コレクション内のファイルの場所が追跡されます。Adobe Bridge でファイルを移動した場合は、ファイルはコレクション内に保持されます。コレクションに、エクスプローラー（Windows）または Finder（Mac OS）で移動または名前変更されたファイルが含まれている場合、またはコレクションを表示したときに接続されていないリムーバブルハードディスク上にファイルがある場合、コンテンツパネルの上部にファイルが見つからないことを示す警告が表示されます。

1. 「修正」をクリックして、見つからないファイルを探します。
2. 不明なファイルを検索ダイアログボックスで、見つからないファイルを選択し、次のいずれかの操作を行います。
 - ファイルの新しい保存場所に移動するには、「参照」をクリックします。
 - 見つからないファイルを無視するには、「スキップ」をクリックします。
 - 見つからないファイルをコレクションから削除するには、「削除」をクリックします。



Adobe Bridge でのキーワードの使用

新しいキーワードとサブキーワードの作成

- ファイルへのキーワードの追加
- ファイルからのキーワードの削除
- キーワードの管理
- キーワードの検索
- キーワードの取り込みまたは書き出し

キーワードパネルでは、Adobe Bridge のキーワードを作成してファイルに適用できます。キーワードは、親キーワードと子キーワード（サブキーワード）から構成されるキーワードグループに整理することができます。キーワードを使用すると、ファイルの内容を基にしてファイルを識別できます。例えば、フィルターパネルを使用して、フォルダー内でキーワードを共有するすべてのファイルを表示したり、「検索」コマンドを使用して、指定したキーワードを含むファイルを見つけたりすることができます。

新しいキーワードとサブキーワードの作成

[トップへ戻る](#)

1. キーワードパネルでキーワードを選択します。
例えば、「名前」を選択している場合、新規キーワードを追加すると「名前」と同じレベルにキーワードが作成されます（「スポーツ」など）。新規サブキーワードを追加すると、「名前」の下にキーワードが作成されます（「ジュニアータ」など）。
2. 新規キーワードボタン  または新規サブキーワードボタン  をクリックするか、パネルメニューから「新規キーワード」または「新規サブキーワード」を選択します。
3. キーワードの名前を入力して Enter キーまたは Return キーを押します。

親キーワードを、構造用に使用したい場合は、[名前] のようにキーワードを角かっこで囲みます。角かっこで囲まれたキーワードは、ファイルに追加できません。

キーワードパネルの下部にある検索ボックスを使用して、キーワードを追加することもできます。サブキーワードであることを示すにはコンマを使用し、別個のエントリであることを示すにはセミコロンを使用します。例えば、場所カテゴリに「ロサンゼルス」を追加するには、「場所」キーワードを選択し、「ロサンゼルス」と入力してから新規サブキーワードボタンをクリックします。

ファイルへのキーワードの追加

[トップへ戻る](#)

1. キーワードを追加するファイルを選択します。
2. キーワードパネルで、キーワードまたはサブキーワードの横にあるボックスをクリックします。同時に親キーワードを選択するには、Shift キーを押しながらクリックします。

選択したファイルにキーワードを追加すると、キーワード名の横のボックスにチェックマークが表示されます。複数ファイルを選択し、その中の一部のファイルにのみキーワードを追加した場合、キーワードボックスにハイフン (-) が表示されます。

注意： Shift キーを押しながらサブキーワードをクリックすると、ファイルにはその親キーワードも追加されます。サブキーワードをクリックしたときに親キーワードを自動的に追加するよう（Shift キーを押しながらクリックした場合はサブキーワードのみを追加）動作を変更するには、キーワード環境設定の「親キーワードを自動的に適用」をオンにします。

ファイルからのキーワードの削除

[トップへ戻る](#)

- チェックマークを解除するには、ファイルを選択し、キーワードまたはサブキーワードの横にあるボックスをクリックします。同時に親キーワードからチェックマークを削除するには、Shift キーを押しながらボックスをクリックします。
- チェックマークを強制的に解除するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらキーワードボックスをクリックします。この方法は、複数ファイルを選択し、その一部のファイルにのみキーワードを設定しているために、キーワードボックスにハイフンが表示されている場合に特に役立ちます。キーワードおよびその親キーワードすべてのチェックマークを強制的に解除するには、Alt + Shift キー（Windows）または Option + Shift キー（Mac OS）を押しながらボックスをクリックします。
- ファイルを選択し、キーワードパネルメニューから「キーワードを削除」を選択します。キーワードの削除を確認するダイアログボックスで「はい」をクリックします。

キーワードを誤って削除しないようにファイルをロックするには、コンテンツパネルでファイルを右クリック（Windows）するか、Control キーを押しながらクリック（Mac OS）して、「項目をロック」を選択します。項目をロックすると、キーワードの追加や削除、メタデータの編集、ラベルやレーティングの適用ができなくなります。

キーワードの管理

[トップへ戻る](#)

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- キーワードの名前を変更するには、キーワードまたはサブキーワードを選択し、パネルメニューから「名前変更」を選択します。次に、パネル内でキーワード名を入力し、Enter キーまたは Return キーを押します。

注意： キーワードの名前を変更すると、名前の変更は選択したファイルにのみ適用されます。その他のファイルについては、以前追加されたキーワード名のまま残ります。

- キーワードを別のキーワードグループに移動するには、キーワードを移動先の親キーワードにドラッグして、マウスボタンを離します。
- サブキーワードをキーワードに変更するには、キーワード一覧の下にあるサブキーワードを、キーワードパネルの一番下にドラッグします。
- キーワードをキーワードパネルから削除するには、キーワード名をクリックしてキーワードを選択し、パネルの一番下にあるキーワードを削除ボタン  をクリックするか、パネルメニューから「削除」を選択します。

注意： 他のユーザーのファイルなど、キーワードパネルに存在しないキーワードが適用されているファイルを選択した場合、そのキーワードは一時的なキーワードとして斜体で表示されます。Adobe Bridge でこれらのキーワードを永続的に保持するには、キーワードを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Mac OS) して、コンテキストメニューから「固定する」を選択します。

- キーワードのカテゴリを展開または折りたたむには、カテゴリの横にある矢印をクリックするか、パネルメニューから「すべてを展開」をまたは「すべてを折りたたむ」を選択します。
- キーワードを使用してファイルを検索するには、キーワードパネルメニューから「検索」を選択します (Adobe Bridge でのファイルやフォルダーの検索を参照してください)。

キーワードの検索

[トップへ戻る](#)

❖ キーワードパネルの下部にあるボックスに、検索するキーワードの名前を入力します。

初期設定では、入力した文字を含むすべてのキーワードがハイライト表示されます。最初に見つかった語句は緑色でハイライト表示され、その後に見つかった語句は黄色でハイライト表示されます。ハイライト表示されている別の語句を選択するには、「次のキーワードを検索」または「前のキーワードを検索」をクリックします。

入力した文字で始まるキーワードのみをハイライト表示するには、検索ボックスの拡大鏡アイコンをクリックし、検索方法として「で始まる」を選択します。例えば、「を含む」を選択した場合、「in」と入力すると「Indiana」と「Maine」の両方がハイライト表示されますが、「で始まる」を選択した場合、「Indiana」のみがハイライト表示されます。

キーワードの取り込みまたは書き出し

[トップへ戻る](#)

Adobe Photoshop Lightroom などの他のアプリケーションから書き出した、タブインデントされたテキストファイルを読み込むことができます。Adobe Bridge キーワードをテキストファイルとして書き出すこともできます。これらのファイルは、UTF-8 または ASCII (UTF-8 のサブセット) でエンコードされます。

- 既存のキーワードを削除することなくキーワードファイルを Adobe Bridge に読み込むには、キーワードパネルメニューから「読み込み」を選択し、読み込むファイルをダブルクリックします。
- キーワードファイルを Adobe Bridge に読み込み、既存のキーワードを削除するには、キーワードパネルメニューから「消去および読み込み」を選択し、読み込むファイルをダブルクリックします。
- キーワードを書き出すには、キーワードパネルメニューから「書き出し」を選択し、ファイル名を指定して「保存」をクリックします。

Adobe Bridge でのファイルの表示と管理

ファイルおよびフォルダー内の移動

サブフォルダーの内容の表示

Adobe Bridge でファイルを開く

ファイルタイプの関連付けの変更

ファイルを別のアプリケーションに配置します。

Adobe Bridge でのファイルやフォルダーの検索

クイック検索の実行

ファイルのラベル付けとレーティング

ファイルの並べ替え

ファイルのフィルター処理

ファイルやフォルダーのコピー、移動、削除

画像の回転

Camera Raw の使用

Adobe Device Central と Adobe Bridge の併用

ファイルおよびフォルダー内の移動

[トップへ戻る](#)

- 次のいずれかの操作を行います。
 - フォルダーパネルでフォルダーを選択します。ディレクトリ内を移動するには、フォルダーパネルで下向き矢印キーと上向き矢印キーを押します。フォルダーを展開するには、右向き矢印キーを押します。フォルダーを折りたたむには、左向き矢印キーを押します。
 - お気に入りパネルで項目を選択します。
 - アプリケーションバーで、親またはお気に入りに移動ボタン ▼ または最近使用したファイルを表示またはフォルダーへ移動ボタン ➤ をクリックして、項目を選択します。

オペレーティングシステム上でファイルを表示するには、ファイル/エクスプローラーで表示 (Windows) またはファイル/Finder で表示 (Mac OS) を選択します。
 - アプリケーションバーで、前へ戻るボタン ◀ または次へ進むボタン ▶ をクリックして、最近表示されたフォルダー間を移動します。
 - コンテンツパネルでフォルダーをダブルクリックして開きます。

コンテンツパネルでフォルダーを Ctrl キーを押しながらダブルクリック (Windows) するか、Command キーを押しながらダブルクリック (Mac OS) すると、新しいウィンドウでフォルダーが開きます。
 - エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac OS) から、Adobe Bridge のパスバーにフォルダーをドラッグすると、その場所に移動します。
 - エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac OS) からプレビューパネルにフォルダーをドラッグして開きます。Mac OS では、Finder から Adobe Bridge アイコンにフォルダーをドラッグして開くこともできます。
- パスバーを使用して移動します。
 - パスバー内の項目をクリックすると、その項目に移動します。
 - パスバーで右向き矢印を右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Mac OS) すると、フォルダー閲覧が有効になります。フォルダーの閲覧では、選択した項目のサブフォルダーを表示して、そのサブフォルダーに移動することができます。また、パスバーで右向き矢印 ▶ をクリックして、上位の項目のサブフォルダーを閲覧することもできます。
 - コンテンツパネルからパスバーに項目をドラッグすると、その場所に移動します。
 - パスバーの最後の項目をクリックして、パスを編集します。アイコンモードに戻るには Esc キーを押します。

注意： パスバーの表示と非表示を切り替えるには、ウィンドウ/パスバーを選択します。

サブフォルダーの内容の表示

[トップへ戻る](#)

Adobe Bridge では、フォルダーやサブフォルダーを 1 つの連続した「フラットな」表示にできます。フラット表示では、サブフォルダーを含め、フォルダーの内容全体が表示されるので、サブフォルダー内を移動する必要がありません。

❖ フォルダーの内容をフラット表示にするには、表示/サブフォルダー内の項目を表示を選択します。

Adobe Bridge でファイルを開く

Adobe Bridge では、Adobe ソフトウェア以外のソフトウェアで作成したファイルも開けます。Adobe Bridge を使用してファイルを開くと、ファイルはネイティブのアプリケーションまたは指定したアプリケーションで開きます。Adobe Bridge を使用して、アドビアプリケーションで開いているドキュメントにファイルを配置することもできます。

❖ ファイルを選択して、次のいずれかの操作を行います。

- ファイル／開くを選択します。
- Enter キーまたは Return キーを押します。
- Ctrl + 下向き矢印キー (Windows) または Command + 下向き矢印キー (Mac OS) を押したままにします。
- コンテンツパネルでファイルをダブルクリックします。
- ファイル／アプリケーションを指定して開くを選択し、ファイルを開くアプリケーションの名前を選択します。
- ファイルをアプリケーションのアイコンの上にドラッグします。
- ファイル／Camera Raw で開くを選択し、ファイルの Camera Raw 設定を編集します。
- デジタルカメラから Adobe Bridge に写真を開くには、Adobe Photo Downloader を使用します。デジタルカメラまたはカードリーダーから Adobe Bridge への写真の取り込みを参照してください。

ファイルタイプの関連付けの変更

特定のファイルタイプを開くアプリケーションを選択すると、Adobe Bridge を使用して開くファイルのみにこの操作が影響し、オペレーティングシステムの設定は無視されます。

1. 編集／環境設定 (Windows) または Adobe Bridge CS5.1／環境設定 (Mac OS) を選択し、「ファイルタイプの関連付け」をクリックします。
2. アプリケーションの名前 (または「なし」) をクリックし、「参照」をクリックして、使用するアプリケーションを検索します。
3. ファイルタイプの関連付けをデフォルトの設定にリセットするには、「初期設定の関連付けにリセット」をクリックします。
4. アプリケーションと関連付けられていないファイルタイプを非表示にするには、「未定義のファイル関連付けを隠す」を選択します。

ファイルを別のアプリケーションに配置します。

- Adobe Bridge で目的のファイルを選択し、ファイル／配置を選択してから、アプリケーションの名前を選択します。例えば、このコマンドを使用して、JPEG 画像を Adobe Illustrator 内に配置することができます。
- Adobe Bridge から目的のアプリケーションにファイルをドラッグします。ファイルによっては、ファイルを配置するドキュメントを最初に開いておく必要があります。

Adobe Bridge でのファイルやフォルダーの検索

Adobe Bridge で複数の検索条件を組み合わせてファイルやフォルダーを検索できます。検索条件はスマートコレクションとして保存できます。スマートコレクションは、条件を満たすファイルによって常に最新の状態で保たれるコレクションです。

1. 編集／検索を選択します。
2. 検索対象のフォルダーを選択します。
3. 検索条件メニューでオプションおよび制約条件を選択して検索条件を選択します。右側のボックスに検索テキストを入力します。
4. 検索条件を追加するには、プラス記号 (+) をクリックします。検索条件を削除するには、マイナス記号 (-) をクリックします。
5. 一致ポップアップメニューから、検索条件のいずれかまたはすべてを満たすことを指定するオプションを選択します。
6. (オプション) ソースフォルダー内のサブフォルダー内も検索するには、「すべてのサブフォルダーを含む」を選択します。
7. (オプション) Adobe Bridge でキャッシュされていないファイルとキャッシュされているファイルを検索するには、「インデックスされていないファイルを含む」を選択します。Adobe Bridge 内で参照したことがないフォルダー内のキャッシュされていないファイルを検索すると、キャッシュされているファイルのみを検索する場合よりも時間がかかります。
8. 「検索」をクリックします。
9. オプション) 検索条件を保存するには、Adobe Bridge で検索結果が表示されているときにコレクションパネルで新規スマートコレクションボタン  をクリックします。スマートコレクションダイアログボックスでスマートコレクションの名前を入力し、「保存」をクリックします。コレクションパネルでスマートコレクションの名前を入力し、Enter キーまたは Return キーを押します。**string not required**スマートコレクションの作成を参照してください。

クイック検索の実行

アプリケーションバーの「クイック検索」フィールドを使用して Adobe Bridge 内のファイルやフォルダーを検索できます。クイック検索で

は、Adobe Bridge 検索エンジンまたは Windows デスクトップサーチ (Windows) またはスポットライト (Mac OS) を使用して検索できません。Adobe Bridge エンジンでは、ファイル名およびキーワードを検索できます。オペレーティングシステムエンジンでは、ファイル名、フォルダー名、画像のキーワードを検索できます。Adobe Bridge 検索では、マイコンピュター (Windows) およびコンピュター (Mac OS) を含め、現在選択しているフォルダーおよびすべてのサブフォルダーが検索されます。オペレーティングシステム検索では、現在選択しているフォルダー内またはマイコンピュター (Windows) およびコンピュター (Mac OS) 内を検索されます。

1. 「クイック検索」フィールドで拡大鏡アイコン  をクリックし、検索エンジンとして Adobe Bridge 検索、Windows デスクトップサーチ (Windows) またはスポットライト (Mac OS) を選択します。
2. 検索条件を入力します。
3. Enter キーまたは Return キーを押します。

注意： Vista には、初期設定で Windows デスクトップサーチがインストールされています。Windows XP のユーザーは、Microsoft 社の Web サイトから Windows デスクトップサーチをダウンロードしてインストールできます。Adobe Bridge では、Windows デスクトップサーチがインストールされているかどうかを検出され、結果に従って機能が有効になります。Windows デスクトップサーチの初期設定では、Documents and Settings ディレクトリのみがインデックス処理に含まれます。別の場所を含めるには、Windows デスクトップサーチのオプションダイアログボックスでオプションを変更します。

ファイルのラベル付けとレーティング

[トップへ戻る](#)

ファイルに特定のカラーのラベルを付けたり、0～5 個の星で表されるレーティングを割り当てることによって、大量のファイルにすばやくマークを付けることができます。カラーラベルやレーティングに従ってファイルを並べ替えることができます。

例えば、Adobe Bridge で読み込んだ多くの画像を表示しているとします。新しい画像を 1 つずつ確認しながら、保存したい画像にラベルを付けることができます。この作業の後に「並べ替え」コマンドを使用して、特定のカラーでラベルを付けたファイルを表示して、操作することができます。

ラベルおよびレーティングは、フォルダーに対してもファイルに対しても設定できます。

ラベル環境設定でラベルに名前を割り当てることもできます。この名前は、ラベルを適用したときにファイルのメタデータに追加されます。環境設定でラベルの名前を変更した場合、古いラベルが適用されていたファイルは、コンテンツパネルでは白いラベル付きで表示されます。

注意： Adobe Bridge でフォルダーを表示した場合、別のオプションを選択しない限り、ラベル付きのファイルとラベルなしのファイルの両方が表示されます。

1. ファイルのラベル付けを行うには、ファイルを 1 つ以上選択し、ラベルメニューからラベルを選択します。ファイルからラベルを削除するには、ラベル/ラベルなしを選択します。
 2. ファイルのレーティングを行うには、ファイルを 1 つ以上選択し、次のいずれかの操作を行います。
 - コンテンツパネルで、ファイルに付けるレーティングを表す星またはドットをクリックします (サムネール表示では、ドットを表示するにはサムネールを選択する必要があります。非常に小さなサムネール表示には星とドットが表示されません。必要な場合は、星とドットが表示されるまでサムネール表示の大きさを変更してください。リスト表示では、レーティング列が表示されていることを確認します)。
 - ラベルメニューからレーティングを選択します。
 - 星を 1 つ追加または削除するには、ラベル/レーティングを上げる、またはラベル/レーティングを下げるを選択します。
 - すべての星を削除するには、ラベル/レーティングなしを選択します。
 - 除外のレーティングを追加するには、ラベル/除外を選択するか、Alt + Delete (Windows) または Option + Delete (Mac OS) を押します。
- 注意： Adobe Bridge で除外されたファイルを非表示にするには、表示/除外ファイルを表示を選択します。

ファイルの並べ替え

[トップへ戻る](#)

Adobe Bridge の初期設定では、コンテンツパネルのファイルはファイル名順に表示されます。「並べ替え」コマンドまたはアプリケーションバーの「<条件> を基準に並べ替え」ボタンを使用してファイルを別の方法で並べ替えることができます。

- 表示/並べ替えのサブメニューからコマンドを選択するか、アプリケーションバーの「<条件> を基準に並べ替え」ボタンをクリックすると表示されるメニューから条件を選択してファイルを並べ替えます。ファイルを最後にドラッグで並べ替えした順番に並べ替えるには、「手動」を選択します。コンテンツパネルに検索結果、コレクションまたはフラット表示が表示されている場合、「<条件> を基準に並べ替え」ボタンには、フォルダー別にファイルを並べ替えるための「フォルダー名を基準」オプションが表示されます。
- リスト表示では、列見出しをクリックすると、その列の条件で並べ替えられます。

ファイルのフィルター処理

[トップへ戻る](#)

フィルターパネルで条件を選択して、コンテンツパネルに表示するファイルを制御します。フィルターパネルには、項目が表示されているかどうかに関係なく、現在のセット内で特定の値を持つ項目の数が表示されます。例えば、フィルターパネルを見ると、特定のレーティングまたはキーワードが設定されているファイルの数をすばやく確認できます。

フィルターパネルに表示される条件は、コンテンツパネルに表示されるファイルの種類および関連付けられたメタデータや場所に応じて動的に生成されます。例えば、コンテンツパネルにオーディオファイルが表示されている場合、フィルターパネルには作者名、アルバム、ジャンル、キー、テンポおよびループの条件が表示されます。コンテンツパネルに画像が表示されている場合、フィルターパネルには寸法、画像方向、カメラデータ（露出時間や絞り値など）が表示されます。コンテンツパネルに異なるフォルダー階層のファイルから収集された検索結果やコレクション、またはフラット表示が表示されている場合、「<条件>を基準に並べ替え」ボタンには、フォルダー別にファイルを並べ替えるための「フォルダー名を基準」オプションが表示されます。

フォルダー、除外ファイル、隠しファイル（キャッシュファイルなど）をコンテンツパネルに表示するかどうかについては、表示メニューのコマンドを選択することで指定します。

- ファイルを並べ替えるには、フィルターパネルで1つ以上の条件を選択します。
 - 同じカテゴリの条件（ファイルタイプなど）を選択すると、いずれかの条件を満たすファイルが表示されます。例えば、GIF ファイルと JPEG ファイルの両方を表示するには、「ファイルタイプ」で「GIF 画像」および「JPEG ファイル」を選択します。
 - カテゴリの異なる条件（ファイルタイプとレーティングなど）を選択すると、すべての条件を満たすファイルが表示されます。例えば、2 つ星の GIF ファイルと JPEG ファイルを表示するには、「ファイルタイプ」で「GIF 画像」および「JPEG ファイル」を選択し、「レーティング」で2 つ星を選択します。

Shift キーを押しながらレーティングの条件をクリックすると、選択したレーティング以上が選択されます。例えば、Shift キーを押しながら2 つ星をクリックすると、2 つ星以上のすべてのファイルが表示されます。
- フィルターパネルメニューからカテゴリを選択します。

すべてのフィルターカテゴリを開いたり、閉じたりするには、フィルターパネルメニューから「すべてを展開」または「すべてを折りたたむ」を選択します。
- 選択条件を反転するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらクリックします。例えば、「ファイルタイプ」で「GIF 画像」を選択しているときに、Alt キーを押しながら「GIF 画像」をクリックすると、このファイルタイプの選択が解除され、一覧の他のすべてのファイルタイプが選択されます。

注意： 閉じているスタックをフィルター処理する場合は、一番上（サムネール）の項目がフィルター条件を満たしている場合にのみスタックが表示されます。展開されているスタックをフィルター処理する場合は、スタック内で一番上のファイルのフィルター条件を満たすすべてのファイルが表示されます。
- フィルターをクリアするには、フィルターパネルの下部にあるフィルターをクリアボタン  をクリックします。
- Adobe Bridge で別の場所に移動したときにフィルター条件がクリアされないようにするには、フィルターパネルの下部にある参照時にフィルターを保持ボタン  をクリックします。

ファイルやフォルダーのコピー、移動、削除

[トップへ戻る](#)

- ファイルまたはフォルダーをコピーするには、次のいずれかの操作を行います。
 - ファイルまたはフォルダーを選択し、編集／コピーを選択します。
 - ファイルまたはフォルダーを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、「コピー先」を選択して、一覧から場所を選択します（別の場所を指定するには、「フォルダーを選択」を選択します）。
 - Ctrl キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら、ファイルまたはフォルダーを別のフォルダーにドラッグします
- 別のフォルダーにファイルを移動するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ファイルを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、「移動」を選択して、一覧から場所を選択します（別の場所を指定するには、「フォルダーを選択」を選択します）。
 - ファイルを Adobe Bridge ウィンドウ、エクスプローラー（Windows）または Finder（Mac OS）の別のフォルダーにドラッグします。

注意： ドラッグしているファイルが、Adobe Bridge 以外のマウントされたボリューム内にある場合は、ファイルは移動ではなく、コピーされます。ファイルを別のマウントされたボリュームに移動するには、Shift キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながらファイルをドラッグします。
- ファイルまたはフォルダーを削除するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ファイルまたはフォルダーを選択して、項目を削除ボタン  をクリックします。
 - ファイルまたはフォルダーを選択して Ctrl + Delete キー（Windows）または Command + Delete キー（Mac OS）を押します。
 - ファイルまたはフォルダーを選択して Delete キーを押し、ダイアログボックスの「削除」をクリックします。

画像の回転

[トップへ戻る](#)

Adobe Bridge で JPEG、PSD、TIFF、および Camera Raw 画像を回転することができます。回転を適用しても画像データは変化しませんが、Adobe Bridge で画像を回転するとネイティブアプリケーション上でも画像が回転して表示される可能性があります。

1. コンテンツエリアで画像（複数可）を選択します。

2. 次のいずれかの操作を行います。

- 編集／90°回転（時計回り）、90°回転（反時計回り）または 180°回転を選択します。
- アプリケーションバーの 90°回転（時計回り）または 90°回転（反時計回り）ボタンをクリックします。

Camera Raw の使用

[トップへ戻る](#)

Camera Raw ファイルには、カメラの画像センサーで取り込んだ未処理のデータが含まれます。Adobe Photoshop または Adobe AfterEffects をインストールしている場合は、Adobe Bridge で Adobe Photoshop Camera Raw ソフトウェアを使用して、Camera Raw ファイルを処理できます。Adobe Bridge から JPEG（.JPG）ファイルや TIFF ファイルを Camera Raw で開いて処理することもできます。

Adobe Bridge を使用して、ファイルの設定を別のファイルにコピー＆ペーストしたり、ファイルをバッチ処理したり、Camera Raw ダイアログボックスを開かずにファイルに設定を適用したりできます。

- Adobe Bridge から JPEG ファイルや TIFF ファイルを Camera Raw で開くには、Camera Raw 環境設定で対応するオプションを指定します。編集／Camera Raw 環境設定（Windows）または Adobe Bridge CS5.1／Camera Raw 環境設定（Mac OS）を選択します。「JPEG および TIFF の処理」セクションで、JPEG／すべてのサポートされている JPEG ファイルを自動的に開くを選択するか、TIFF／すべてのサポートされている TIFF ファイルを自動的に開くを選択します。その後、JPEG または TIFF ファイルをダブルクリックすると、ファイルが Camera Raw で開きます。JPEG および TIFF ファイルを Photoshop で開くには、「設定を使用して JPEG ファイルを自動的に開く」または「設定を使用して TIFF ファイルを自動的に開く」を選択します。
- Adobe Bridge から Raw ファイルを Camera Raw で開くには、Adobe Bridge 環境設定で対応するオプションを選択します。編集／環境設定（Windows）または Adobe Bridge CS5.1／環境設定（Mac OS）を選択します。「一般」タブの「動作」領域で「ダブルクリックして Camera Raw 設定を Bridge で編集」を選択します。この環境設定を選択していない場合は、Raw ファイルをダブルクリックすると Photoshop で開かれます。
- ****string not required**** 画像を開くを参照してください。

Adobe Device Central と Adobe Bridge の併用

[トップへ戻る](#)

Adobe Device Central を使用すると、Adobe Bridge から Photoshop、Flash、Illustrator ファイルなどの異なるタイプのファイルを、様々なモバイルデバイスでどのように表示されるかをプレビューできます。これにより、異なるタイプのファイルをテストする作業の効率が向上します。また、Adobe Bridge は、Photoshop や Flash Professional などの Creative Suite コンポーネントを開かなくても、Adobe Device Central を直接呼び出すことができます。

例えば、複数の Creative Suite コンポーネントを使用している場合、Adobe Bridge のフォルダーを使用して、同じプロジェクトに使用されている様々なファイルを整理できます。また、Adobe Bridge 内のフォルダーに移動して、Photoshop 画像、Flash ファイル、Illustrator ファイルがモバイルデバイスでどのように表示されるかを確認できます。

Adobe Bridge からのコンテンツのプレビューは、既存のコンテンツを再利用する場合にも有用です。例えば、特定のデバイスグループ向けに以前に作成した壁紙ファイルがあります。その壁紙ファイルを最新のモバイルデバイスでテストする場合があります。Adobe Device Central でプロファイルリストを更新し、Adobe Bridge から直接、古い壁紙ファイルを新しいデバイスでテストするだけです。

注意： Adobe Device Central と Adobe Bridge との併用は、Mac® 版 Photoshop Elements 8 ではサポートされていません。

1. Adobe Bridge から Adobe Device Central にアクセスするには、ファイルを 1 つ選択します。サポートされている形式は、SWF、JPG、JPEG、PNG、GIF、WBM、MOV、3GP、M4V、MP4、MPG、MPEG、AVI、HTM、HTML、XHTML、CHTML、URL および WEBLOC です。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - ファイル／Device Central でテストを選択します。
 - 右クリックして「Device Central でテスト」を選択します。

ファイルが Adobe Device Central の「エミュレーター」タブに表示されます。別のデバイスでテストするには、デバイスセットリストまたは使用可能なデバイスリストで異なるデバイス名をダブルクリックします。

注意： デバイスプロファイルをブラウズする場合、またはモバイルドキュメントを作成する場合は、ツール／Device Central を選択します。Adobe Device Central が起動し、「デバイスライブラリ」タブが表示されます。Adobe Device Central に関する詳しいヘルプは、[他のアドビ製品を使用したモバイルコンテンツの作成とプレビュー](#)を参照してください。

Mini Bridge

このページにリンクされている一部のコンテンツは英語でのみ表示される場合があります。

Mini Bridge

[Mini Bridge を開く](#)

[Mini Bridge でのファイルの参照](#)

[Mini Bridge でファイルを開く、または配置する](#)

[Mini Bridge でのファイルのプレビュー](#)

[Mini Bridge でのファイル名変更](#)

[Mini Bridge のお気に入りとコレクション](#)

[Mini Bridge CS5 チュートリアル](#)

Mini Bridge は、Adobe® Photoshop®、Adobe InDesign® および Adobe InCopy® のパネルでアセットを操作できる拡張機能です。Mini Bridge は、これらのアプリケーションで作業をしている場合に、様々な Adobe Bridge 機能にアクセスする手段として便利です。Mini Bridge は Adobe Bridge と連携して、サムネールを作成したり、ファイルの同期を保ったり、その他のタスクを実行したりします。

Mini Bridge を開く

[ページのトップへ](#)

次のいずれかの操作を行って Mini Bridge パネルを開きます。

- (Photoshop) ファイル／Mini Bridge で参照をクリックします。
- (Photoshop) ウィンドウ／エクステンション／Mini Bridge を選択します。
- (InDesign、InCopy) ウィンドウ／Mini Bridge を選択します。

Mini Bridge パネルに「ファイルを参照するには Bridge を実行する必要があります。」というメッセージが表示されたら、「Bridge を起動」ボタンをクリックします。

Mini Bridge でのファイルの参照

[ページのトップへ](#)

- パネルの左側にあるお気に入りポップアップメニューをクリックして、ファイルがある場所に移動します。フォルダー名をクリックするか、パスバーにある矢印をクリックしてフォルダーを表示することもできます。
- 検索ボタン  を使用して、指定する条件でファイルを検索します。
- プレビュー領域に表示する内容を指定するには、次のボタンを使用します。

並び替え  ファイル名、種類、作成日およびその他のメタデータを基準に並べ替えます。

フィルター  レーティングの星印の数またはラベルを基にフィルターを適用します。

注意： 除外ファイルを表示するには、「表示」ボタンをクリックし、「除外ファイルを表示」を選択します。

Mini Bridge パネルの端をドラッグして、サムネールの大きさを変更します。

Mini Bridge でファイルを開く、または配置する

[ページのトップへ](#)

ファイルを開いたり配置したりするには、Mini Bridge パネルでサムネールを選択し、次のいずれかの操作を行います。

- ホストアプリケーションまたはホストアプリケーションのアイコンにファイルをドラッグします。
- ダブルクリックして、対応するアプリケーションで開きます。
- ファイルを右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Mac OS) し、「配置」または「アプリケーションを指定して開く」を選択して、アプリケーションを選択します。
- (InDesign) Mini Bridge パネルからドキュメントにスニペットをドラッグします。配置後のスニペットの左上隅の位置に、スニペットを掴んでいるカーソルの位置を合わせて配置します。スニペットファイルには拡張子 .IDMS または .INDS が付いています。
- 自動タスクを実行するには、1 つまたは複数のサムネールを選択し、右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Mac OS) し、[ホストアプリケーション] / [自動タスク] を選択します。特定のコマンドについては、必要に応じて Photoshop のヘルプまたは InDesign のヘルプを参照または検索してください。
- ファイルを Adobe Bridge で開くには、ファイルを選択し、Mini Bridge パネルの上部にある Adobe Bridge に移動ボタン  をクリックします。または、サムネールを右クリック (Windows) するか、Control キーを押しながらクリック (Mac OS) し、「Bridge で表示」を選択します。

Mini Bridge でのファイルのプレビュー

表示メニューボタン  を使用すると、Mini Bridge パネルで画像をプレビューできます。このボタンをクリックして、次のいずれかの操作を行います。

- 「スライドショー」を選択して、選択した画像のスライドショーを Adobe Bridge で開きます。
- 「レビューモード」を選択して、選択した画像を Adobe Bridge のレビューモードで開きます。
- 「フルスクリーンプレビュー」を選択して、Adobe Bridge でフルスクリーンプレビューを開きます。

Mini Bridge でのファイル名変更

- Mini Bridge パネルでファイル名をクリックし、新しい名前を入力します。または、サムネールを右クリック（Windows）するか、Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、「名前変更」を選択します。

Mini Bridge のお気に入りとコレクション

Adobe Bridge のお気に入りとコレクションは Mini Bridge パネルに表示されます。

- お気に入りまたはコレクションにアイテムを追加するには、Mini Bridge パネルのナビゲーション領域にあるフォルダーまたはコレクションにアイテムのサムネールをドラッグします。

Mini Bridge CS5 チュートリアル

CS5 の Mini Bridge の使用方法について詳しくは、次のいずれかのチュートリアルを参照してください。

- [Adobe Mini Bridge パネルおよび InDesign CS5 \(02:00\)](#)
- [Photoshop CS5 での Mini Bridge の使用](#)
- [Photoshop CS5 での Mini Bridge](#)
- [CS5 アプリケーションでの Mini Bridge の使用 \(06:09\)](#)
- [Bridge および Mini Bridge の新機能 \(10 : 17\)](#)
- [Adobe Photoshop CS5 での Mini Bridge の使用](#)

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

Camera Raw

このページにリンクされている一部のコンテンツは英語でのみ表示される場合があります。

Camera Raw の紹介

[Camera Raw ファイルについて](#)

[Camera Raw について](#)

[Digital Negative \(DNG\) 形式について](#)

[Camera Raw での画像の修正](#)

[Camera Raw ダイアログボックスの概要](#)

[Adobe Bridge での Camera Raw キャッシュの使用](#)

[Camera Raw と Lightroom の使用](#)

[トップへ戻る](#)

Camera Raw ファイルについて

string not required Camera Raw ファイルには、デジタルカメラのイメージセンサーから得られた圧縮されていない未処理グレースケール画像データと、その画像のキャプチャ方法に関する情報（メタデータ）が含まれています。Photoshop® Camera Raw ソフトウェアでは、カメラに関する情報と画像のメタデータを使用して Camera Raw ファイルが解釈され、カラー画像が生成されます。

Camera Raw ファイルは写真のネガと考えてください。このファイルはいつでも、好みの結果が得られるようにホワイトバランス、色調範囲、コントラスト、彩度およびシャープの量を調整できます。Camera Raw 画像を調整するとき、元の Camera Raw データは保持されています。行った調整は、対応するサイドカーファイル、データベースまたはファイル自体（DNG 形式の場合）にメタデータとして保存されます。

JPEG ファイル形式でデジタルカメラの撮影を行うと、カメラによって、JPEG ファイルの画像に増幅や圧縮を施す処理が自動的に実行されます。このカメラによる処理は、通常はユーザーがほとんどコントロールできません。デジタルカメラで Camera Raw 画像を撮影すると、JPEG 画像を撮影する場合に比べてファイル処理を自由にコントロールできます。Camera Raw でも JPEG 画像や TIFF 画像を編集できますが、カメラが既に処理したピクセルを編集することになります。Camera Raw ファイルには、カメラからの元の未処理ピクセルが常に含まれています。

Camera Raw 画像を撮影するには、そのカメラ独自の Camera Raw ファイル形式でファイルを保存するようにカメラを設定する必要があります。

注意： Photoshop の汎用フォーマットは、異なるアプリケーション間やプラットフォーム間で画像の読み込みと書き出しを行うためのファイル形式です。Photoshop の汎用フォーマットと Camera Raw ファイル形式を混同しないようにしてください。Camera Raw ファイルのファイル拡張子は、カメラのメーカーによって異なります。

デジタルカメラでは、線形トーン応答曲線（ガンマ 1.0）を使用して Camera Raw データがキャプチャされ保存されています。フィルムでも肉眼でも、光に対する反応は線形的ではなく対数的（ガンマ 2 超）です。未処理の Camera Raw 画像をグレースケール画像として表示すると、非常に暗く見えます。これは、感光装置とコンピューターには 2 倍の明るさと認識される光が、肉眼には 2 倍未満の明るさに認識されるからです。

サポートされるカメラや Camera Raw について詳しくは、[デジタルカメラ RAW ファイルのサポート](#)を参照してください。

カメラ名と各カメラで必要となる Camera Raw バージョンの一覧については、[Camera Raw plug-in | Supported cameras](#)を参照してください。

[トップへ戻る](#)

Camera Raw について

Camera Raw ソフトウェアは、Adobe After Effects® と Adobe Photoshop にプラグインとして組み込まれ、さらに Adobe Bridge に追加機能を提供します。Camera Raw を使用すると、これらのアプリケーションで Camera Raw ファイルを読み込んで処理できるようになります。Camera Raw を使用して JPEG および TIFF ファイルを処理することもできます。

注意： Camera Raw でサポートされている最大のサイズは、寸法では長辺 65,000 ピクセル、ピクセル数では 512 メガピクセルです。CMYK 画像を Camera Raw で開くと、RGB に変換して開かれます。サポートされているカメラの一覧表については、[デジタルカメラ RAW ファイルのサポート](#)を参照してください。

Adobe Bridge の Camera Raw ダイアログボックスでファイルを開くには、Photoshop または After Effects がインストールされている必要があります。ただし Photoshop や After Effects がインストールされていない場合でも、Adobe Bridge には画像のプレビューとメタデータが表示されます。画像ファイルタイプに別のアプリケーションが関連付けられている場合は、Adobe Bridge からそのアプリケーションでファイルを開くことができます。

Adobe Bridge を使用すると、画像設定を適用したり、コピーしたり、消去したりできます。また、Camera Raw ダイアログボックスを開くことなく Camera Raw ファイルのプレビューやメタデータを確認できます。Adobe Bridge で表示されるプレビューは、現在の画像設定を使用して生成された JPEG 画像です。このプレビューは Camera Raw データそのものではありません。Camera Raw データそのものは、非常に暗いグレースケール画像として表示されることがあります。

注意： プレビューが Camera Raw 画像から生成されているときは、Camera Raw ダイアログボックスのサムネールとプレビューに注意アイコン  が表示されます。

特定のカメラモデルに対して Camera Raw で使用される初期設定を変更できます。特定の ISO 設定またはカメラ（シリアル番号別）に対する初期設定を、カメラモデルごとに変更することもできます。画像設定は、他の画像に使用するプリセットとして変更し保存できます。

Camera Raw を使用して Camera Raw 画像に対する調整（角度補正や切り抜きを含む）を行うとき、画像の元の Camera Raw データは保持されています。調整内容は、Camera Raw データベースに保存されるか、画像ファイルにメタデータとして埋め込まれるか、またはサイドカー XMP

ファイル（各 Camera Raw ファイルに付随するメタデータファイル）に保存されます。詳しくは、Camera Raw 設定の保存場所の指定を参照してください。

Camera Raw プラグインを使用して Camera Raw ファイルを処理および編集した後は、Adobe Bridge の画像サムネールにアイコン  が表示されます。

Camera Raw ファイルを Photoshop で開いた場合は、PSD、JPEG、ビックドキュメント形式（PSB）、TIFF、Cineon、Photoshop 汎用フォーマット、PNG、PBM などの他の画像形式で画像を保存できます。Photoshop の Camera Raw ダイアログボックスから、処理済みのファイルを Digital Negative（DNG）、JPEG、TIFF または Photoshop（PSD）形式で保存できます。**string not required**Photoshop Camera Raw ソフトウェアでは、Camera Raw 画像ファイルを開いて編集することはできませんが、画像を Camera Raw 形式で保存することはできません。

新しいバージョンの Camera Raw が出たときは、新しいバージョンのプラグインをインストールすることによってこのソフトウェアをアップデートできます。ヘルプ/アップデートを選択すると、Adobe ソフトウェアのアップデート情報を確認できます。

Camera Raw 画像の保存方法は、カメラモデルごとに異なるため、保存形式に応じてデータを解釈する必要があります。Camera Raw は様々なカメラモデルをサポートする機能を備えており、多数の Camera Raw 形式を解釈できます。

Camera Raw ファイルを開くことができない場合は、[なぜ、使用している Photoshop または Lightroom はカメラをサポートしないのか？](#) を参照してください。

Digital Negative（DNG）形式について

[トップへ戻る](#)

Digital Negative（DNG）形式は、未処理のデジタルカメラデータを保存するデータ形式です。特定企業が所有権を持たず、一般に公開され幅広くサポートされています。DNG を使用すると、Camera Raw データを処理したりアーカイブしたりするワークフローが柔軟になります。このため、多くのハードウェアおよびソフトウェア開発会社が DNG を採用しています。DNG 形式は、特定企業の Camera Raw 形式でキャプチャされた画像を保存し、後で別の形式で利用するための橋渡しとして使用することもできます。

DNG メタデータは一般に公開されているため、DNG をサポートするカメラで作成されたファイルは、カメラ固有のデータがなくても Camera Raw などのソフトウェアリーダーでデコードしたり処理したりできます。特定企業のファイル形式は企業の都合でサポートが中止される可能性があります。その場合、その形式で保存した画像には永久にアクセスできなくなります。DNG の仕様は一般に公開されているので、DNG ファイルで保存した未処理データは遠い将来も読み取れる可能性が高く、長期保存する方法としてより安全です。

DNG ファイルとして保存した画像への調整に関するメタデータは、サイドカー XMP ファイルや Camera Raw データベースではなく、DNG ファイル自体に埋め込みます。

string not requiredAdobe DNG Converter または Camera Raw ダイアログボックスを使用すると、Camera Raw ファイルを DNG 形式に変換できます。DNG 形式と DNG Converter について詳しくは、[Digital Negative（DNG）](#) を参照してください。最新の DNG Converter をダウンロードするには、[アドビダウンロードページ](#)をご利用ください。

Camera Raw での画像の修正

[トップへ戻る](#)

1. Camera Raw ファイルをハードディスクにコピーし、整理し、DNG に変換します（オプション）。

Camera Raw ファイルで表現される画像への作業を行う前に、画像を利用しやすい状態にします。例えば、カメラのメモリカードからファイルを転送し、整理し、わかりやすい名前を付けます。Adobe Bridge の「写真をカメラから取り込む」コマンドを使用すると、これらの作業が自動的に完了します。

2. Camera Raw でファイルを開きます。

Camera Raw ファイルは Adobe Bridge、After Effects または Photoshop から Camera Raw で開くことができます。Adobe Bridge から Camera Raw で JPEG および TIFF ファイルを開くこともできます（画像を開く参照してください）。

3. カラーを調整します。

カラー調整には、ホワイトバランス、トーンおよび彩度が含まれます。ほとんどの調整を「基本補正」タブで行い、他のタブのコントロールは微調整に使用します。Camera Raw の自動画像分析によっておおよその色調を適用する場合は、「基本補正」タブの「自動」をクリックします。

前の画像に使用した設定を適用する場合や、そのカメラモデル、カメラまたは ISO 設定の初期設定を適用する場合は、Camera Raw 設定メニュー  から適切なコマンドを選択します（保存した Camera Raw 設定の適用を参照してください）。

4. その他の調整や画像補正を行います。

Camera Raw ダイアログボックスの他のツールおよびコントロールを使用して、画像のシャープ調整、ノイズの軽減、レンズの欠点の補正、リタッチなどの作業を実行します。

5.（オプション）画像設定をプリセットまたは初期画像設定として保存します。

同じ調整を後で他の画像に適用する場合は、設定をプリセットとして保存します。特定のカメラモデル、特定のカメラまたは特定の ISO 設定から取得したすべての画像に適用される初期設定として調整を保存するには、その画像設定を新しい Camera Raw 初期設定として保存します（詳しくは、Camera Raw 設定の保存、リセットおよび読み込みを参照してください）。

6. Photoshop のワークフローオプションを設定します。

Camera Raw からの画像の保存方法を指定するオプションと、Photoshop での画像の開き方を指定するオプションを設定します。**string not

required**ワークフローオプション設定にアクセスするには、Camera Raw ダイアログボックスの画像プレビューの下のリンクをクリックします。

7. 画像を保存するか、Photoshop または After Effects で開きます。

Camera Raw での画像の調整を終えた後は、Camera Raw ファイルに調整を適用する、調整された画像を Photoshop または After Effects で開く、調整された画像を別の形式で保存する、調整をキャンセルして破棄するなどの操作を行うことができます。After Effects から Camera Raw ダイアログボックスを開いた場合、「画像を保存」ボタンと「終了」ボタンは使用できません。

画像を保存 Camera Raw の設定を画像に適用し、それらのコピーを JPEG、PSD、TIFF または DNG 形式で保存します。Alt キー (Windows) または Option キー (Mac OS) を押すと、Camera Raw の保存オプションダイアログボックスが表示されず、前回の保存オプションの設定でファイルが保存されます (別の形式での Camera Raw 画像の保存を参照してください)。

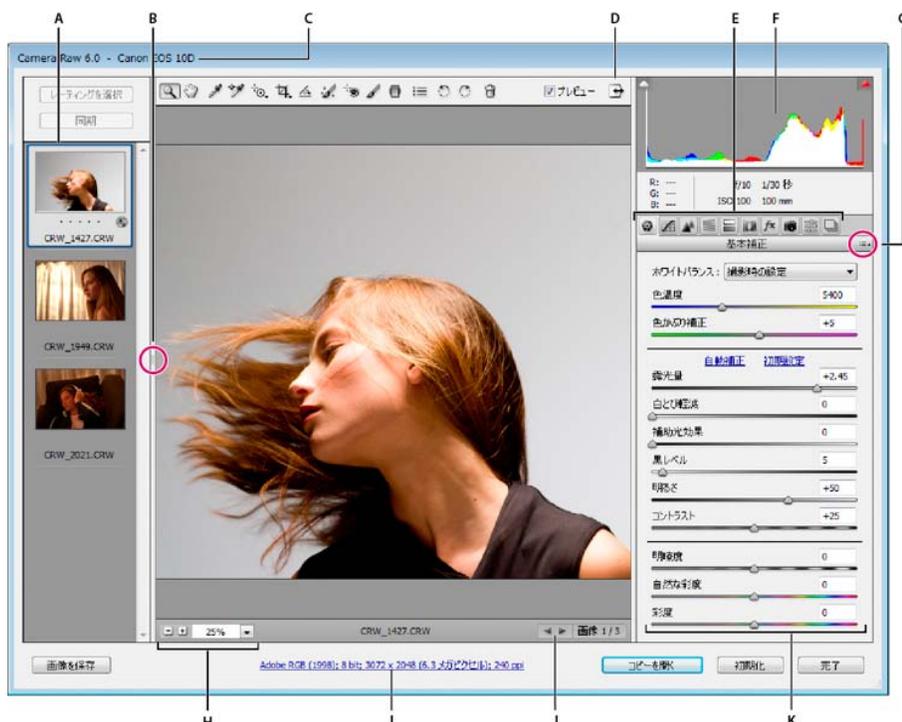
画像を開くまたは OK Photoshop または After Effects で、Camera Raw 画像ファイルのコピー (Camera Raw 設定を適用) を開きます。元の Camera Raw 画像ファイルは、まったく変更されません。Photoshop で Raw ファイルをスマートオブジェクトとして開くには、Shift キーを押したまま「画像を開く」をクリックします。Raw ファイルを含むスマートオブジェクトレイヤーをダブルクリックすれば、いつでも Camera Raw 設定を調整できます。

終了 Camera Raw ダイアログボックスを閉じ、ファイル設定を Camera Raw データベースファイル、サイドカー XMP ファイルまたは DNG ファイルに保存します。

キャンセル Camera Raw ダイアログボックスで指定した調整をキャンセルします。

Camera Raw ダイアログボックスの概要

[トップへ戻る](#)



Camera Raw ダイアログボックス

A. フィルムストリップ B. フィルムストリップの表示 / 非表示 C. カメラ名またはファイル形式 D. 全画面モードの切り替え E. 画像調整タブ F. ヒストグラム G. Camera Raw 設定メニュー H. ズームレベル I. ワークフローオプション J. ナビゲーション K. 調整スライダー

注意： Adobe Bridge または Photoshop から Camera Raw ダイアログボックスを開いたときに使用できる、ワークフローオプションリンクなどのコントロールの一部は、After Effects から Camera Raw ダイアログボックスを開いたときには使用できません。

- Camera Raw 設定メニューを開くには、画像調整タブにあるボタン  をクリックします。このメニューのコマンドの一部は、Adobe Bridge の編集 / 設定を作成メニューからも使用できます。
- Camera Raw ズームコントロールは次のとおりです。

ズームツール  プレビュー画像をクリックすると、プレビューが次のプリセット値までズームインします。1つ下の倍率にするには、Alt キー (Windows) または Option キー (Mac OS) を押しながらクリックします。選択範囲にズームインするには、プレビュー画像内でズームツールをドラッグします。100%に戻すには、ズームツールをダブルクリックします。

手のひらツール  プレビュー画像が 100%を超えるズームレベルに設定されている場合に、プレビューウィンドウ内で画像を移動します。別のツールを使用しているときに手のひらツールを一時的に使用可能にするには、スペースバーを押します。手のひらツールをダブルクリックすると、プレビュー画像をウィンドウの大きさに合わせられます。

ズームレベルの選択 メニューから拡大率を選択するか、「ズームレベルの選択」ボタンをクリックします。

プレビュー 現在のタブで行った調整を、他のタブの設定とともに適用したプレビューを表示します。選択解除すると、現在のタブの元の設定と他のタブの設定を適用した画像が表示されます。

RGB ポインター箇所のピクセルのレッド、グリーンおよびブルーの値を表示します。

シャドウとハイライト ヒストグラムの上部にあるボタンを使用して、シャドウクリッピングとハイライトクリッピングを表示します。クリップされたシャドウは青で表示され、クリップされたハイライトは赤で表示されます。ハイライトのクリップは、3つのRGBチャンネルのいずれかがクリップされている（ディテールなしで彩度が最も高い）場合に表示されます。シャドウのクリップは、3つすべてのRGBチャンネルがクリップされている（ディテールなしの黒）場合に表示されます。

- Camera Raw の画像調整タブは次のとおりです。

基本補正  ホワイトバランス、彩度および色調を調整します。

トーンカーブ  パラメトリック曲線とポイント曲線を使用して色調を微調整します。

ディテール  画像にシャープ効果を適用します。または、ノイズを軽減します。

HSL / グレースケール  色相、彩度および輝度によって色を微調整します。

明暗別色補正  モノクロ画像に色を付けます。または、カラー画像で特殊効果を作成します。

レンズ補正  カメラレンズが原因の色収差、歪曲収差、ビネットを補正します。

効果  フィルム粒状感をシミュレーションしたり、切り抜き後のビネットを適用します。

カメラキャリブレーション  カメラプロファイルを Raw 画像に適用して色かぶりを修正し、中間から偏った色を調整することで、カメラのイメージセンサーが持つ癖を補正します。

プリセット  画像調整の一連の設定をプリセットとして保存し適用します。

スナップショット  写真の編集途中で、任意の時点における状態を記録したバージョンを作成します。

Adobe Bridge での Camera Raw キャッシュの使用

[トップへ戻る](#)

Adobe Bridge で Camera Raw ファイルを表示すると、サムネールおよびプレビューには初期設定またはユーザーが調整した設定が使用されます。Adobe Bridge のキャッシュには、ファイルのサムネール、メタデータおよびファイル情報に関するデータが保存されます。これらのデータがキャッシュされることにより、Adobe Bridge で以前に表示したフォルダーに戻ったときの読み込み時間が短くなります。Camera Raw のキャッシュにより、Camera Raw で画像を開く処理と、Camera Raw で画像の設定が変更された場合に Adobe Bridge のプレビューを再構築する処理が高速化されます。

キャッシュは非常に大きくなることがあるので、必要に応じて Camera Raw キャッシュのクリアやキャッシュサイズ制限の設定を行ってください。また、キャッシュの内容が壊れているか内容が古くなっていると考えられる場合は、キャッシュをクリアして再生成してください。

注意： Camera Raw キャッシュには、割り当てディスク容量 1 ギガバイト当たり約 200 枚の画像のデータが保持されます。初期設定では、Camera Raw キャッシュは最大サイズが 1 GB に設定されます。Camera Raw 環境設定で、この制限を大きくすることができます。

1. Adobe Bridge で編集 / Camera Raw 環境設定 (Windows) または Bridge / Camera Raw 環境設定 (Mac OS) を選択します。または、Camera Raw ダイアログボックスを開いた状態で、環境設定を開くボタン  をクリックします。
2. 次のいずれかの操作を行います。
 - キャッシュサイズを変更する場合は、「最大サイズ」の値を入力します。
 - Camera Raw キャッシュをクリアする場合は、「キャッシュをクリア」ボタンをクリックします。
 - Camera Raw キャッシュの場所を変更する場合は、「フォルダーを選択」をクリックします。

Camera Raw と Lightroom の使用

[トップへ戻る](#)

Camera Raw と Lightroom には、アプリケーション間で差異がなく互換性のある処理結果が得られるように、同じ画像処理テクノロジーが使用されています。Lightroom の現像モジュールで行った画像の補正を Camera Raw で表示するには、Lightroom でメタデータの変更が XMP に保存される必要があります。

Camera Raw で行った補正は、Adobe Bridge のコンテンツパネルおよびプレビューパネルにも表示されます。

Lightroom での変更を Camera Raw で表示し、Camera Raw での補正を Lightroom および Adobe Bridge で表示できるようにするには、次の操作を行います。

1. Adobe Bridge で編集 / Camera Raw 環境設定 (Windows) または Bridge / Camera Raw 環境設定 (Mac OS) を選択します。または、Camera Raw ダイアログボックスを開いた状態で、環境設定を開くボタン  をクリックします。
2. 画像設定の保存先 / サイドカー ".xmp" ファイルを選択し、「サイドカー ".xmp" ファイルを無視」の選択を解除します。
3. Camera Raw で写真に補正を適用したら、「完了」または「画像を開く」をクリックして補正内容を保存します。

注意： Camera Raw では、Lightroom カタログ内のプライマリ画像の現在の設定しか読み取られません。仮想コピーに対する補正は、Camera Raw からは表示も使用もできません。

Camera Raw で画像を探す、開く、保存する

[複数画像の処理、比較および評価](#)
[画像処理の自動化](#)
[画像を開く](#)
[別の形式での Camera Raw 画像の保存](#)

複数画像の処理、比較および評価

[トップへ戻る](#)

複数の Camera Raw 画像を作業対象とする場合は、Camera Raw のフィルムストリップビューを使用するのが最も便利です。Adobe Bridge から Camera Raw で複数の画像を開くと、初期設定としてフィルムストリップビューが表示されます。

注意： 複数の画像を After Effects に読み込む際にはフィルムストリップビューを使用できません。

フィルムストリップパネルの画像の状態には、選択解除された状態、選択された（アクティブではない）状態、アクティブな（選択されてもいる）状態の 3 つがあります。一般に、調整は選択されているすべての画像に適用されます。

選択されているすべての画像にアクティブな画像の設定が適用されるように、設定を同期することもできます。まず一連の画像（例えば同じ条件で撮影されたすべての写真）のすべてに一連の調整を適用し、最終的に使用する写真を決めてから個別の写真を微調整すると、作業効率が上がります。グローバル調整の設定と部分補正の設定をどちらも同期することができます。

- 画像を選択するには、画像のサムネールをクリックします。ある範囲の画像を選択するには、Shift キーを押しながら 2 つのサムネールをクリックします。選択画像を追加するには、追加する画像のサムネールを Ctrl キーを押しながらクリックするか（Windows の場合）、Command キーを押しながらクリックします（Mac OS の場合）。
- 選択されている画像を変更せずにアクティブな画像を変更するには、プレビューパネルの下にあるナビゲーション矢印  をクリックします。
- アクティブな画像の設定を選択されているすべての画像に適用するには、フィルムストリップパネルの上にある「同期」ボタンをクリックします。
- 評価の星印を適用するには、画像サムネールの下にある評価をクリックします。
- 選択された画像を削除対象に指定するには、削除するマークを切り替えボタン  をクリックします。

削除対象に指定された画像のサムネールには赤の×印が表示されます。Camera Raw ダイアログボックスを閉じると、該当するファイルがごみ箱（Windows）またはゴミ箱（Mac OS）に送られます（削除対象の指定を取り消す場合は、Camera Raw ダイアログボックスを閉じる前に、フィルムストリップパネルでその画像を選択してもう一度、削除するマークを切り替えボタンをクリックします）。

複数の Camera Raw 写真の編集を同期する方法に関するチュートリアルについては、Dan Moughamian による [Synchronizing edits in Adobe Camera Raw](#) を参照してください。

画像処理の自動化

[トップへ戻る](#)

アクションを作成することによって、Camera Raw による画像ファイルの処理を自動化できます。自動化できる処理には、編集処理や、PSD、DNG、JPEG、ビックドキュメント形式（PSB）、TIFF、PDF などの形式でファイルを保存する処理があります。また Photoshop では、「バッチ」、「イメージプロセッサ」、または「ドロップレットを作成」コマンドを使用して、画像ファイルを処理できます。「イメージプロセッサ」は、同じ処理セッションの間に様々なファイル形式で画像ファイルを保存する場合に特に便利です。

以下に、Camera Raw 画像ファイルの処理を自動化するためのヒントを示します。

- アクションを記録するときは、最初に Camera Raw ダイアログボックスの Camera Raw 設定メニュー  から「現在の画像用の設定」を選択します。これにより、（Camera Raw データベースまたはサイドカー XMP ファイルに保存された）各画像に固有の設定を使用してアクションが再生されます。
- 「バッチ」コマンドでアクションを使用する場合は、Camera Raw 画像を保存するときに「別名で保存」を使用し、ファイル形式を選択することができます。
- アクションを使用して Camera Raw ファイルを開くと、アクションを記録したときに使用した設定が Camera Raw ダイアログボックスに反映されます。Camera Raw 画像ファイルの設定ごとに、異なるアクションを作成できます。
- 「バッチ」コマンドを使用する場合は、「開く」コマンドを無視を選択します。アクション内のすべての「開く」コマンドが、アクションで名前によって指定されたファイルではなく、バッチされたファイルに対して実行されます。「開く」コマンドを無視の選択を解除するのは、開いているファイルにアクションを実行する場合と、アクションで「開く」コマンドを使用する目的が必要な情報の取得にある場合のみです。
- 「バッチ」コマンドを使用するときは、処理される Camera Raw 画像ごとに Camera Raw ダイアログボックスが表示されるのを防ぐため、「開くダイアログを非表示」を選択します。

- 「バッチ」コマンドを使用するとき、アクションの「別名で保存」ではなくバッチコマンドの「別名で保存」手順を使用する場合は、「別名で保存」コマンドを省略」を選択します。このオプションを選択する場合は、アクションに「別名で保存」コマンドが含まれている必要があります。これは、「バッチ」コマンドではソースファイルが自動的に保存されないからです。「別名で保存」コマンドを省略」オプションを選択しない場合、「バッチ」コマンドで処理されたファイルは、バッチダイアログボックスで指定した場所に保存されます。
- ドロップレットを作成するときは、ドロップレットを作成ダイアログボックスの「実行」領域にある「開くダイアログを非表示」を選択します。これにより、Camera Raw 画像が処理されるたびに Camera Raw ダイアログボックスが表示されるのを防ぎます。

[トップへ戻る](#)

画像を開く

- Camera Raw で RAW 画像を処理するには、Adobe Bridge で Camera Raw ファイルを選択してからファイル／Camera Raw で開くを選択するか、Ctrl + R キー (Windows) または Command + R キー (Mac OS) を押します。Camera Raw ダイアログボックスでの調整を終えたら、「完了」をクリックして変更を適用し、ダイアログボックスを閉じます。また、「画像を開く」をクリックして、調整された画像のコピーを Photoshop で開くこともできます。
- Camera Raw で JPEG 画像または TIFF 画像を処理するには、Adobe Bridge で JPEG ファイルまたは TIFF ファイルを選択してからファイル／Camera Raw で開くを選択するか、Ctrl + R キー (Windows) または Command + R キー (Mac OS) を押します。Camera Raw ダイアログボックスでの調整を終えたら、「完了」をクリックして変更を適用し、ダイアログボックスを閉じます。Camera Raw 設定が適用された JPEG 画像または TIFF 画像が、Camera Raw 環境設定の「JPEG および TIFF の処理」セクションで自動的に開くようにするかどうかを指定できます。
- Photoshop に Camera Raw 画像を読み込むには、Adobe Bridge で Camera Raw ファイルを選択してから、ファイル／アプリケーションを指定して開く／Adobe Photoshop CS5 を選択します (Photoshop でファイル／開くコマンドを選択し、Camera Raw ファイルを探して選択することもできます)。Camera Raw ダイアログボックスでの調整を終えた後、「画像を開く」をクリックすると、変更が適用され、調整した画像が Photoshop で開きます。Alt キー (Windows) または Option キー (Mac OS) を押しながら操作すると、調整した画像のコピーが開かれ、元の画像のメタデータには調整内容が保存されません。Photoshop で画像をスマートオブジェクトとして開くには、Shift キーを押したまま「画像を開く」をクリックします。Raw ファイルを含むスマートオブジェクトレイヤーをダブルクリックすれば、いつでも Camera Raw 設定を調整できます。

Adobe Bridge で Shift キーを押しながらサムネールをダブルクリックすると、Camera Raw ダイアログボックスが開くことなく、Photoshop で Camera Raw 画像が開きます。Shift キーを押したままファイル／開くを選択すると、選択された複数の画像が開きます。
- Adobe Bridge を使用して After Effects に Camera Raw 画像を読み込むには、Adobe Bridge で Camera Raw ファイルを選択してから、ファイル／アプリケーションを指定して開く／After Effects CS5 を選択します (After Effects でファイル／読み込みを選択し、Camera Raw ファイルを選択することもできます)。Camera Raw ダイアログボックスでの調整を終えたら、「OK」をクリックして変更を受け入れます。
- Camera Raw を使用して After Effects に TIFF ファイルおよび JPEG ファイルを読み込むには、After Effects でファイル／読み込みコマンドを選択し、ファイルの読み込みダイアログボックスで、選択対象 (Mac OS) メニューまたはファイルの種類 (Windows) メニューから「すべてのファイル」を選択します。読み込むファイルを選択し、ファイル形式メニューから「Camera Raw」を選択して、「OK」をクリックします。
- Camera Raw 画像を After Effects にシーケンスとして読み込むには、After Effects でファイル／読み込みを選択します。読み込む画像を選択し、「Camera Raw シーケンス」ボックスを選択して「開く」をクリックします。XMP サイドカーファイルがシーケンスの 2 番目以降のファイルに存在しない場合、読み込み時に最初の Camera Raw ファイルに適用された Camera Raw 設定が、シーケンスの残りのファイルに適用されます。その場合、XMP ファイルまたは DNG ファイルの設定がシーケンスの特定のフレームに適用されます。他のすべてのフレームでは、シーケンスの最初のファイルで指定されている設定が使用されます。

Camera Raw ファイルを開くことができない場合は、[なぜ、使用している Photoshop または Lightroom はカメラをサポートしないのか？](#) を参照してください。

別の形式での Camera Raw 画像の保存

[トップへ戻る](#)

Camera Raw ダイアログボックスから、Camera Raw ファイルを PSD、TIFF、JPEG または DNG 形式で保存できます。

Camera Raw ダイアログボックスで「画像を保存」を使用すると、ファイルが処理待ちのキューに置かれて保存されます。これは、Camera Raw ダイアログボックスで複数のファイルを処理し、同じ形式で保存する場合に便利です。

- Camera Raw ダイアログボックスで、ダイアログボックスの左下にある「画像を保存」ボタンをクリックします。

Alt キー (Windows) または Option キー (Mac OS) を押しながらクリックすると、ファイルを保存するときに、Camera Raw の保存オプションダイアログボックスが表示されません。
- 保存オプションダイアログボックスで、次のオプションを指定します。

保存先 ファイルの保存場所を指定します。必要な場合は、「フォルダーを選択」ボタンをクリックし、別の場所に移動します。

ファイルの名前 日付やカメラシリアル番号などを含める一定の命名規則に従い、ファイル名を指定します。一定の命名規則に従ってわかりやすいファイル名を付けると、画像ファイルを整理しやすくなります。
- ファイル形式メニューからファイル形式を選択します。

Digital Negative Camera Raw ファイルのコピーを DNG ファイル形式で保存します。

互換性のある形式 ファイルを読み取ることができる Camera Raw および Lightroom のバージョンを指定します。

「カスタム」を選択する場合は、DNG 1.1 または DNG 1.3 との互換性を確保するかどうかを指定します。既定では、変換にデータ

の欠落がない可逆圧縮が使用されます。つまり、ファイルサイズは削減されても、情報は一切失われません。「リニア画像」を選択すると、補間された形式で画像データが保存されます。つまり、その画像をキャプチャしたデジタルカメラに関するプロファイルを持たない他のソフトウェアでも、その画像のファイルを読み取ることができます。

JPEG プレビュー DNG ファイルに JPEG プレビューを埋め込みます。JPEG プレビューを埋め込む場合は、プレビューのサイズを選択できます。JPEG プレビューを埋め込むと、他のアプリケーションでも Camera Raw データを解析せずに DNG ファイルの内容を表示できます。

オリジナル Raw ファイルを埋め込む 元の Camera Raw 画像の全データを DNG ファイルに保存します。

JPEG Camera Raw ファイルのコピーを JPEG 形式で保存します。圧縮率を指定するには、0～12 の値を入力するか、メニューから選択します。高い値を入力するか、「高」または「最高（低圧縮率）」を選択すると、圧縮率が低くなり、ファイルサイズが大きくなり、画質が向上します。JPEG 形式は、Web フォトギャラリー、スライドショー、プレゼンテーションなどのオンラインサービスで、写真やその他の連続階調画像を表示するために広く使用されています。

TIFF Camera Raw ファイルのコピーを TIFF ファイルとして保存します。圧縮を適用しないか、LZW または ZIP ファイル圧縮を適用するかを指定します。TIFF は、事実上すべてのペイントアプリケーション、画像編集アプリケーションおよび DTP アプリケーションでサポートされているビットマップ画像形式です。TIFF では、PSD 形式よりも高い圧縮率が得られ、また他のアプリケーションとの高い互換性が得られます。

Photoshop Camera Raw ファイルのコピーを PSD ファイル形式で保存します。切り抜いたピクセルデータを PSD ファイルに保存するかどうかを指定できます。

4. 「保存」をクリックします。



Camera Raw のプロセスバージョン

プロセスバージョンは、写真の補正とレンダリングを行うために Camera Raw で使用するテクノロジーです。使用するプロセスバージョンに応じて、「基本補正」タブの使用時および部分補正の実行時に利用できるオプションおよび設定領域が異なります。

プロセスバージョン 2012 Camera Raw 7 で初めて編集される画像には、プロセスバージョン 2012 が使用されます。PV2012 には、コントラストの強い画像に対応した新しいトーンコントロールおよびトーンマッピングのアルゴリズムが導入されています。PV2012 を使用すると、基本補正パネルでハイライト、シャドウ、白レベル、黒レベル、露光量およびコントラストを調整できます。ホワイトバランス（色温度と色かぶり）、ハイライト、シャドウ、ノイズ、モアレに部分補正を適用することもできます。

プロセスバージョン 2010 Camera Raw 6 で編集される画像には、初期設定で PV2010 が使用されていました。PV2010 では、以前のプロセスバージョン 2003 に比べて、シャープさが増し、ノイズが軽減されています。

プロセスバージョン 2003 Camera Raw 5.x 以前で使用されていた、オリジナルの処理エンジンです。

以前のバージョンで編集されている写真を現在のプロセスバージョンに更新すると、新しいプロセスを利用できます。

写真を Camera Raw 7 のプロセス（PV2012）に更新するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 画像プレビューの右下にある最新の処理に更新ボタン（感嘆符アイコン）をクリックします。
- 「カメラキャリブレーション」タブで、処理／2012（現在）を選択します。

写真に以前のプロセスバージョンを適用するには、「カメラキャリブレーション」タブで、処理／2010 または処理／2003 を選択します。

ビデオチュートリアル

- [Camera Raw 7 の新機能](#)

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Camera Raw でのカラー調整および色調調整

ヒストグラムおよび RGB レベル
ハイライトとシャドウのクリップの表示
ホワイトバランスコントロール
トーン調整
トーンカーブの微調整
明瞭度、自然な彩度および彩度コントロール
HSL / グレースケールコントロール
ターゲット調整ツールによるトーンまたは色の調整
グレースケール画像のトーン調整
Camera Raw での HDR 画像の編集

ヒストグラムおよび RGB レベル

[トップへ戻る](#)

ヒストグラムは、画像内の各輝度のピクセル数を表します。ヒストグラムのどの輝度値も 0 ではない場合は、トーンスケール全体を利用している画像であることを示します。ヒストグラムで色調範囲全体が利用されていない場合は、コントラストに欠けるぼんやりした画像であることを示します。左側にスパイクのあるヒストグラムはシャドウクリッピングを示し、右側にスパイクのあるヒストグラムはハイライトクリッピングを示します。

プレビュー画像でどちらのピクセルがクリップされているかを確認するには、「シャドウ」または「ハイライト」を選択します。詳しくは、[ハイライトとシャドウのクリップの表示](#)を参照してください。

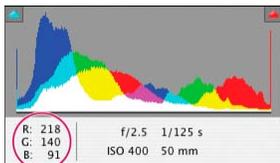
一般的な画像調整作業の 1 つに、ヒストグラムの一方に偏っているピクセル値を、ヒストグラムの左から右まで均等に分散させる作業があります。

ヒストグラムは、レッド、グリーンおよびブルーの各カラーチャンネルに対応する 3 つのレイヤーで構成されます。ホワイトは、3 つのチャンネルすべてが重なったときに表示されます。イエロー、マゼンタ、シアンは RGB チャンネルの 2 つが重なったときに表示されます（イエローはレッド + グリーン、マゼンタはレッド + ブルー、シアンはグリーン + ブルー）。

ヒストグラムは、Camera Raw ダイアログボックスの設定を調整すると自動的に変更されます。

ヒストグラムの下には、プレビュー画像でポインターがある位置のピクセルの RGB 値が表示されます。

注意： カラーサンプラーツール  を選択して、プレビュー画像にカラーサンプラーを最大 9 つ配置することもできます。この RGB 値はプレビュー画像の上に表示されます。カラーサンプラーを取り除くには、カラーサンプラーを Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらクリックします。カラーサンプラーをクリアするには、「サンプラーを消去」をクリックします。



Camera Raw ダイアログボックスには、ポインター位置のピクセルの RGB 値が表示されます。

ハイライトおよびシャドウのクリップの表示

[トップへ戻る](#)

画像内に、その画像で表現できるピクセルの最大値よりも大きい、または最小値よりも小さいカラー値を持ったピクセルがあると、そのピクセルでクリッピングが発生します。明るすぎる値はクリッピングされて白の出力となり、暗すぎる値はクリッピングされて黒の出力となります。その結果、画像のディテールが失われます。

- プレビュー画像で、クリッピングされたピクセルを他の部分と共に表示するには、ヒストグラムの上にある「シャドウクリッピング警告」または「ハイライトクリッピング警告」を選択します。または、U キーを押してシャドウクリッピング、O キーを押してハイライトクリッピングを表示することもできます。
- クリッピングされたピクセルのみを表示するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押したまま露光量スライダー、白とび軽減スライダーまたは黒レベルスライダーをドラッグします。

露光量スライダーおよび白とび軽減スライダーの場合、画像はブラックになり、クリップされた領域はホワイトで表示されます。黒レベルスライダーの場合、画像はホワイトになり、クリップされた領域はブラックで表示されます。カラーの領域は、1 つのカラーチャンネル（レッド、グリーン、ブルー）または 2 つのカラーチャンネル（シアン、マゼンタ、イエロー）でのクリッピングを示します。

注意： 場合によっては、作業しているカラースペースの色域が狭過ぎるためにクリッピングが発生することもあります。クリッピングが発生した場合は、色域が広い ProPhoto RGB などのカラースペースで作業することを検討してください。

[トップへ戻る](#)

ホワイトバランスコントロール

ホワイトバランスを調整するには、画像内で中間色（ホワイトまたはグレー）にするものを判断し、それらが中間色に見えるように画像内の色を調整します。実際にはホワイトまたはグレーに見えるものも、環境光またはフラッシュによって色かぶりすることがあります。ホワイトバランスツール  を使用してホワイトまたはグレーのものを指定すると、その写真が撮影されたときの光の色が自動的に判断され、色が調整されます。

撮影時の光の測定には色温度（ケルビン単位）が使用されます。自然光源と白熱光源から放たれる光の分布は色温度によって予測可能です。

デジタルカメラでは、露光時のホワイトバランスがメタデータエントリとして記録されます。この値が Camera Raw プラグインによって読み取られ、Camera Raw ダイアログボックスでファイルを開くときの初期設定になります。通常、この設定で正しい色温度、またはそれに近い色温度になります。ホワイトバランスが適切ではない場合は調整することもできます。

注意： すべての色かぶりが不適切なホワイトバランスによって生じるわけではありません。ホワイトバランスを調整した後に残る色かぶりは、DNG プロファイルエディターを使用して補正します。[Camera Raw でのカメラに合わせたカラーレンダリングの調整](#)を参照してください。

Camera Raw ダイアログボックスの「基本補正」タブには、画像内の色かぶりを修正するためのコントロールが 3 つあります。

ホワイトバランス このホワイトバランス設定が適用され、ホワイトバランス設定に応じて「基本補正」タブの色温度プロパティおよび色かぶり補正プロパティが変更されます。これらのコントロールを使用してカラーバランスを微調整します。

撮影時の設定 カメラのホワイトバランス設定を使用します（使用できる場合）。

自動 画像データに基づいてホワイトバランスを計算します。

また、Camera Raw ファイルと DNG ファイルには、晴天、曇天、白熱灯、蛍光灯およびフラッシュの各ホワイトバランス設定があります。

注意： カメラのホワイトバランス設定が認識されない場合は、「撮影時の設定」を選択することは「自動」を選択することと同じになります。

色温度 ホワイトバランスをカスタム色温度に設定します。色温度を下げると、低い色温度の照明の下で撮影された写真を補正できます。画像の色の青みが強くなり、環境光の色温度の低さ（黄色みの強さ）が補正されます。逆に色温度を上げると、高い色温度の照明の下で撮影された写真を補正できます。画像の色が暖色系寄りになり（黄色みが強くなり）、環境光の色温度の高さ（青みの強さ）が補正されます。

注意： TIFF 画像や JPEG 画像を調整するときは、色温度コントロールおよび色かぶり補正コントロールの範囲と単位が異なります。例えば、Camera Raw には、2,000 ~ 50,000 ケルビンの範囲で使用できる RAW ファイル用の色温度調整スライダーがあります。JPEG ファイルまたは TIFF ファイルに対しては、異なる色温度やホワイトバランスを近似的に適用することを試みます。既に元の値を使用してファイルのピクセルデータが変更されているため、Camera Raw で本来のケルビン温度スケールを求めることはできません。この場合、温度スケールではなく、-100 ~ 100 の範囲の近似スケールが使用されます。



ホワイトバランスの補正

A. 色温度スライダーを右に移動して、より高い色温度の照明の下で撮影されたように補正 B. 色温度スライダーを左に移動して、より低い色温度の照明の下で撮影されたように補正 C. 色温度調整後の写真

色かぶり補正 ホワイトバランスを設定して、グリーンまたはマゼンタの色合いを補正します。色かぶり補正の値を上げると画像のグリーンが強まり、色かぶり補正の値を下げるとマゼンタが強まります。

ホワイトバランスの調整を簡単に行うには、ホワイトバランスツールを選択してから、グレーまたはホワイトの中間色にするプレビュー画像の領域をクリックします。選択した色が正確な中間色になるように、色温度プロパティおよび色かぶり補正プロパティが調整されます（可能な場

合)。ホワイトをクリックする場合は、反射光のハイライトではなく、大量のホワイトディテールを含むハイライト領域を選択します。ホワイトバランスツールをダブルクリックすると、ホワイトバランスが「撮影時の設定」にリセットされます

[トップへ戻る](#)

トーンの調整

画像のトーンスケールを調整するには、「基本補正」タブのトーンコントロールを使用します。

「基本補正」タブのトーンコントロールセクションの上にある「自動」をクリックすると、Camera Raw 画像が分析され、トーンコントロールが自動的に調整されます。

各トーンコントロールに自動設定を個別に適用することもできます。露光量、コントラストなどの各トーンコントロールに自動調整を適用するには、Shift キーを押しながらスライダーをダブルクリックします。各トーンコントロールを元の値に戻すには、スライダーをダブルクリックします。

トーンを自動調整すると、他のタブで行った調整（「トーンカーブ」タブでのトーンの微調整など）は無視されます。このため、自動トーン調整を使用する場合は最初に適用し、最適に近い画像設定にしておきます。意図的に露出を変えて撮影した場合は、自動トーン調整を適用すると、本来意図した効果が打ち消されることがあります。行った調整が好ましくなかった場合は、いつでも「自動」をクリックして調整を取り消して試みることができます。

Adobe® Bridge のプレビューには初期設定の画像設定が使用されます。初期設定の画像設定に自動トーン調整を含める場合は、Camera Raw 環境設定の「初期設定の画像用の設定」セクションで「自動トーン調整を適用する」を選択します。

注意： Adobe Bridge のプレビューを使用して画像の比較作業を行いたい場合は、初期設定どおり、「自動トーン調整を適用する」の選択を解除しておきます。それ以外の場合は、調整済みの画像どうしを比較することになります。

調整中は、ヒストグラムの終点に注意します。または、シャドウおよびハイライトクリッピングプレビューを使用します。

Alt キー (Windows) または Option キー (Mac OS) を押したままトーンコントロールスライダーを動かすと、ハイライトまたはシャドウがクリップされたプレビューが表示されます。クリッピングが始まるまでスライダーを動かしてから、わずかにスライダーを戻してください（詳しくは、[ハイライトとシャドウのクリップの表示](#)を参照してください）。

- トーンコントロールを手動で調整するには、スライダーをドラッグするか、ボックスに数字を入力するか、ボックス内の値を選択して上向きまたは下向き矢印キーを押します。
- 値を初期設定にリセットするには、スライダーコントロールをダブルクリックします。

注意： 基本補正パネルに表示されるトーンコントロールは、以下に示すようにプロセスバージョン (PV2012、PV2010、PV2003) によって異なります。

露光量 (すべての PV) 全体的な画像の明るさを調整します。写真が適切に表示され、画像が目的の明るさになるまで、スライダーを調整します。露光量値の目盛は、カメラの F 値 (F-Stop) の目盛に等しくなっています。+1.00 調整すると、F 値を 1 広げた場合と同様の結果になります。同様に、-1.00 調整すると、F 値を 1 絞った場合と同様の結果になります。

コントラスト (すべての PV) 画像のコントラストを増減します。主に中間調の部分に影響します。コントラストを上げると、明るさが中間より暗い部分はより暗くなり、明るさが中間より明るい部分はより明るくなります。コントラストを下げると、画像のトーンは逆の影響を受けます。

ハイライト (PV2012) 画像の明るい領域を調整します。左にドラッグするとハイライトが暗くなり、「白とびした」ハイライト部のディテールが再現されます。右にドラッグすると、ハイライトが明るくなるとともにクリッピング量が最小限になります。

シャドウ (PV2012) 画像の暗い領域を調整します。左にドラッグすると、シャドウが暗くなるとともにクリッピング量が最小限になります。右にドラッグするとシャドウが明るくなり、シャドウ部のディテールが再現されます。

白レベル (PV2012) 白レベルを調整します。左にドラッグすると、ハイライトのクリッピング量が減少します。右にドラッグすると、ハイライトのクリッピング量が増加します（大きなクリッピング量は、金属表面などのスペキュラハイライトに適しています）。

黒レベル (PV2012) 黒レベルを調整します。左にドラッグすると、ブラックのクリッピング量が増加します（より多くのシャドウを純粋のブラックに割り当てます）。右にドラッグすると、シャドウのクリッピング量が減少します。

黒レベル (PV2010 および PV2003) 画像内のどの値をブラックとして出力するかを指定します。スライダーを右に移動するほどブラックの領域が広がり、場合によっては、画像のコントラストを上げるのと同じ効果が得られます。最も影響が大きいのはシャドウの部分で、中間調やハイライトの部分の変化はわずかです。

白とび軽減 (PV2010 および PV2003) ハイライトからディテールの復元を試みます。1 つまたは 2 つのカラーチャンネルがクリップされて白とびした領域に、ある程度のディテールを復元できます。

補助光効果 (PV2010 および PV2003) ブラック部分を明るくせずに、シャドウからディテールの復元を試みます。1 つまたは 2 つのカラーチャンネルがクリップされて黒くつぶれた領域に、ある程度のディテールを復元できます。補助光効果を使用すると、Photoshop® のシャドウ/ハイライトフィルターや After Effects® のシャドウ/ハイライトエフェクトの、シャドウ部分を使用する場合と似た効果が得られます。

明るさ (PV2010 および PV2003) 露光量プロパティと同様に、画像の明るさまたは暗さを調整します。ただし、ハイライトまたはシャドウで画像がクリップされるのではなく、スライダーを右に移動するとハイライトが圧縮されシャドウが拡大されます。最初に露光量、白とび軽減および黒レベルを設定して全体的なトーンスケールを設定し、次に明るさを設定するのが、一般にこのコントロールの最適な使用方法です。明るさを大幅に調整するとシャドウまたはハイライトクリッピングに影響するため、明るさを調整した後に露光量、白とび軽減または黒レベルプロパティの

再調整が必要になる場合があります。

詳細： Matt Kloskowski 氏のビデオチュートリアル「[Camera Raw の新機能](#)」（英語）を参照してください。

トーンカーブの微調整

[トップへ戻る](#)

「基本補正」タブでトーンを調整した後に画像を微調整するには、「トーンカーブ」タブのコントロールを使用します。トーンカーブは、画像のトーンスケールに加えられた変更を表しています。横軸は元のトーン値（入力値）を表します。左端がブラックを表し、右に行くほど明るい値になります。縦軸は変更されたトーン値（出力値）を表します。一番下がブラックを表し、上にいくほどホワイトに近づきます。

曲線上の1点を上に移動すると、出力がより明るいトーンになります。下に移動すると、出力がより暗いトーンになります。45度の直線は、トーン応答曲線に変化がなく、元の入力値と出力値がまったく同じであることを示します。

特定の色調範囲の値を調整するには、ネスト化された「パラメトリック」タブのトーンカーブを使用します。領域プロパティ（ハイライト、ライト、ダークまたはシャドウ）によって曲線のどの領域が影響を受けるかは、グラフの下にある分割コントロールをどこに設定するか依存します。中間領域プロパティ（ダークおよびライト）は、主に曲線の中央付近に影響します。ハイライトおよびシャドウプロパティは、主に色調範囲の両端付近に影響します。

- トーンカーブを調整するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ネスト化された「パラメトリック」タブのハイライトスライダー、ライトスライダー、ダークスライダーまたはシャドウスライダーをドラッグします。スライダーによって影響を受ける曲線領域を拡大または縮小するには、グラフの横軸に沿って領域境界線コントロールをドラッグします。
 - ネスト化された「ポイント」タブで曲線上の1点をドラッグします。点をドラッグすると、トーンカーブの下に入力および出力色調値が表示されます。
 - ネスト化された「ポイント」タブのポイントカーブメニューからいずれかのオプションを選択します。選択した設定は「ポイント」タブには反映されますが、「パラメトリック」タブの設定には反映されません。「コントラスト（中）」が初期設定です。
 - ツールバーで、パラメトリックカーブターゲット調整ツール  を選択し、画像内をドラッグします。パラメトリックカーブターゲット調整ツールでは、画像内をクリックした場所の値に基づいて、ハイライト、ライト、ダーク、シャドウの曲線領域を調整できます。

注意： ポイントカーブはターゲット調整ツールでは変化しません。

明瞭度、自然な彩度および彩度コントロール

[トップへ戻る](#)

「基本補正」タブの明瞭度、自然な彩度および彩度の各コントロールを使用することにより、すべてのカラーの彩度を変更できます（特定範囲のカラーの彩度を調整するには、「HSL / グレースケール」タブのコントロールを使用します）。

明瞭度 ローカルコントラストを上げることで画像の深度を増加させます。中間調に大きな影響を与えます。この設定は、広範囲のアンシャープマスクに似ています。この設定を使用する場合は、倍率を100%以上に設定することをお勧めします。効果を最大に引き出すには、画像のエッジのディテール付近にハローが現れるまで設定を上げ、その後で設定を少し下げます。

自然な彩度 すべてのカラーの彩度が最大値に近づくにつれてクリッピングが最小化されるように、彩度を調整します。この設定は、彩度が高いカラーへの影響を抑えながら、彩度が低いすべてのカラーの彩度を変更します。自然な彩度を使用すると、肌の色の彩度が過度に上がるのを抑えることもできます。

彩度 すべての画像カラーの彩度を、-100（モノクロ）～+100（彩度2倍）の範囲で均等に調整します。

HSL / グレースケールコントロール

[トップへ戻る](#)

「HSL / グレースケール」タブのコントロールを使用して、個々のカラー範囲を調整できます。例えば、赤い物が不自然に鮮やかに見える場合は、ネスト化された「彩度」タブのレッド値を減らします。

次のネスト化されたタブには、特定のカラー範囲のカラーコンポーネントを調整するコントロールがあります。

色相 カラーを変更します。例えば、青い空（とその他のすべての青い物）をシアンから紫に変更できます。

彩度 カラーの鮮明さまたは色の純度を変更します。例えば、青空をグレーから彩度の高い青に変更できます。

輝度 そのカラー範囲の明るさを変更します。

「グレースケール」を選択すると、ネスト化されたタブが1つのみ表示されます。

グレースケールミックス このタブのコントロールを使用すると、グレースケールバージョンの画像に対する各カラー範囲の寄与度を指定できます。

ターゲット調整ツールによるトーンまたは色の調整

[トップへ戻る](#)

ターゲット調整ツールを使用すると、写真上を直接ドラッグすることで、トーンと色を補正できます。例えば、ターゲット調整ツールで青空を下にドラッグすることで彩度を下げたり、赤いジャケットを上をドラッグすることで色相を強めたりできます。

1. ターゲット調整ツール  で色を調整するには、ツールバーでこのツールをクリックし、実行する調整の種類を、色相、彩度、輝度またはグレースケールミックスから選択します。次に画像内をドラッグします。

上または右にドラッグすると値が大きくなり、下または左にドラッグすると小さくなります。ターゲット調整ツールのドラッグによる調整では、複数の色に対応するスライダーが変化することがあります。グレースケールミックスターゲット調整ツールを選択した場合は、画像がグレースケールに変換されます。

2. トーンカーブの調整をターゲット調整ツール  で行うには、ツールバーでこのツールをクリックし、「パラメトリックカーブ」を選択します。次に画像内をドラッグします。

パラメトリックカーブターゲット調整ツールでは、画像内をクリックした場所の値に基づいて、ハイライト、ライト、ダーク、シャドウの曲線領域を調整できます。

ショートカットキーの T を押すと、最近使用したターゲット調整ツールに切り替えることができます。

グレースケール画像のトーン調整

[トップへ戻る](#)

「明暗別色補正」タブのコントロールを使用すると、グレースケール画像に着色できます。色調範囲全体に 1 つのカラーを追加し、例えばセピア色の外観にすることや、シャドウとハイライトに別のカラーを適用して明暗別色補正効果を作成することができます。極端なシャドウとハイライトはブラックおよびホワイトのままです。

カラー画像に特殊処理を適用し、例えばクロスプロセスを行ったような画像にすることもできます。

1. グレースケール画像を選択します（「HSL / グレースケール」タブで「グレースケール」を選択してグレースケールに変換した画像も、選択できます）。
2. 「明暗別色補正」タブで、ハイライトとシャドウの色相および彩度プロパティを調整します。色相ではトーンの色を設定し、彩度では結果の強弱を設定します。
3. ハイライトコントロールとシャドウコントロールのバランスを調整するため、バランスコントロールを調整します。正の値を入力するとハイライトコントロールの影響が増し、負の値を入力するとシャドウコントロールの影響が増します。

Camera Raw での HDR 画像の編集

[トップへ戻る](#)

Camera Raw 7.1 以降では、16-bit、24-bit、32-bit 浮動小数点画像を取り扱うことができます。このような画像は、ハイダイナミックレンジ（HDR）画像とも呼ばれます。Camera Raw で TIFF および DNG 形式の HDR 画像を開くことができます。画像のプロセスバージョンが 2012 であることを確認してください（プロセスバージョンを参照）。

HDR 画像を編集するには、「基本補正」タブのコントロールを使用します。HDR 画像の編集時は、「基本補正」タブの露光量コントロールの選択範囲が広がります（+10 ~ -10）。

編集後、画像を Photoshop で開くには、「完了」または「画像を開く」をクリックします。画像はワークフローオプションの設定に従い、16-bit または 8-bit 画像で開きます。

Camera Raw で HDR 画像を開くには：

- Bridge の場合は、画像を選択し、ファイル / Camera Raw で開くを選択します。Mini Bridge の場合は、画像を右クリック（Mac の場合は Control キーを押しながらクリック）し、アプリケーションを指定して開く / Camera Raw を選択します。

HDR 画像について詳しくは、Photoshop ヘルプの[ハイダイナミックレンジ（HDR）画像](#)を参照してください。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Camera Raw での部分補正

部分補正について

Camera Raw の補正ブラシツールによる部分補正の適用

Camera Raw の段階フィルターツールによる部分補正の適用

部分補正プリセットの保存と適用

部分補正について

[トップへ戻る](#)

Camera Raw の各種画像調整タブのコントロールを使用すると、写真全体のカラーと色調を調整できます。写真の特定範囲に対する修正作業（覆い焼きや焼き込みなど）を行うには、Camera Raw の補正ブラシツール  と段階フィルターツール  を使用します。

補正ブラシツールでは、露光量、明るさ、明瞭度などの調整を、写真の特定範囲を「塗りつぶす」操作によって適用できます。

段階フィルターツールでは、写真内の特定領域全体にわたって、同じ種類の調整を段階的に適用できます。適用対象の範囲は、必要に応じて広くすることも、狭くすることもできます。

補正ブラシツールと段階フィルターツールの両方の部分補正を写真に適用できます。選択した複数の画像間で部分補正の設定を同期することや、よく使用する効果をすぐに再適用できるように部分補正プリセットを作成しておくこともできます。

Camera Raw の部分補正を適切に行うには、多少の試行錯誤が必要です。まずツールを選択し、ツールのオプションを指定してから、写真に補正を適用するというワークフローをお勧めします。そうすれば、戻って補正オプションを変更することや、新しい補正を適用することができます。

Camera Raw での他の調整と同じように、部分補正も元の写真には影響しません。調整によって元の写真が変更されることはありません。部分補正の内容は、Camera Raw 環境設定に応じて、XMP サイドカーファイルまたは Camera Raw データベース内に画像と共に保存されます。

Camera Raw の補正ブラシツールによる部分補正の適用

[トップへ戻る](#)

1. ツールバーから補正ブラシツール  を選択します（または K キーを押します）。

補正ブラシツールのオプションがヒストグラムの下に表示され、マスクモードが「新規」に設定されます。

2. 補正ブラシツールオプションで、調整の種類を選択し、効果のスライダーを必要に応じてドラッグします。

注意： 使用できる効果は、以下に示すようにプロセスバージョン（2012、2010、2003）によって異なります。写真を PV2012 に更新するには、画像プレビューの右下にある感嘆符のアイコンをクリックします。

色温度（PV2012） 画像の一部の領域の色温度を上下させて調整します。段階フィルターの色温度効果を使用すると、混光照明の下で撮影した画像を改善することができます。

色かぶり補正（PV2012） グリーンまたはマゼンタの色合いを補正します。

露光量（すべての PV） 全体的な画像の明るさを設定します。露光量を部分的に補正することで、従来の覆い焼きと焼き込みに似た効果が得られます。

ハイライト（PV2012） 画像内の露出過多のハイライト領域の詳細を再現します。

シャドウ（PV2012） 画像内の露出不足のシャドウ領域の詳細を再現します。

明るさ（PV2010 および PV2003） 画像の明るさを調整します。中間調に大きな影響を与えます。

コントラスト（すべての PV） 画像のコントラストを調整します。中間調に大きな影響を与えます。

彩度（すべての PV） カラーの鮮明さまたは色の純度を変更します。

明瞭度（すべての PV） 明瞭度の設定では、部分的なコントラストを上げることにより画像の深度を増加させます。

シャープ（すべての PV） 写真のエッジを強調して詳細を鮮明にします。負の値を指定すると細部が不鮮明になります。

ノイズ軽減（PV2012） シャドウ領域に発生しやすい輝度ノイズを軽減します。

モアレ軽減（PV2012） モアレアーチファクト、つまりカラーエイリアシングを除去します。

フリンジ軽減 (PV2012) エッジのカラーフリンジが除去されます。部分的なカラーフリンジの除去を参照してください。

カラー (すべての PV) 選択した領域に色かぶりを適用します。効果名の右のカラーサンプルボックスをクリックしてカラーを選択します。

プラスアイコン (+) またはマイナスアイコン (-) をクリックすると、設定済みの単位で効果が増加または低下します。クリックを繰り返すと、より強い調整が選択されます。スライダーをダブルクリックすると、効果がゼロにリセットされます。

3. 次のブラシオプションを指定します。

サイズ ブラシ先端の直径をピクセル数で指定します。

ぼかし ブラシストロークの硬さを指定します。

流量 調整を適用する速さを指定します。

密度 ストロークに含まれる透明部分の量を指定します。

自動マスク ブラシストロークを似た色の領域内だけに限定します。

マスクを表示 画像プレビュー内のマスクオーバーレイ表示をオンまたはオフにします。

4. 補正ブラシツールを画像上で動かします。

適用ポイントが十字カーソルで示されます。実線で表示された円は、ブラシサイズを示します。黒と白の破線で表示された円は、ぼかしの量を示します。

注意: 「ぼかし」の設定が 0 の場合、黒と白の円はブラシサイズを示します。ぼかしの量が非常に小さい場合は、実線で表示された円が見えないことがあります。

5. 調整を行う画像内の領域を、補正ブラシツールで塗ります。

マウスを放すと、ピンアイコン  が適用ポイントに表示されます。補正ブラシオプションで、マスクモードを「追加」に変更します。

6. (オプション) 次のいずれかの操作を行って、フィルターを微調整します。

- 画像内での効果をカスタマイズするには、補正ブラシオプションのいずれかの効果のスライダーをドラッグします。

- ピンアイコンを非表示にするには、V キーを押します。

- マスクオーバーレイの表示と非表示を切り替えるには、「マスクを表示」オプションを使用するか、Y キーを押すか、ポインターをピンアイコンに重ねます。

マスクオーバーレイの色をカスタマイズするには、「マスクを表示」オプションの横にあるカラーウォッチをクリックします。次に、カラーピッカーから新しい色を選択します。

- 調整を部分的に取り消すには、補正ブラシオプションでマスクモードの「消去」をクリックし、補正した箇所を塗ります。

現在の補正ブラシツールから様々な特性の消しゴムブラシを作成するには、部分補正の設定メニューボタン  をクリックし、「消去のサイズを分ける」を選択します。次に、消しゴムのサイズ、ぼかし、流量、密度を指定します。

- 調整を完全に削除するには、ピンを選択して Delete キーを押します。

- 最後の調整を元に戻すには、Ctrl + Z キー (Windows)、または Command + Z キー (Mac OS) を押します。

- 補正ブラシツールのすべての調整を削除してマスクモードを「新規」に設定するには、補正ブラシオプションの下部にある「すべて消去」をクリックします。

7. (オプション) マスクモードの「新規」をクリックして、補正ブラシツールで別の調整を適用し、手順 6 のテクニックを使用して必要な微調整を行います。

注意: 補正ブラシツールで複数箇所の調整についての作業を行う場合は、マスクモードの「追加」をクリックしてそれらの間を切り替えます。ピンアイコンをクリックして調整箇所を選択し、微調整を行います。

Camera Raw の段階フィルターツールによる部分補正の適用

[トップへ戻る](#)

1. ツールバーから段階フィルターツール  を選択します (または G キーを押します)。

段階フィルターツールのオプションがヒストグラムの下に表示され、マスクモードが「新規」に設定されます。

2. 段階フィルターオプションで行う調整の種類を選択し、次のいずれかの効果のスライダーをドラッグします。

注意: 使用できる効果は、以下に示すようにプロセスバージョン (2012、2010、2003) によって異なります。写真を PV2012 に更新するには、画像プレビューの右下にある感嘆符のアイコンをクリックします。

色温度 (PV2012) 画像の一部の領域の色温度を上下させて調整します。段階フィルターの色温度効果を使用すると、混光照明の下で撮影した画像を改善することができます。

色かぶり補正 (PV2012) グリーンまたはマゼンタの色合いを補正します。

露光量 (すべての PV) 全体的な画像の明るさを設定します。露光量に段階フィルターを適用することで、従来の覆い焼きと焼き込みに似た効果が得られます。

ハイライト (PV2012) 画像内の露出過多のハイライト領域の詳細を再現します。

シャドウ (PV2012) 画像内の露出不足のシャドウ領域の詳細を再現します。

明るさ (PV2010 および PV2003) 画像の明るさを調整します。中間調に大きな影響を与えます。

コントラスト (すべての PV) 画像のコントラストを調整します。中間調に大きな影響を与えます。

彩度 (すべての PV) カラーの鮮明さまたは色の純度を変更します。

明瞭度 (すべての PV) 明瞭度の設定では、部分的なコントラストを上げることにより画像の深度を増加させます。

シャープネス (すべての PV) 写真のエッジを強調して詳細を鮮明にします。負の値を指定すると細部が不鮮明になります。

ノイズ軽減 (PV2012) シャドウ領域に発生しやすい輝度ノイズを軽減します。

モアレ軽減 (PV2012) モアレアーチファクト、つまりカラーエイリアシングを除去します。

フリンジ軽減 (PV 2012) エッジのカラーフリンジが除去されます。部分的なカラーフリンジの除去を参照してください。

カラー (すべての PV) 選択した領域に色かぶりを適用します。効果名の右のカラーサンプルボックスをクリックしてカラーを選択します。

プラスアイコン (+) またはマイナスアイコン (-) をクリックすると、設定済みの単位で効果が増加または低下します。スライダーをダブルクリックすると、効果がゼロにリセットされます。

3. 写真内をドラッグして、効果の範囲や向きを指定するグラデーションを作成します。

フィルターは赤のドットおよび赤の破線から開始し、緑のドットおよび緑の破線まで適用されます。

段階フィルターオプションで、マスクモードが「編集」に切り替わります。

4. (オプション) 次のいずれかの操作を行って、フィルターを微調整します。

- フィルターをカスタマイズするには、段階フィルターオプションのいずれかの効果のスライダーをドラッグします。
- ガイドオーバーレイの表示と非表示を切り替えるには、「オーバーレイを表示」オプションをクリックします (または V キーを押します)。
- 緑のドットまたは赤のドットをドラッグすると、効果の範囲を自由に拡大、縮小および回転できます。
- 効果をシフトするには、白黒の破線をドラッグします。
- 緑と白の破線または赤と白の破線上で、緑のドットまたは赤のドットに近い位置にポインターを置き、両方向の矢印を表示します。次に、効果をドラッグして範囲を拡大または縮小し、範囲の終了点を指定します。
- 緑と白の破線または赤と白の破線上で、緑のドットまたは赤のドットから遠い位置にポインターを置き、カーブした両方向の矢印を表示します。次に、ドラッグして効果を回転させます。
- フィルターを削除するには、Delete キーを押します。
- 最後の調整を元に戻すには、Ctrl + Z キー (Windows)、または Command + Z キー (Mac OS) を押します。
- 段階フィルターツールのすべての調整を削除してマスクモードを「新規」に設定するには、段階フィルターオプションの下部にある「すべて消去」をクリックします。

5. (オプション) マスクモードの「新規」をクリックして段階フィルターツールで別の効果を作成し、手順 4 のテクニックを使用して必要な微調整を行います。

注意: 段階フィルターツールの複数の効果を使用する場合は、緑のドットまたは赤のドットをクリックして各効果を選択し、微調整を行います。

部分補正プリセットの保存と適用

[トップへ戻る](#)

部分補正をプリセットとして保存すると、同じ効果を他の画像にすばやく適用できます。部分補正プリセットの作成、選択および管理には、補正

ブラシツールまたは段階フィルターツールのオプションで、Camera Raw 設定メニュー  を使用します。部分補正プリセットの適用には、補正ブラシツール  または段階フィルターツール  を使用します。

注意： 部分補正は、Camera Raw 画像プリセットを使用して保存できません。

- Camera Raw ダイアログボックスの、補正ブラシツールまたは段階フィルターツールのオプションで、Camera Raw 設定メニューボタン  をクリックします。その後、次のいずれかのコマンドを実行します。

新規部分補正設定 現在の部分補正効果の設定をプリセットとして保存します。名前を入力して、「OK」をクリックします。保存したプリセットは部分補正の設定メニューに表示され、Camera Raw で開く任意の画像に適用できます。

削除 "プリセット名" 選択した部分補正プリセットを削除します。

名前の変更 "プリセット名" 選択した部分補正プリセットの名前を変更します。名前を入力して、「OK」をクリックします。

プリセット名 補正ブラシツールまたは段階フィルターツールで、適用するプリセットとその設定を選択します。

セグメントを編集する際は、以下の点に注意してください。

- 一度に複数の部分補正プリセットを選択することはできません。
- 補正ブラシツールで部分補正プリセットを適用する際には、ブラシのサイズ、ぼかし、流量、密度など、ブラシの各種オプションをカスタマイズすることもできます。プリセットに設定した効果が、指定のブラシサイズに合わせて適用されます。
- 部分補正プリセットは、適用後にも微調整できます。
- 指定できる効果設定項目は、補正ブラシツールでも段階フィルターツールでも同じです。したがって、部分補正プリセット作成時にどちらのツールを使用したかに関係なく、どちらのツールにもプリセットを適用できます。

ビデオチュートリアル

- [Camera Raw 7 の新機能](#)

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Camera Raw での画像の回転、トリミング、およびレタッチ

画像の回転
画像の角度補正
画像の切り抜き
赤目修正
スポット削除

画像の回転

[トップへ戻る](#)

- 画像を 90° 回転（反時計回り）ボタン  をクリックします（または L キーを押します）。
- 画像を 90° 回転（時計回り）ボタン  をクリックします（または R キーを押します）。

注意： 編集メニューのコマンドを使用して、Camera Raw ダイアログボックスを開かずに Adobe Bridge で画像を回転することもできます。

画像の角度補正

[トップへ戻る](#)

1. Camera Raw ダイアログボックスで、角度補正ツール  を選択します（または A キーを押します）。
2. プレビュー画像内で角度補正ツールをドラッグして、水平方向または垂直方向を設定します。

注意： 角度補正ツールを使用すると、直後に切り抜きツールがアクティブになります。

画像の切り抜き

[トップへ戻る](#)

1. Camera Raw ダイアログボックスで、切り抜きツール  を選択します（または C キーを押します）。

最初の切り抜き領域を特定の縦横比に制限するには、切り抜きツール  上でマウスボタンを押したままにし、メニューからオプションを選択します。以前に適用した切り抜きに制限を適用するには、切り抜きを Ctrl キーを押しながらクリック（Mac OS）するかまたは右クリック（Windows）します。

2. プレビュー画像内でドラッグして切り抜き領域ボックスを描きます。
3. 切り抜き領域を移動、拡大 / 縮小または回転するには、切り抜き領域またはそのハンドルをドラッグします。
注意： 切り抜き操作をキャンセルするには、切り抜きツールがアクティブな状態で Esc キーを押すか、切り抜きツールボタンを押したままメニューから「切り抜きを消去」を選択します。切り抜きをキャンセルし、Camera Raw 画像ファイルを処理せずに Camera Raw ダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」ボタンをクリックするか、切り抜きツールの選択を解除して Esc キーを押します。
4. 切り抜き方法が決定したら、Enter キー（Windows）または Return キー（Mac OS）を押します。

切り抜き済み画像の表示サイズが変更されてプレビュー領域全体に表示され、プレビュー領域の下部にあるワークフローオプションリンクに、切り抜き後の画像サイズが表示されます。

赤目修正

[トップへ戻る](#)

1. 画像に 100 % でズームします。
2. ツールバーで、赤目修正ツール  を選択します（または E キーを押します）。
3. 写真の赤目周囲の選択領域をドラッグします。
瞳に合うように選択領域のサイズが調整されます。端をドラッグすると、選択領域のサイズを修正できます。
4. ヒストグラムの下ツールオプションで、瞳の大きさスライダーを右にドラッグし、修正対象の領域を広げます。
5. 選択領域内の瞳の領域と選択領域外の光彩の領域を暗くするには、暗くする量スライダーを右にドラッグします。

選択をオフにして修正をチェックするには、「オーバーレイを表示」の選択を解除します。

注意： 複数の赤目の選択領域間を移動するには、選択領域をクリックします。

スポット削除

[トップへ戻る](#)

string not required スポット除去ツール  を使用すると、画像の内の選択領域を、別の領域から作成したサンプルによって修正できます。

1. ツールバーからスポット除去ツール  を選択します。
2. 種類メニューで次のいずれかを選択します。
修復 サンプル領域のテクスチャ、照明および陰影を、選択した領域に適用します。
コピースタンプ サンプル画像領域を、選択した領域に適用します。
3. (オプション) ヒストグラムの下ツールオプションで、スポットサイズスライダーをドラッグし、スポット除去ツールを適用する領域のサイズを指定します。
4. ****string not required**** スポット除去ツールを写真に移動し、レタッチする写真の部分をクリックします。選択した領域の周囲に、赤と白の破線で円が表示されます。緑と白の破線で表示された円は、コピースタンプまたは修復に使用する写真のサンプル領域を示します。
5. 次のいずれかの操作を行います。
 - サンプル領域を指定するには、緑と白の円をドラッグして画像の別の領域に移動します。
 - コピースタンプまたは修復を行う対象の選択領域を指定するには、赤と白の円の内側をドラッグします。
 - 円のサイズを調整するには、両方向の矢印になるまでポインターをどちらかの円の端の外に移動してから、ドラッグして両方の円を大きくまたは小さくします。
 - 操作をキャンセルするには、Backspace キー (Windows) または Delete キー (Mac OS) を押します。

スポット修正が必要な画像の各領域にこの手順を繰り返します。すべてのサンプル領域を削除してやり直すには、ツールオプションの「すべてを消去」ボタンをクリックします。



Camera Raw における遠近法の自動補正 | Photoshop CC

レンズのゆがみによって歪曲したように見える幾何学的図形の補正

正しくないレンズを使用したり、カメラがぶれたりすると、写真の全体像が傾いたり、ゆがんだりします。遠近法が乱れることがあり、連続した縦線や幾何学図形を含む写真でとりわけ目立ちます。

Adobe Camera Raw には Upright モード、すなわち遠近法の自動補正に使用できる 4 つの設定が用意されています。手動で補正を適用する機能も引き続き利用できます。Upright モードを適用した後、利用可能なスライダーベースの設定を手動で変更して、さらに画像を調整できます。

注意： カメラとレンズの組み合わせに使用できるレンズ補正プロファイルがある場合は、4 つの新しいプリセットのいずれかを適用する前に、レンズ補正プロファイルを適用することをお勧めします。レンズ補正プロファイルを適用すると、画像のゆがみ補正の解析が向上します。

Upright プリセットによるレンズのゆがみの手動補正

[ページの先頭へ](#)

1. 次のいずれかの操作を行います。

- Camera Raw ファイルを開きます。または、
- Photoshop で画像を開いた状態で、フィルター / Camera Raw フィルターをクリックします。

2. Camera Raw ウィンドウで、「レンズ補正」タブに移動します。

3. (オプション) レンズ補正 / プロファイルタブで、「レンズプロファイル補正を有効にする」チェックボックスを選択します。

Upright プリセットで写真を処理する前に、カメラとレンズの組み合わせに基づいてレンズプロファイル補正を有効にすることを強くお勧めします。

4. レンズ補正 / 手動タブで、4 つの Upright モードを利用できます。写真に補正を適用するには、モードをクリックします。

自動 バランスの取れた遠近法の補正のセットを適用します。

水平 画像が水平になるように遠近法の補正を適用します。

垂直 遠近法の垂直の補正を適用します。

フル 画像に垂直、水平および自動の遠近法の補正を適用します。

警告： 4 つの *Upright* モードを試す際、「レンズプロファイル補正を有効にする」チェックボックス (レンズ補正 / プロファイル) をオンまたはオフにしたら、*Upright* プリセットボタンの下にある再分析リンクをクリックします。



Upright モードを選択し、スライダーを使用してさらに調整します。

5. 最適の設定が見つかるまで、Upright モードを切り替えます。

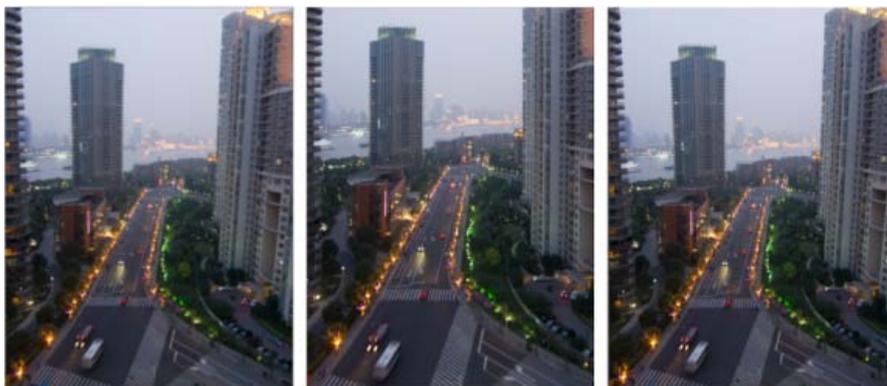
これらの 4 つの Upright モードでゆがみと遠近法のエラーを補正し、管理します。推奨または望ましい設定はありません。最適な設定は写真により異なります。写真に最適な Upright モードは、4 つの Upright モードを試してから決定してください。

6. 必要に応じて、変形スライダーを使用してさらに修正します。Camera Raw には、新しいスライダー（縦横比）が導入されています。

- 写真の水平方向の遠近補正を調整するには、縦横比スライダーを左に移動します。
- 写真の垂直方向の遠近補正を調整するには、縦横比スライダーを右に移動します。

サンプル画像

[ページの先頭へ](#)



補正していない画像（左）、自動補正した画像（中）、おおよびレベル補正した画像（右）



補正していない画像（左）、垂直方向を補正した画像（中）、およびフル補正した画像（右）

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Camera Raw の円形フィルター | Photoshop CC

写真の一部をハイライト、または特定の領域に部分補正を適用する

円形フィルターを適用した写真の画質調整

円形フィルターツール用のキーボードショートカットと修飾キー

写真を見る人の注意を集める方向を完全に制御するため、画像の被写体をハイライトします。周辺光量補正効果を生み出すフィルターで、この目的を果たすことができます。ただし、このようなフィルターでは、メインの被写体が写真の中央に位置する必要があります。

Adobe Camera Raw 8.0 の円形フィルターは、見る人に注目してほしい画像の特定の部分に注意を向けることができます。例えば、円形フィルターツールを使用して対象の周囲に楕円を描き、その内部領域の露光量と明瞭度を高めることで、対象に注目をより多く集めることができます。被写体は中央から外れていても、写真のどこにいてもかまいません。

円形フィルターで写真を修正する主なワークフローの概略を下記に示します。

1. Adobe Camera Raw のプラグインで写真を開きます。
2. 見る人の注意を引きたい被写体を 1 つ以上特定します。
3. 設定：
 - (オプション) 背景の焦点を弱める円形フィルター
 - 被写体をハイライトする円形フィルター
 - ハイライトする被写体が 1 つ以上ある場合に使用できる、追加の円形フィルター



元の写真では、写真の被写体がはっきり見えません（左）が、円形フィルターを使用してハイライトされています（右）

円形フィルターを適用した写真の画質調整

[ページの先頭へ](#)

1. 次のいずれかの操作を行います。
 - Camera Raw ファイルを開きます。または、
 - Photoshop で画像を開いた状態で、フィルター / Camera Raw フィルターをクリックします。
2. ツールバーから円形フィルターツールを選択します。
J キーを押して、円形フィルターツールを切り替えます。
3. 「新規」および「編集」ラジオボタンオプションを使用して、フィルターを作成するか、または既存のフィルターを編集するか選択します。
4. 次のいずれかの操作を行います。
 - 円形フィルターを作成するには、領域でマウスをクリックしてからドラッグし、円または楕円を描きます。この図形が、これから実行する変更の対象となる範囲または除外される範囲を決定します。
 - 円形フィルターを編集するには、写真の上にある任意の灰色のハンドルをクリックします。選択すると、ハンドルが赤に変わります。
5. 写真のどの範囲を修正するかを決定するには、（スライダーの下にある）効果オプションを選択します。
 - 外側：すべての修正は、選択した範囲の外側に適用されます。
 - 内側：すべての修正は、選択した範囲の内側に適用されます。
6. 追加した円形フィルターのサイズ（幅と高さ）および方向を調整します。フィルターを選択して、次の手順に従います。

- ・フィルターを移動して位置を変更するには、フィルターの中央をクリックし、ドラッグします。
- ・4つのフィルターハンドル（ハンドル）のいずれかにマウスポインターを合わせ、ポインターのアイコンが変化したら、クリック&ドラッグして、フィルターのサイズを変更します。
- ・フィルターの端の近くにマウスポインターを合わせ、ポインターのアイコンが変化したら、フィルターの端をクリック&ドラッグして、フィルターの方向を変更します。



円形フィルターは楕円形選択ツールで表示されます

7. スライダーを使用して、選択した円形フィルターの範囲を修正します。ぼかしスライダーで、適用される効果のフォールオフを調整します。



円形フィルターツールのオプションを使用すると、効果を楕円形のマスクに適用できます。

8. 手順 3 ~ 6 に従って、円形フィルターの追加または編集を続けます。
9. 完成した写真がどのように見えるか表示するには、「オーバーレイを表示」チェックボックスをオフにします。すべての円形フィルターを削除し、最初から始める場合は、すべて消去をクリックします（この操作は取り消しできません）。

新規補正

- Shift キーを押しながらドラッグして、円に制限された補正を作成します。
- ドラッグしながらスペースバーを押し続けると、楕円が移動します。スペースバーを離すと、新規補正の形状の定義が再開されます。

補正の編集

- 補正の中でドラッグして補正を移動しながら、Shift キーを押し続けると、動きが水平または垂直方向に制限されます。
- 補正のサイズを変更するために4つのハンドルのいずれかをドラッグしながら、Shift キーを押し続けると、補正形状の縦横比が保持されます。
- 補正の境界をドラッグして回転させながら、Shift キーを押し続けると、15度単位で回転するようになります。
- 補正を選択しながら、X キーを押すと、効果の方向（たとえば、外側から内側に）を反転できます。

補正の削除

- 補正を選択しながら、Delete キーを押すと、補正が削除されます。
- Option/Alt キーを押しながら既存の補正をクリックすると、削除されます。

最大適用度の補正

- Command/Control キーを押しながら空白部分をダブルクリックすると、中央に配置され、画像の切り抜き範囲をカバーする補正が作成されます。
- Command/Control キーを押しながら既存の補正の内側をダブルクリックすると、画像の切り抜き範囲をカバーする補正が拡大されます。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Camera Raw の拡張スポット除去ツール | Photoshop CC

修復ブラシツールのように機能するスポット除去ツールを使用して、写真のあらゆる不要な部分を除去する

スポット除去ツールの使用

スポットを可視化機能による写真のクリーンアップ

Camera Raw に搭載されたスポット除去ツールを使用すると、同じ画像の別の範囲からサンプリングすることにより、画像の選択範囲を修復できます。このツールは、Photoshop で利用できる修復ブラシツールと似ています。スポット除去ツールの初期設定のビヘイビアでは、写真上でブラシをドラッグして、タッチアップする範囲をマークできます。例えば、青空のじまになっているワイヤー部分（ヘルメットと頭上のワイヤーをつないでいる）を除去します。

未処理の画像でスポット除去ツールを使用すると、未処理の画像データを直接処理することになります。未処理の画像データを直接処理すると、リタッチ（修復またはクローニング）アクションで、よりクリーンな一致が得られます。また、カメラの未処理の画像の編集や修正はサイドカーファイルに保存されるため、この処理でファイルが損われることはありません。



ワイヤーとヘルメットをつないでいるように見えるジップライン（画像左）が除去されています（画像右）

スポット除去ツールの使用

[ページの先頭へ](#)

1. 次のいずれかの操作を行います。

- Camera Raw ファイルを開きます。または、
- Photoshop で画像を開いた状態で、フィルター／Camera Raw フィルターをクリックします。

2. ツールバーからスポット除去 ツール を選択します。

3. 種類メニューで次のいずれかを選択します。

修復 選択した領域に、サンプル領域のテクスチャ、照明および陰影を適用します。
クローン 選択した領域に、サンプル画像領域を適用します。

4. （オプション）ヒストグラムの下にあるスポット除去ツールのオプション領域で、サイズスライダーをドラッグし、スポット除去ツールを適用する領域のサイズを指定します。

ブラシサイズを変更するには、キーボードの括弧キーを使用します。

- 左括弧 (]) を使用すると、ツールの半径が小さくなります。
- 右括弧 ([) を使用すると、ツールの半径が大きくなります。

5. 写真内で、リタッチする部分をクリックしてドラッグします。

- 赤と白の選択ツールの領域（赤いハンドル）で選択範囲が指定されます。
- 緑と白の選択ツールの領域（緑色のハンドル）サンプル範囲が指定されます。



画像内で修復する部分を特定し、スポット除去ツールを使用して該当する範囲をペイントします。緑と赤のハンドル（画像右）を使用して、選択範囲とサンプル範囲の位置を変更します

6. (オプション) 初期設定で選択されているサンプル範囲を変更するには、次のいずれかの操作を行います。

- 自動：選択範囲のハンドルをクリックして、スラッシュキー (/) を押します。新しい範囲がサンプルされます。最適なサンプル範囲が見つかるまでスラッシュキーを押します。
- 手動：緑色のハンドルを使用して、サンプル範囲の位置を変更します。

長いストロークで画像の広い部分を選択した場合、適切なサンプル範囲の一致はすぐに見つかりません。さまざまなオプションを試すには、スラッシュ (/) をクリックすると、ツールでさらに多くの範囲を自動的にサンプルできます。

7. スポット除去ツールを使用して加えた調整をすべて削除するには、すべて消去をクリックします。

キーボードショートカットと修飾キー

丸いスポット：

- Control / Command キーを押しながらクリックして、丸いスポットを作成します。ドラッグしてスポットのソースを設定します。
- Control / Command + Option / Alt キーを押しながらクリックして、丸いスポットを作成します。ドラッグしてスポットのサイズを設定します。

長方形の選択：

- Option / Alt キーを押しながらドラッグして、長方形の選択範囲を定義します。マウスを離すと、選択範囲（赤でハイライト）内のすべてのスポットが削除されます。

選択範囲またはスポットの拡大：

- Shift キーを押しながらクリックすると、「ドットをつなぐ」方法で選択済みのスポットが拡大されます。

選択範囲またはスポットの削除：

- 赤色または緑色のハンドルを選択し、Delete キーを押すと、選択した調整が削除されます。
- Option / Alt キーを押してハンドルをクリックすると、削除されます。

スポットを可視化機能で写真をクリーンアップ

[ページの先頭へ](#)

コンピューターの画面での操作中に、ほとんどの目に見えるスポットや不具合を特定して除去できる場合があります。ただし、フル解像度で写真をプリントすると、コンピューターの画面では見えなかった多数の不具合がプリント出力に現れる場合があります。これらの不具合には、カメラセンサーに付いた埃、ポートレートで撮影したモデルの皮膚の傷、青空にたなびく遅い雲など、多数の種類があります。フル解像度では、これらの不具合は視覚的に目立ちます。

新しいスポットを可視化機能を使用すると、一目見ただけでは分かりづらいことのある不具合を探すことができます。「スポットを可視化」チェックボックス（スポット除去ツールのオプション）をオンにすると、画像が反転します。この状態でスポット除去ツールをスポットを可視化モードで使用でき、これにより画像をクリーンアップできます。



「スポットを可視化」チェックボックスはスポット除去ツールのオプションの1つです

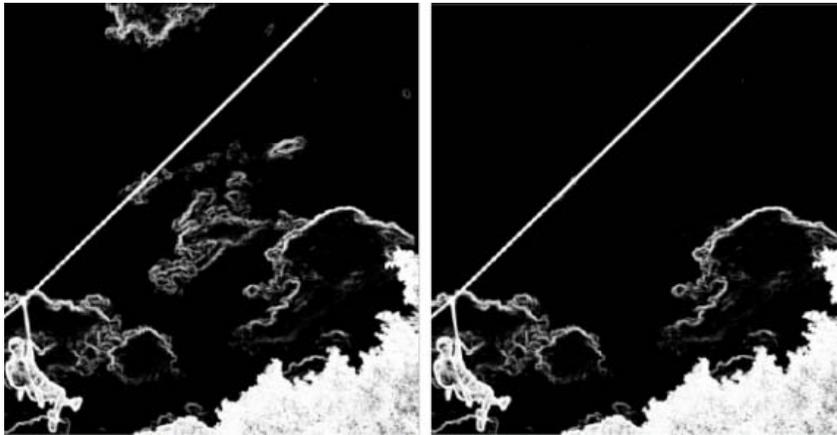
1. 次のいずれかの操作を行います。

- Camera Raw ファイルを開きます。または、
- Photoshop CC で画像を開いた状態で、フィルター／Camera Raw フィルターをクリックします。

2. ツールバーからスポット除去ツールを選択し、「スポットを可視化」チェックボックスをオンにします。

画像が反転し、画像の要素のアウトラインが表示されます。

下は、スポットを可視化表示がオンの状態で、たなびく雲などの不要な要素（左）が除去されています（右）



上は、スポットを可視化表示がオフの状態で、たなびく雲などの不要な要素（左）が除去されています（右）

3. スポットを可視化スライダーを使用して、反転画像のコントラストのしきい値を変更します。スライダーのコントラストレベルを変更して、センサーのダストやドット、またはその他の不要な要素などの不具合を表示します。

「スポットを可視化」チェックボックスがオンのとき、可視化しきい値を変更するには：

- 増：ピリオドを押します
- 増（大きい幅で）： Shift + ピリオドを押します
- 減：カンマを押します
- 減（大きい幅で）： Shift + カンマを押します

4. スポット除去ツールを使用して、写真に含まれる不要な要素をクローニングまたは修復します。「スポットを可視化」チェックボックスをオフにして、結果の画像を確認します。

5. 手順 2、3、4 を繰り返します。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Camera Raw でのシャープ量とノイズ軽減

写真のシャープ量 ノイズを軽減

写真のシャープ量

[トップへ戻る](#)

「ディテール」タブのシャープコントロールでは、画像のエッジの定義を調整できます。補正ブラシツールおよび段階フィルターツールを使って部分シャープを適用する場合、半径、ディテールおよびマスクの値が使用されます。

Camera Raw の「シャープの適用先」オプションを使用すると、シャープ調整をすべての画像に適用するかプレビューにのみ適用するかを指定できます。

Camera Raw 内から環境設定を開くには、ツールバーの環境設定ダイアログを開くボタンをクリックします。

1. プレビュー画像をズームして 100 %以上で表示します。
2. 「ディテール」タブで次のコントロールを調整します。

適用量 エッジの定義を調整します。適用量の値を上げるとシャープが増大します。値を 0 にするとシャープがオフになります。一般に、ノイズの少ない画像の場合は適用量を低めの値に設定します。この調整はアンシャープマスクの一種であり、指定したしきい値を基本にして周囲とはピクセルが異なる場所を検索し、そのピクセルのコントラストを指定した量だけ強くします。Camera Raw 画像ファイルを開くと、Camera Raw プラグインにより、使用するしきい値がカメラモデル、ISO、露光量補正を基にして計算されます。

半径 シャープを適用するディテールのサイズを調整します。ディテールが細かい写真では、通常、設定を低くする必要があります。ディテールが粗い写真では、大きい半径を使用できます。半径を大きくしすぎると、多くの場合、不自然な画像になります。

ディテール 画像でどれだけの高波長情報をシャープ調整するかや、シャープ調整プロセスでエッジをどれだけ強調するかを調整します。設定を低くすると、主にエッジがシャープになって画像ぶれが除去されます。値を高くすると、画像のテクスチャがより鮮明になります。

マスク エッジマスクを調整します。ゼロに設定すると、画像のすべてに同程度のシャープが適用されます。100 に設定すると、主に、最も強いエッジに近い領域にシャープが制限されます。Alt キー (Windows) または Option キー (Mac OS) を押しながらこのスライダーをドラッグすると、シャープになる領域 (白) とマスクされる領域 (黒) とが区別されて表示されます。

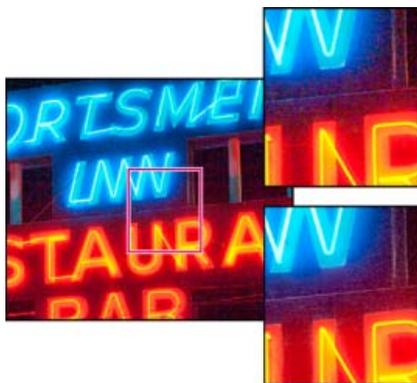
3. (オプション) 最新のシャープ処理アルゴリズムを画像に適用するには、画像プレビューの右下にある最新の処理 (2012) に更新ボタン  をクリックします。

ノイズを軽減

[トップへ戻る](#)

「ディテール」タブの「ノイズ軽減」セクションには、画像のノイズを軽減するためのコントロールがあります。画像のノイズには、画像の粒子を粗く見せる輝度 (グレースケール) ノイズと、画像内にカラーの斑点として表示される彩度 (カラー) ノイズがあります。高めの ISO 感度またはあまり精巧ではないデジタルカメラで撮影した写真には、かなりのノイズが入ることがあります。

注意： ノイズを軽減するための調整をするには、最初に 100 %以上の倍率でプレビュー画像を表示し、プレビューされるノイズ軽減を確認できるようにします。



カラー滑り台とカラーのディテール滑り台を調整すると、色の詳細 (右下) はそのまま、彩度ノイズが軽減されます。

注意：輝度のディテール、輝度のコントラストおよびカラーのディテールの各スライダーが淡色表示されている場合は、画像の右下にある最新の処理（2012）に更新ボタン  をクリックします。

輝度 輝度ノイズが軽減されます。

輝度のディテール 輝度ノイズのしきい値を指定します。ノイズの多い写真に便利です。値を上げるとディテールが保持されますが、ノイズが目立つ結果になることがあります。値を下げるとノイズは少なくなります、ディテールが失われます。

輝度のコントラスト 輝度のコントラストを指定します。ノイズの多い写真に便利です。値を上げるとコントラストが保持されますが、斑点やまだらな模様が目立つ結果になることがあります。値を下げると結果はスムーズになりますが、コントラストが失われる場合があります。

カラー カラーノイズが軽減されます。

カラーのディテール カラーノイズのしきい値を指定します。値を上げると幅の狭い詳細なカラーのエッジを保護できますが、カラーが斑点状になることがあります。値を下げるとカラーの斑点はなくなります、カラーがにじむことがあります。

Camera Raw でのノイズの軽減に関するビデオチュートリアルについては、次を参照してください。

- [Better noise reduction in Photoshop® CS5](#)（制作：Matt Kloskowski）
- [Lens correction and noise reduction with Adobe® Camera Raw](#)（制作：Russell Brown）
- [Photoshop CS5 - Camera Raw 6.0](#)（制作：Justin Seeley）

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Camera Raw でのレンズ収差補正

レンズ補正について

イメージの遠近とレンズの欠陥の自動補正

エキスパートから：

イメージの遠近とレンズの欠陥の手動補正

Camera Raw 7.1 での色収差の補正

レンズ補正について

[トップへ戻る](#)

カメラレンズは、レンズ焦点距離、F-Stop、焦点距離によって、それぞれ異なる問題が生じることがあります。明らかな変形や色収差を補正するには、Camera Raw ダイアログボックスの「レンズ補正」タブを使用します。

ビネットでは、画像の周辺部分、特に四隅が中心より暗くなります。ビネットを補正するには、「レンズ補正」タブの「周辺光量補正」セクションのコントロールを使用します。

樽型収差は、直線が外側に湾曲して見えます。

糸巻き型収差は、直線が内側に湾曲して見えます。

色収差は、色の違いによりレンズの焦点の位置がずれる現象です。色収差によって起こる問題の1つに、光の各色からの画像は焦点が合っても、各画像のサイズが少しずつ変わってしまうという現象があります。光が水や磨かれた金属に反射した場合などにも、色の副作用が反射光のハイライトのエッジに影響します。この状況では、反射光の各ハイライトの周囲に紫のフリッジが現れます。



オリジナル（上）、色収差の補正後（下）

イメージの遠近とレンズの欠陥の自動補正

[トップへ戻る](#)

Camera Raw ダイアログボックスの「レンズ補正」タブ内にある「プロファイル」タブのオプションを使用して、一般的なカメラレンズのゆがみを補正します。プロファイルは写真を撮影したカメラとレンズを識別する Exif メタデータに基づき、補正もそれに応じて行われます。

エキスパートから：

[トップへ戻る](#)

Russell Brown 氏が、Camera Raw 6 でレンズ補正とノイズ軽減を適用する方法を実演しています (05:55)。 [さらに詳しく](#)

http://av.adobe.com/russellbrown/ACRWhatsNew_...



(執筆：Russell Brown)

[Adobe Community Help にフィードバックを投稿する](#)

1. 「レンズ補正」タブ内にある「プロファイル」タブで、「レンズプロファイル補正を使用」を選択します。

2. Camera Raw で適切なプロファイルを自動的に見つけることができなかった場合は、「メーカー」、「モデル」、「プロファイル」を選択します。

注意： カメラによってはレンズが1枚のみ、レンズによってはプロファイルが1つのみの場合があります。使用できるレンズは、RAW ファイルを調整しているか、非 RAW ファイルを調整しているかに応じて異なります。サポートされているレンズの一覧表については、サポート文献 [Lens profile support | Lightroom 3, Photoshop CS5, Camera Raw 6](#) を参照してください。カスタムプロファイルを作成するには、[Adobe Lens Profile Creator](#) を使用します。

3. 必要に応じて、プロファイルによって適用された補正をカスタマイズするには、適用量スライダーを使用します。

ゆがみ デフォルト値 100 は、プロファイルのゆがみ補正を 100% 適用します。100 を超える値にするとゆがみ補正量が多くなり、100 より小さい値にすると、ゆがみ補正量が少なくなります。

色収差 デフォルト値 100 は、プロファイルの色収差補正を 100% 適用します。100 を超える値にすると色収差補正量が多くなり、100 より小さい値にすると、色収差補正量が少なくなります。

周辺光量補正 デフォルト値 100 は、プロファイルの周辺光量補正を 100% 適用します。100 を超える値にすると周辺光量補正量が多くなり、100 より小さい値にすると、周辺光量補正量が少なくなります。

4. (オプション) デフォルトのプロファイルに変更を適用するには、設定/レンズプロファイルの新規初期設定を保存を選択します。

イメージの遠近とレンズの欠陥の手動補正

[トップへ戻る](#)

変形と周辺光量補正は、オリジナルとトリミング済みの写真に適用することができます。周辺光量補正では、露光量を調整して画像の暗い四隅を明るくします。

1. Camera Raw ダイアログボックスの「レンズ補正」タブ内にある「手動」タブをクリックします。
2. 「変形」で次の任意の項目を調整します。

ゆがみ 右にドラッグして、中心から外側に湾曲している樽型収差を直線にします。左にドラッグして、中心から内側に湾曲している糸巻き型収差を直線にします。

垂直方向 カメラが上下に傾くことで生じる遠近を補正します。垂直線が並行に表示されます。

水平方向 カメラが左右に曲がることで生じる遠近を補正します。水平線が並行に表示されます。

回転 カメラの傾きを補正します。

拡大・縮小 イメージの拡大/縮小を調整します。遠近やゆがみの補正により生じた空白部分をなくすのに役立ちます。イメージの切り抜き範囲より外にある領域を表示します。

3. 「色収差」で次の任意の項目を調整します。

レッド/シアンフリッジ (R/C) グリーンのチャンネルを基準としてレッドのチャンネルのサイズを調整します。

ブルー/イエローフリッジ (B/Y) グリーンのチャンネルを基準としてブルーのチャンネルのサイズを調整します。

非常に明るいまたは白い背景にある非常に暗いかまたは黒の詳細領域をズームインします。色の付いたフリッジを探します。色の付いたフリッジを明確に表示するには、Alt キー (Windows) または Option キー (Mac OS) を押しながらスライダーを移動して、他の色のスライダーによって補正されたフリッジを隠します。

フリッジ軽減 カラー値の大きな変更も含め、すべてのエッジの色付きのフリッジを修正するには、「すべてのエッジ」を選択します。「すべてのエッジ」を選択すると、エッジ付近に細いグレー線が現れるなどの予期せぬ効果が発生する場合は、「ハイライトエッジ」を選択し、フリッジが最も発生しそうなハイライトのエッジの色の付いたフリッジだけを修正します。フリッジの削除をオフにするには、「オフ」を選択します。

4. 「周辺光量補正」で次の任意の項目を調整します。

適用量 適用量スライダーを右 (正の値) に移動し、写真の四隅を明るくします。適用量スライダーを左 (負の値) に移動し、写真の四隅を暗くします。

中心点 中心点スライダーを左 (低い値) にドラッグし、四隅から離れた広域に適用されるように調整します。中心点スライダーを右 (高い値) にドラッグし、四隅に近い領域に適用範囲を制限します。

Camera Raw 7.1 での色収差の補正

[トップへ戻る](#)

Camera Raw 7.1 には、ブルー - イエローおよびレッド - グリーンのフリッジ (倍率色収差) を自動的に補正するチェックボックスが用意されています。紫 / マゼンタおよびグリーン収差 (軸上色収差) はスライダーコントロールで補正します。軸上色収差は、通常、大口径レンズで撮影された画像で発生します。

レッド - グリーンおよびブルー - イエローのカラーシフトの除去

- レンズ補正パネルの「カラー」タブで「色収差を除去」チェックボックスをオンにします。

写真全体の紫 / マゼンタおよびグリーンของフリンジの除去

レンズ補正パネルの「カラー」タブで紫とグリーンの適用量スライダーを調整します。値を大きくするほど、フリンジ軽減の適用量が増えます。画像内の紫またはグリーンの被写体に影響を与えないように注意してください。

紫の色相またはグリーンの色相スライダーを使用して、適用量スライダーの影響を受けた紫またはグリーンの色相範囲を調整することができます。影響を受ける色の範囲を大きくまたは小さくするには、いずれかのエンドポイントコントロールをドラッグします。色相範囲を移動するには、エンドポイントコントロールの間でドラッグします。エンドポイント間の最小間隔は、10 単位です。草花などのグリーン / イエローの画像カラーを保護できるように、グリーンのスライダーの初期設定の間隔は狭くなっています。

注意： 部分補正ブラシを使用して、紫およびグリーンの被写体のエッジを保護することもできます。

Alt / Option キーを押しながらスライダーをドラッグすると、調整結果が表示されます。ドラッグしてカラーを除去するにつれ、フリンジカラーが中間色になります。

部分的なカラーフリンジの除去

部分ブラシおよびグラデーション調整を使用して、すべての色のフリンジを除去できます。部分的なフリンジ軽減は、プロセスバージョン 2012 でのみ使用できます。

- ブラシまたはグラデーションツールを選択して、画像内をドラッグします。
- フリンジ軽減スライダーを調整します。プラスの値にするとカラーフリンジが除去されます。マイナスの値にすると、画像領域が保護されて、写真全体に適用したフリンジ軽減が適用されなくなります。-100 にすると、フリンジ軽減が一切適用されなくなります。例えば、紫のフリンジ軽減量を大きくして写真全体に適用すると、画像内の紫の被写体の彩度が下がったり、エッジが変わることがあります。その領域をフリンジ軽減量 -100 でペイントすると、それらが保護されて元の色に保たれます。

最良の結果を得るには、部分的なカラーフリンジ調整を適用する前に、変形レンズ補正を実行してください。

 Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

[法律上の注意](#) | [プライバシーポリシー](#)

Camera Raw でのカメラに合わせたカラーレンダリングの調整

カメラプロファイルの適用

初期設定カメラプロファイルの指定

複数の画像に対するプロファイルの適用

カメラプロファイルプリセットの作成

DNG プロファイルエディターによるプロファイルのカスタマイズ

Camera Raw では、サポートするカメラモデル別のカラープロファイルを使用して未加工の画像を処理します。カメラプロファイルは、標準化された照明条件下でカラーターゲットを撮影することによって生成されるものであり、ICC カラープロファイルとは異なります。

ACR バージョン これらのプロファイルは、以前のバージョンの Camera Raw および Lightroom と互換性があります。バージョン番号は、当該プロファイルが初めて登場した時点の Camera Raw バージョンに対応します。ACR プロファイルを使用すると、従来の写真を一貫した方法で扱うことができます。

アドビ標準 標準プロファイルは、従来のアドビカメラプロファイルと比べてカラーレンダリングの特性が格段に向上し、特に赤、黄、オレンジなど暖色系トーンの表現に優れています。

カメラマッチング カメラマッチングプロファイルは、カメラメーカーが設定した特定設定条件下での発色をできるだけ忠実に再現したものです。カメラメーカーから提供されているソフトウェアと同じカラーレンダリングが好都合である場合は、「カメラマッチング」プロファイルを使用します。

アドビ標準プロファイルとカメラマッチングカメラプロファイルは、どちらも、より細かい色調整を行う前の出発点としての使い方を想定したものです。「基本補正」、「トーンカーブ」、「HSL / グレースケール」などの画像調整タブにある色とトーンのコントロールを併用してください。

カメラプロファイルを手動でインストールする場合は、次の場所に置きます。

Windows XP C:\%Documents and Settings%\All Users%\Application Data\Adobe\CameraRaw\CameraProfiles

Windows Vista C:\%ProgramData%\Adobe\CameraRaw\CameraProfiles

Windows 7 C:\%ProgramData%\Adobe\CameraRaw\CameraProfiles

Mac OS /ライブラリ/アプリケーションサポート/Adobe/CameraRaw/CameraProfiles

カメラプロファイルの適用

[トップへ戻る](#)

❖ カメラプロファイルを適用するには、Camera Raw ダイアログボックスの「カメラキャリブレーション」タブにあるカメラプロファイルポップアップメニューで、プロファイルを選択します。

カメラ機種向けアドビ標準プロファイルのプロファイル名には、「アドビ標準」というプレフィックスが付いています。カメラマッチングプロファイルのプロファイル名には、「カメラ」というプレフィックスが付いています。カメラプロファイルポップアップメニューには、お使いのカメラに該当するプロファイルのみ表示されます。

「カメラプロファイル」に表示されるプロファイルが「埋め込み」のみの場合は、TIFF 画像または JPEG 画像が選択されています。アドビ標準プロファイルとカメラマッチングプロファイルは、Camera Raw 画像に対してのみ使用できます。

注意： RAW ファイルを選択しても「アドビ標準」プロファイルと「カメラマッチング」プロファイルがカメラプロファイルポップアップメニューに表示されない場合は、[デジタルカメラ RAW ファイルのサポート](#)ページで最新バージョンの Camera Raw アップデートをダウンロードしてください。

初期設定カメラプロファイルの指定

[トップへ戻る](#)

1. Camera Raw ダイアログボックスの「カメラキャリブレーション」タブにあるカメラプロファイルポップアップメニューで、プロファイルを選択します。
2. Camera Raw 設定メニューボタンをクリックし、メニューから「新規 Camera Raw 初期設定にする」を選択します。

複数の画像に対するプロファイルの適用

[トップへ戻る](#)

1. 適用対象の画像をフィルムストリップで選択します。
2. Camera Raw ダイアログボックスの「カメラキャリブレーション」タブにあるカメラプロファイルポップアップメニューで、プロファイルを選択します。
3. 「同期」ボタンをクリックします。
4. 同期ダイアログボックスで、同期/カメラキャリブレーションを選択し、「OK」をクリックします。

[トップへ戻る](#)

カメラプロファイルプリセットの作成

同じプロファイルを適用することがよくある場合は、プリセットを作成し、それを適用するようにすると効率的です。

1. Camera Raw ダイアログボックスの「カメラキャリブレーション」タブにあるカメラプロファイルポップアップメニューで、プロファイルを選択します。
2. Camera Raw 設定メニューボタン  をクリックし、メニューから「設定を保存」を選択します。
3. 設定を保存ダイアログボックスで、サブセット／カメラキャリブレーションを選択し、「OK」をクリックします。
4. プリセットに名前を付け、「保存」をクリックします。
5. プリセットを複数の画像に適用するには、適用対象の画像を選択し、Camera Raw 設定メニューで、プリセットを適用／プリセット名を選択します。

DNG プロファイルエディターによるプロファイルのカスタマイズ

[トップへ戻る](#)

カラーレンダリングの調整やカメラプロファイルのカスタマイズは、DNG プロファイルエディターというスタンドアロンのユーティリティで実行できます。例えば、プロファイルの色かぶりを修正する場合や、特定の目的（スタジオポートレート、紅葉の景色など）のためにプロファイルのカスタマイズする場合に使用します。

DNG プロファイルエディターとそのドキュメントは、[Adobe Labs](#) で提供されています。

重要： カメラプロファイルを DNG プロファイルエディターで調整する場合、「カメラキャリブレーション」タブの各スライダーは 0 に設定しておいてください。

関連項目



Camera Raw 設定の管理

[画像の状態をスナップショットとして保存](#)
[Camera Raw 設定の保存、リセットおよび読み込み](#)
[Camera Raw 設定の保存場所の指定](#)
[Camera Raw 設定のコピー&ペースト](#)
[保存した Camera Raw 設定の適用](#)
[Camera Raw 設定と DNG プレビューの書き出し](#)
[Camera Raw ワークフローオプションの指定](#)

画像の状態をスナップショットとして保存

[トップへ戻る](#)

画像の状態は、いつでも "スナップショット" を作成することにより記録できます。スナップショットとは、1つの画像を表す情報を、当該スナップショットが作成される時点までに行われたすべての編集処理も含め保存したものです。画像の編集中にいろいろな時点のスナップショットを作成しておく、調整を実行してその効果を簡単に比較できます。また、以前の状態を復元する必要が生じたら、いつでもスナップショットの作成時点に戻すことができます。さらに、画像の元ファイルを複製することなく複数のバージョンに対する作業を実行できるというメリットもあります。

スナップショットの作成と管理は、Camera Raw ダイアログボックスの「スナップショット」タブを使用して行います。

1. スナップショットを作成するには、「スナップショット」タブの下部にある新規スナップショットボタン  をクリックします。
2. 新規スナップショットダイアログボックスで、名前を入力し、「OK」をクリックします。

作成したスナップショットが「スナップショット」タブのリストに表示されます。

スナップショットを操作する場合は、必要に応じて次の操作を行います。

- スナップショットの名前を変更するには、スナップショットを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Mac OS) し、「名前変更」をクリックします。
- 現在の画像設定を特定のスナップショットに変更するには、目的のスナップショットをクリックします。変更に合わせて画像プレビューが更新されます。
- 既存のスナップショットを現在の画像設定で更新 (上書き) するには、スナップショットを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Mac OS) し、「現在の設定で更新」をクリックします。
- スナップショットに対する変更を取り消すには、「キャンセル」をクリックします。

重要： 「キャンセル」をクリックしてスナップショットに対する変更を取り消す際には注意が必要です。同時に、現在の編集セッション中に実行した画像調整操作もすべて取り消されます。

- スナップショットを削除するには、スナップショットを選択し、タブの下部にあるごみ箱ボタン  をクリックします。もしくは、スナップショットを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Mac OS) し、「削除」を選択します。

Photoshop Lightroom で適用したスナップショットが表示され、Camera Raw ダイアログボックスで編集可能になります。同じように、Camera Raw で作成したスナップショットも表示され、Lightroom で編集可能になります。

Camera Raw 設定の保存、リセットおよび読み込み

[トップへ戻る](#)

画像に行った調整は再使用できます。プリセットまたは新しい初期設定として、現在の Camera Raw 画像設定のすべてを保存することも、現在の Camera Raw 画像設定のサブセットを保存することもできます。初期設定は、Camera Raw 環境設定の「初期設定の画像用の設定」セクションの設定に応じて特定のカメラモデル、特定のカメラシリアル番号または特定の ISO 設定に適用されます。

プリセットの名前が表示されるのは、「プリセット」タブ、Adobe Bridge の編集/設定を作成メニュー、Adobe Bridge の Camera Raw 画像のコンテキストメニュー、および Camera Raw ダイアログボックスの Camera Raw 設定メニューのプリセットを適用サブメニューです。Camera Raw 設定フォルダーに保存していない場合は、プリセットがこれらの場所に表示されません。ただし、「設定の読み込み」コマンドを使用して、別の場所に保存した設定を見つけて適用することはできません。

プリセットを保存および削除するには、「プリセット」タブの下にあるボタンを使用します。

❖ ****string not required**** Camera Raw 設定メニューボタン  をクリックし、メニューからいずれかのコマンドを選択します。設定を保存 現在の設定をプリセットとして保存します。プリセットに保存する設定を選択してから、プリセットに名前を付けて保存します。新規 Camera Raw 初期設定にする 現在の設定を、同じカメラ、同じカメラモデルまたは同じ ISO 設定で撮影された他の画像に使用する新しい初期設定として保存します。この初期設定を特定のカメラのシリアル番号に関連付けるか、ISO 設定に関連付けるかを指定するため、Camera Raw 環境設定の「初期設定の画像用の設定」セクションで適切なオプションを選択します。

Camera Raw 初期設定に戻す 現在のカメラ、カメラモデルまたは ISO 設定の元の初期設定を復元します。

設定の読み込み Camera Raw フォーマット変換設定の読み込みダイアログボックスを開き、設定ファイルを探して選択し、「読み込み」をクリックします。

Camera Raw 設定の保存場所の指定

[トップへ戻る](#)

環境設定を選択して、設定を保存する場所を指定します。画像ファイルを移動または保存する予定があり、Camera Raw 設定を維持する必要がある場合は、XMP ファイルを使うと便利です。「設定の書き出し」コマンドを使用して、Camera Raw データベース内の設定をサイドカー XMP ファイルにコピーしたり、Digital Negative (DNG) ファイルに設定を埋め込んだりすることができます。

Camera Raw 画像ファイルを Camera Raw で処理すると、画像の設定は Camera Raw データベースファイルまたはサイドカー XMP ファイルに保存されます。DNG ファイルを Camera Raw で処理する場合、画像の設定は DNG ファイル自体に保存されますが、保存先をサイドカー XMP ファイルにすることもできます。TIFF ファイルと JPEG ファイルに対する設定は、常にそのファイル自体に保存されます。

注意: ****string not required**** After Effects で複数の Camera Raw ファイルを一度に読み込むと、最初のファイルの設定が、それ自身の XMP サイドカーファイルを持たない残りすべてのファイルに適用されます。After Effects では Camera Raw データベースはチェックされません。

環境設定を使用して、設定の保存場所を指定することもできます。Camera Raw 画像を開くと、すべての設定が、前回そのファイルを開いたときに使用された値に初期設定されます。画像属性 (ターゲットカラースペースプロファイル、ビット数、サイズおよび解像度) は、これらの設定と一緒に保存されません。

1. Adobe Bridge で、編集/ Camera Raw 環境設定 (Windows) または Bridge/ Camera Raw 環境設定 (Mac OS) を選択します。または、Camera Raw ダイアログボックスで、環境設定を開くボタン  をクリックします。または、Photoshop で、編集/環境設定/ Camera Raw (Windows) か Photoshop/環境設定/ Camera Raw (Mac OS) を選択します。
2. ****string not required**** Camera Raw 環境設定ダイアログボックスの、画像設定の保存先メニューで次のいずれかを選択します。
Camera Raw データベース 設定を Camera Raw データベースファイルに保存します。通常、Camera Raw データベースファイルは、Document and Settings\%[user name]\Application Data\Adobe\CameraRaw (Windows) またはユーザー/[user name]/ライブラリ/Preferences (Mac OS) に保存します。このデータベースはファイルの内容別にインデックス付けされ、画像ファイルを移動したり名前を変更したりしても、設定は画像とともに残ります。

サイドカー ".XMP" ファイル 設定を、Camera Raw ファイルと同じフォルダーにある別のファイルに保存します。ファイル名は、Camera Raw ファイルと同じ基本名に .xmp 拡張子を付けたものになります。このオプションは、Camera Raw ファイルを関連設定とともに長期にわたってアーカイブする場合、または複数ユーザーによるワークフローで Camera Raw ファイルを関連する設定とともに交換する場合に役立ちます。このサイドカー XMP ファイルには、IPTC (International Press Telecommunications Council) データや他の Camera Raw 画像ファイル関連メタデータを保存できます。CD または DVD などの読み取り専用ボリュームに保存したファイルを開く場合は、ファイルをハードディスクにコピーしてから開いてください。Camera Raw プラグインは読み取り専用ボリュームに XMP ファイルを書き込めないため、Camera Raw データベースファイルに設定が書き込まれます。Adobe Bridge で XMP ファイルを表示するには、表示/隠しファイルを表示を選択します。

重要: リビジョンコントロールシステムを使用してファイルを管理し、サイドカー XMP ファイルに設定を保存している場合は、Camera Raw 画像を変更するときにサイドカーファイルのチェックインおよびチェックアウトを行う必要があります。同様に、XMP サイドカーファイルは Camera Raw ファイルと一緒に管理 (名前変更、移動、削除) する必要があります。ユーザーがファイルをローカルで扱う場合は、Adobe Bridge、Photoshop、After Effects および Camera Raw によってこのファイル同期が処理されます。

Camera Raw 設定を Camera Raw データベースに保存し、後でファイルを別の場所 (CD、DVD、他のコンピューターなど) に移動する場合は、「設定を XMP に書き出し」コマンドを使用して、設定をサイドカー XMP ファイルに書き出すことができます。

3. DNG ファイルに対するすべての調整を DNG 自体に保存する場合は、Camera Raw 環境設定ダイアログボックスの「DNG ファイル管理」セクションで「サイドカー ".xmp" ファイルを無視」を選択します。

Camera Raw 設定のコピー & ペースト

[トップへ戻る](#)

Adobe Bridge では、ある画像ファイルから別の画像ファイルに Camera Raw 設定をコピー & ペーストできます。

1. Adobe Bridge で、ファイルを選択して編集/設定を作成/ Camera Raw 設定をコピーを選択します。
2. ファイルを選択し、編集/設定を作成/ Camera Raw 設定をペーストを選択します。
画像ファイルを右クリック (Windows) または Control キーを押しながらクリック (Mac OS) して、コンテキストメニューを使用してコピー & ペーストすることもできます。
3. ****string not required**** Camera Raw 設定をペーストダイアログボックスで、適用する設定を選択します。

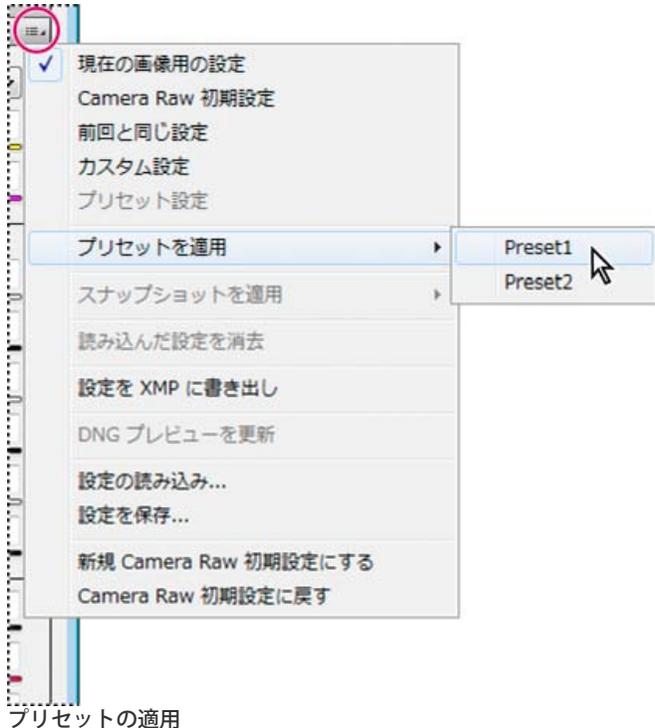
保存した Camera Raw 設定の適用

[トップへ戻る](#)

1. Adobe Bridge または Camera Raw ダイアログボックスでファイルを選択します。
2. Adobe Bridge で、編集/設定を作成を選択するか、選択したファイルを右クリックします。または、Camera Raw ダイアログボックスで Camera Raw 設定メニュー  をクリックします。
3. 次のいずれかの操作を行います。
現在の画像用の設定 選択した Camera Raw 画像の設定を使用します。このオプションは、Camera Raw ダイアログボックスの Camera Raw 設定メニューからのみ使用できます。

Camera Raw 初期設定 特定のカメラ、特定のカメラモデルまたは特定の ISO 設定の、保存されている初期設定を使用します。

前回と同じ設定 同じカメラ、同じカメラモデルまたは同じ ISO 設定の、前の画像で使用された設定を使用します。
プリセット名 プリセットとして保存されている設定（これはすべての画像設定のサブセットにできます）を使用します。



注意： 「プリセット」タブのプリセットを適用することもできます。

Camera Raw 設定と DNG プレビューの書き出し

[トップへ戻る](#)

ファイル設定を Camera Raw データベースに保存している場合は、「設定を XMP に書き出し」コマンドを使用して、設定をサイドカー XMP ファイルにコピーしたり、DNG ファイルに埋め込んだりすることができます。これを利用すると、Camera Raw ファイルを移動するときに、Camera Raw ファイルと一緒に画像設定を保持できます。

DNG ファイルに埋め込まれた JPEG プレビューを更新することもできます。

1. Camera Raw ダイアログボックスでファイルを開きます。
2. 複数のファイルの設定またはプレビューを書き出す場合は、フィルムストリップビューでそれらのサムネールを選択します。
3. ****string not required****Camera Raw 設定メニュー  で、「設定を XMP に書き出し」または「DNG プレビューを更新」を選択します。

Camera Raw 画像ファイルと同じフォルダーに、サイドカー XMP ファイルが作成されます。Camera Raw 画像ファイルを DNG 形式で保存した場合、設定は DNG ファイル自体に埋め込まれます。

Camera Raw ワークフローオプションの指定

[トップへ戻る](#)

ワークフローオプションでは、Camera Raw からのすべてのファイル出力に関する設定を指定します。これにはカラービット数、カラースペース、出力シャープ処理およびピクセル寸法が含まれます。ワークフローオプションは、これらのファイルが Photoshop でどのように開かれるかに影響しますが、After Effects で Camera Raw ファイルがどのように読み込まれるかには影響しません。ワークフローオプションの設定は、Camera Raw データ自体には影響しません。

ワークフローオプションを指定するには、Camera Raw ダイアログボックスの下部に下線付きで表示されたテキストをクリックします。

カラースペース ターゲットカラープロファイルを指定します。一般には、Photoshop RGB 作業用スペースに使用するカラープロファイルに設定します。Camera Raw 画像ファイル用のソースプロファイルは、通常はカメラの既定のカラースペースです。カラースペースメニューに表示されるプロパティは、Camera Raw に組み込まれています。カラースペースメニューに一覧表示されていないカラースペースを使用するには、ProPhoto RGB を選択し、その後 Photoshop でファイルを開くときに目的の作業用スペースに変換します。

ビット数 Photoshop でファイルを 8 bit/チャンネルまたは 16 bit/チャンネルの画像のどちらで開くかを指定します。

サイズ Photoshop に読み込まれるときの画像のピクセル寸法を指定します。初期設定のピクセル寸法は、画像を撮影したときのピクセル寸法です。画像の再サンプリングを行うには、サイズメニューを使用します。

正方形ピクセルカメラの場合、画像を縮小して使用するときは、元の画像のサイズより小さいサイズを選択すると処理を速くできます。元のサイズより大きいサイズを選択すると、Photoshop でアップサンプリングを行う場合と同様の結果になります。

非正方形ピクセルカメラの場合、総ピクセル数を最も厳密に維持するのが元の画像のサイズです。異なるサイズを選択すると、Camera Raw で実行する再サンプリング処理が最小限で済み、画質が若干向上します。画質が最良になるサイズは、サイズメニューにアスタリスク (*) でマークされま

す。

注意： 画像のピクセルサイズは、Photoshop で開いた後にはいつでも変更できます。

解像度 画像がプリントされる解像度を指定します。この設定はピクセル寸法には影響しません。例えば、2048 x 1536 ピクセルの画像は、72 dpi で約 28 1/2 インチ x 21 1/4 インチ (723.9 mm x 539.75 mm) でプリントされます。300 dpi の場合は、同じ画像が約 6 3/4 インチ x 5 1/8 インチ (171.45 mm x 130.175 mm) の大きさでプリントされます。解像度は、Photoshop で「画像解像度」コマンドを使用して調整することもできます。

シャープの適用先 「画面」、「マット紙」または「光沢紙」のいずれかを指定し、この出力先メディアに適した出力シャープ処理を適用します。出力シャープ処理を適用する場合、適用量ポップアップメニューで「低」または「高」を選択すると、シャープを適用する強さを増減できます。ほとんどの場合、適用量は初期設定の「標準」で問題ありません。

Photoshop でスマートオブジェクトとして開く 「開く」ボタンをクリックすると、Camera Raw 画像が Photoshop で背景レイヤーではなくスマートオブジェクトレイヤーとして開くようになります。選択した画像に対してこの環境設定を上書きするには、Shift キーを押しながら「開く」ボタンをクリックします。



Camera Raw での周辺光量補正および粒子効果

フィルム粒状感のシミュレーション 切り抜き後のビネットの適用

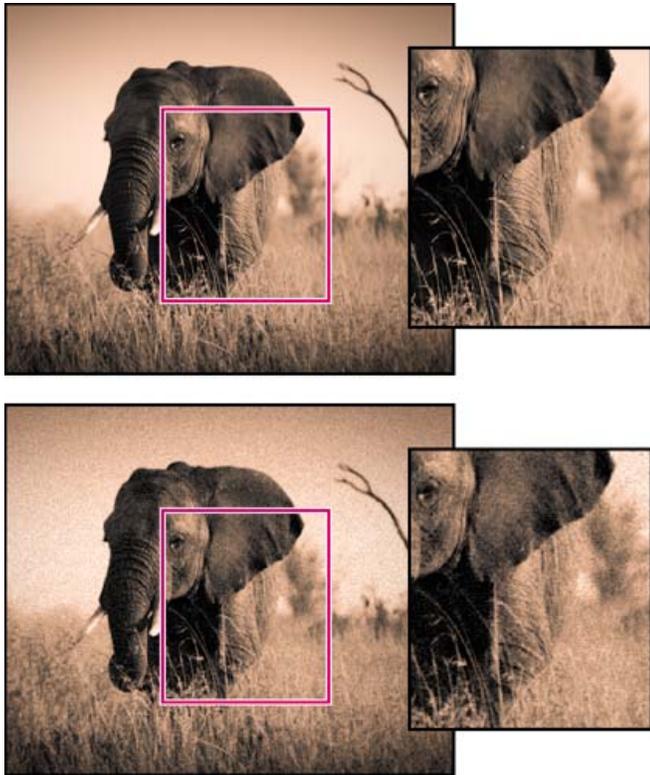
フィルム粒状感のシミュレーション

[トップへ戻る](#)

「効果」タブの「粒子」セクションには、特定のフィルムストックを連想させるスタイリッシュな効果を生み出すことができる、フィルム粒状感をシミュレーションするためのコントロールがあります。また、大判プリントを作成する場合、粒状フィルム効果を使用して、拡大による斑点を隠すこともできます。

サイズコントロールと粗さコントロールを組み合わせ、粒子の特性を設定します。ズームレベルを変えて粒状感を確認し、特性が狙いどおりに表現されるようにします。

Camera Raw での粒状フィルム効果の使用に関するビデオチュートリアルについては、Matt Kloskowski による [The new Grain feature in CS5](#) または Dan Moughamian による [Black and white film grain in Photoshop and Lightroom](#) を参照してください。



粒状フィルム効果未適用（上）、粒状フィルム効果適用（下）

適用量 画像に適用する粒子の量を指定します。右にドラッグすると、増量されます。ゼロに設定すると、粒状感は無効になります。

サイズ 粒子のサイズを指定します。サイズを 25 以上にした場合、画像はややぼやけた印象になる可能性があります。

粗さ 粒子の規則性を設定します。左にドラッグするとより均一な粒状感が得られ、右にドラッグするとより不規則な粒状になります。

切り抜き後のビネットの適用

[トップへ戻る](#)

画像の切り抜き後の画像を周辺光量補正してアーティスティックな効果を出すには、切り抜き後の周辺光量補正機能を使用します。

Camera Raw での切り抜き後のビネットの適用に関するビデオチュートリアルについては、Matt Kloskowski による [Vignetting in Camera Raw CS5](#) を参照してください。

1. 画像を切り抜きます。*string not required*画像の切り抜きを参照してください。

2. 「効果」タブの「切り抜き後の周辺光量補正」領域で、スタイルを選択します。

ハイライト優先 ハイライトのコントラストを保護しながら切り抜き後の周辺光量補正を適用しますが、画像の暗い部分で色ずれが起きる可能性があります。重要なハイライト領域がある画像に適しています。

カラー優先 色相を維持しながら切り抜き後の周辺光量補正を適用しますが、明るいハイライト部分でディテールが失われる可能性があります。

す。

オーバーレイをペイント 元画像の色と黒または白とをブレンドすることで、切り抜き後の周辺光量補正を適用します。ソフトな効果が必要なときに適していますが、ハイライトのコントラストは弱くなる可能性があります。

3. 次のいずれかのスライダーを調整して、効果を微調整します。

適用量 正の値を適用すると四隅が明るくなり、負の値を適用すると四隅が暗くなります。

中心点 値を上げると、調整が適用される範囲が四隅により近い領域に限定されます。値を下げると、四隅からより離れた広い領域に調整が適用されます。

丸み 正の値を適用すると効果の形が真円に近くなり、負の値を適用すると切り抜いた形状に近くなります。

ぼかし 値を上げると、効果と周辺ピクセルの間のぼかしが多くなります。値を下げると、効果と周辺ピクセルの間のぼかしが少なくなります。

ハイライト (適用量の値が負の場合にハイライト優先またはカラー優先効果に適用) 街灯の明かりやその他の明るい光源など、画像の明るい領域でのハイライトの強さを指定します。

